志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

— 県営半島基幹農道整備事業(草野2期地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

浜場遺跡
下堀遺跡

(草野2期)

2009年2月

鹿児島県志布志市教育委員会

浜場遺跡　遠景

序　　文

本市には多くの文化財が存在し、埋蔵文化財の包蔵地についても前川・安楽川・菱田川を中心に５００ヵ所を超える多数の遺跡が確認されています。特に前川・安楽川沿いに縄文時代の遺跡が多いことから「縄文銀座」と称されるほどです。また一方で、志布志は古くから港町として栄え、交易の拠点、交通の要衝として繁栄し、麓地区には多くの武家庭園・寺院庭園が遺されています。これらの庭園のうち、天水氏庭園・平山氏庭園・福山氏庭園は「志布志麓庭園」として国指定名勝となり、鳥濱氏庭園と清水氏庭園は国登録名勝となっています。さらに、志布志をめぐる興亡の歴史を示す中世山城の志布志城跡も国指定史跡に指定されています。

この報告書は、志布志市教育委員会が主体となって、平成１９年度において確認調査・全面調査を行った成果をまとめたものであります。

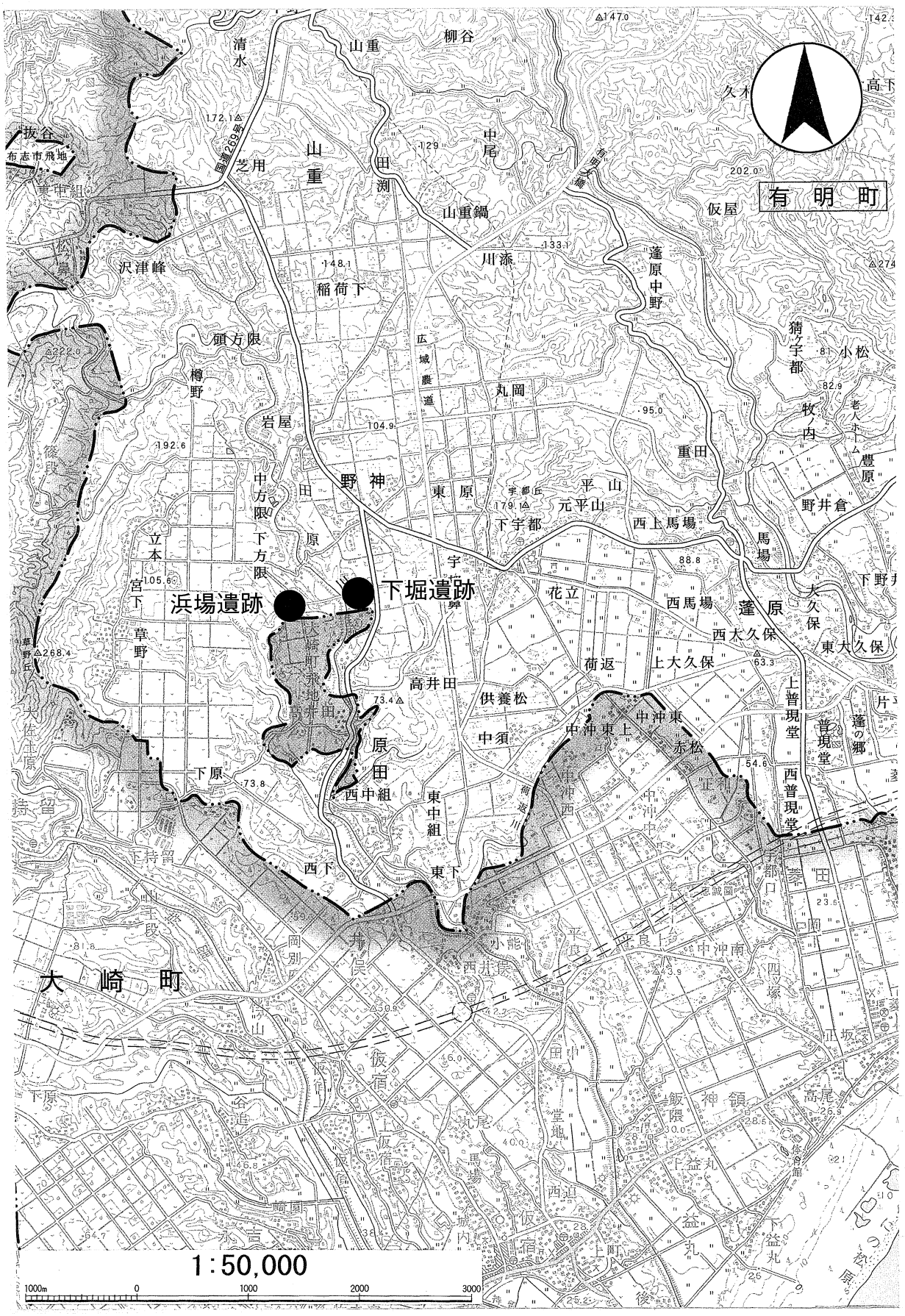
調査の結果、下堀遺跡からは遺物・遺構は確認されませんでしたが、浜場遺跡からは主に縄文時代早期、古墳時代の遺物・遺構が確認されています。

この発掘調査の成果が、今後の研究資料として活用されるとともに、広く文化財愛護思想の啓発普及等、地域の文化財として活用され、文化財に対する理解を一層深めることが出来ればと願っております。

最後に、発掘調査に従事していただいた住民の方々をはじめ、現場における調査から出土資料の整理・報告書の刊行に至るまでご指導・ご協力いただきました県教育委員会文化財課をはじめとする各関係機関、その他、多くの先生方並びに関係者の方々に深く感謝申し上げ、刊行の序文といたします。

平成２１年２月吉日

志布志市教育委員会
教育長　坪 田 勝 秀



浜場遺跡・下堀遺跡の位置

例　　言

1　本報告書は、半島基幹農道整備事業　草野２期地区の事業実施に伴い志布志市教育委員会が実施した発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、鹿児島県農政部の委託を受けて志布志市教育委員会が実施した。

3　浜場遺跡の調査は、確認調査・全面調査を平成 19 年度に行った。下堀遺跡の調査は確認調査のみ平成 19 年度に行った。整理作業・報告書作成は平成 20 年度に行い、鹿児島県教育庁文化財課及び鹿児島県立埋蔵文化財センターに指導・助言を得た。

4　挿図の縮尺は、各図面に示した。

5　発掘調査における写真撮影は出口順一朗（志布志市教育委員会）が行い、遺構図面の作成は川ノ上真理・安野美子・山元弓枝（志布志市教育委員会）が行い、一部遺構実測を㈱埋蔵文化財サポートシステム鹿児島支店に委託した。なお、遺跡周辺地形の空中写真撮影はふじた航空写真に委託した。

6　発掘作業の実施にあたっては、周辺地権者のご理解と地元作業員のご協力により円滑に行うことができた。

7　整理作業を川ノ上真理、安野美子、山元弓枝（志布志市教育委員会）で行った。

8　本調査では自然科学分析として樹種同定、放射性炭素年代測定（AMS 法）を株式会社古環境研究所に委託し分析結果を第Ⅵ章に掲載した。

9　本報告書の執筆・編集は出口が行った。

１０　本報告書に用いた地図は旧有明町及び志布志市所有のものを使用した。

１１　発掘調査・整理作業並びに報告書作成に際しては、以下の方々にご指導・ご教示を得た。記して感謝を申し上げたい。
池畑耕一　彌榮久志　中村耕治　長野眞一　青﨑和憲　吉岡康弘（以上　鹿児島県立埋蔵文化財センター）　堂込秀人（鹿児島県教育庁文化財課）　中村直子（鹿児島大学）　小村美義　相美伊久雄　大窪祥晃（以上　志布志市教育委員会）

１２　出土遺物の管理・保管は志布志市教育委員会で一括して取り扱い、今後文化財の啓発・普及に活用したい。

凡　　例

1　本報告書に用いたレベル数値は、鹿児島県農政部が提示した事業実施計画図面の数値に基づくものである。

2　本報告書の土色・土器の色調について、数字及び英字で表記されているものは、農林水産省農林水産技術会議事務局･財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖　2001年版」に準じて表記している。

3　遺物番号・各遺構番号は全て通し番号とし、本文及び挿図・図版中の番号と一致する。

4　周辺遺跡一覧に表記してある番号は「周知の埋蔵文化財包蔵地」として登録されている遺跡番号と対応する。

5　浜場遺跡の確認調査遺物の遺跡名表記は「ハマバ　草２　確」、全面調査遺物の遺跡名表記は「ハマバ　草２」である。注記の略号はSK＝土坑、T＝トレンチ、ヒョウサイ＝表面採集を用いている。

6　平板による遺物取上げを行った包含層遺物は便宜的に用いた調査区（例　１－１区、１－２区等）で出土位置を注記している。

7　遺構の長軸方位は南北方位では北を、東西方位では西を基調にして文章中で表現している。また、文章中にある遺構の方位の解釈は以下のとおりである。

例）　Ｎ６°Ｅ　→　北から東方向に６°ずれる

8　図面上にある遺物マークについては、下記のとおりに分類した。

縄文早期土器	×	成川式土器	△	土師器	▲
須恵器	☆	近世陶器	◆	石器	◎
石	○	焼石	●	炭	・

9　図中の方位は一部で磁北を使用している。磁北の場合は「ＭＮ」と標記している。

１０　土器観察表中に表記してある胎土の分類については、肉眼観察によるものである。胎土の分類標記は下記の略号を用いている。

「石・長」→石英・長石　　「雲」→雲母　　「角・輝」→角閃石・輝石

「礫」→小礫　　「赤」→赤褐色粒　　「砂」→砂粒

なお、「小礫」については直径２㎜以上の粒状のもの、「砂粒」については直径２㎜未満の粒状のものを指す。

浜場遺跡・下堀遺跡　埋蔵文化財発掘調査報告書　目次

巻頭カラー図版
序文
浜場遺跡・下堀遺跡の位置
例言・凡例

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過……1
　第１節　調査に至る経緯
　第２節　調査の組織

第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境……3
　第１節　志布志市の概要
　第２節　地形的環境の概要
　第３節　遺跡周辺の歴史的環境

第Ⅲ章　浜場遺跡　試掘調査の概要……7
　第１節　試掘調査の方法
　第２節　試掘調査の概要

第Ⅳ章　浜場遺跡　確認調査の概要……8
　第１節　確認調査の方法
　第２節　層位
　第３節　確認調査の概要
　第４節　出土遺物

第Ⅴ章　浜場遺跡　全面調査の概要……13
　第１節　全面調査の方法
　第２節　全面調査の概要
　第３節　浜場遺跡　層位
　第４節　発掘調査の成果
　　１　縄文時代早期の調査
　　２　古墳時代の調査
　　３　その他

第Ⅵ章　浜場遺跡における自然科学分析……68
　第１節　土坑２出土の炭化材分析
　第２節　土坑３出土の炭化材分析

第Ⅶ章　下堀遺跡　確認調査の概要……74
　第１節　確認調査の方法
　第２節　層位
　第３節　確認調査の概要

第Ⅷ章　浜場遺跡・下堀遺跡　調査のまとめ……76
　第１節　浜場遺跡　遺物
　第２節　浜場遺跡　遺構
　第３節　下堀遺跡　まとめ

報告書抄録

挿　図

第Ⅱ章
第１図　浜場遺跡・下堀遺跡　周辺地形図……3
第２図　浜場遺跡・下堀遺跡　周辺遺跡位置図……5

第Ⅲ章
第３図　浜場遺跡　試掘調査　トレンチ位置図……7

第Ⅳ章
第４図　浜場遺跡　確認調査　出土遺物……9
第５図　浜場遺跡　確認調査　トレンチ位置図
　及び土層柱状図……11
第６図　浜場遺跡　遺跡範囲図……12

第Ⅴ章
第７図　浜場遺跡　調査区範囲図……13
第８図　浜場遺跡　グリッド設定図……14
第９図　浜場遺跡　遺物出土状況　全体図……15
第１０図　浜場遺跡　１－１・３区　Ⅸ－ｄ層上面
　遺構検出状況図……17
第１１図　浜場遺跡　３区　Ⅸ－ｄ層上面　遺構検出状況図…18
第１２図　浜場遺跡　集石１　平面・断面図……19
第１３図　浜場遺跡　集石２　平面・断面図……20
第１４図　浜場遺跡　集石３・４　平面・断面図……20
第１５図　浜場遺跡　集石１・２・３・４及び
　炭化物集中地点１・２・３・４　遺構配置図……21
第１６図　浜場遺跡　Ⅸ－ｂ層上面　集石及び炭化物集中地点
　配置及び石器・礫・焼石出土状況図……22
第１７図　浜場遺跡　炭化物集中地点５　遺構配置図……26
第１８図　浜場遺跡　炭化物集中地点２・３　平面・断面図…27
第１９図　浜場遺跡　炭化物集中地点１　平面・断面図……28
第２０図　浜場遺跡　縄文時代早期土器
　遺物出土状況　全体図……30
第２１図　浜場遺跡　縄文時代早期土器　１……34
第２２図　浜場遺跡　縄文時代早期土器　２……35
第２３図　浜場遺跡　縄文時代早期土器　３……36
第２４図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土
　石器出土状況　全体図……37
第２５図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器　１……38
第２６図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器　２……39
第２７図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器　３……40
第２８図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器　４……41
第２９図　浜場遺跡　掘立柱建物１　平面・断面図……46
第３０図　浜場遺跡　１区　Ⅷ層上面　遺構検出状況図……47
第３１図　浜場遺跡　２区　Ⅷ層上面　遺構検出状況図……48
第３２図　浜場遺跡　３区　Ⅷ層上面　遺構検出状況図……49
第３３図　浜場遺跡　溝１　全体図……50
第３４図　浜場遺跡　溝１　平面・断面図　１……51
第３５図　浜場遺跡　溝１　平面・断面図　２
　（硬化面除去後）……52
第３６図　浜場遺跡　溝１　平面・断面図　３
　（１・２Ｔ部分）……53
第３７図　浜場遺跡　溝１　平面・断面図　４
　（２・３・４・５Ｔ部分）……54
第３８図　浜場遺跡　溝１　平面・断面図　５
　（５・６・７Ｔ部分）……55
第３９図　浜場遺跡　溝１　平面・断面図　６
　（７・８・９Ｔ部分）……56
第４０図　浜場遺跡　溝１　遺物出土状況図……57
第４１図　浜場遺跡　土坑２・３・４　遺構配置図……58
第４２図　浜場遺跡　土坑２　平面・断面図……59
第４３図　浜場遺跡　土坑３・４　平面・断面図……60
第４４図　浜場遺跡　成川式土器　遺物出土状況全体図……62
第４５図　浜場遺跡　成川式土器……63
第４６図　浜場遺跡　成川式土器・土師器・須恵器・石器・
　近世陶器・現代遺物……64

第Ⅶ章
第４７図　下堀遺跡　確認調査　トレンチ位置図
　及び土層柱状図……75

表

第Ⅱ章
第１表　浜場遺跡・下堀遺跡　周辺遺跡一覧……６

第Ⅳ章
第２表　浜場遺跡　確認調査　Ⅸ－ａ・Ⅸ－ｂ層出土
土器観察表……10
第３表　浜場遺跡　試掘調査・確認調査　Ⅲ層出土
土器観察表……10
第４表　浜場遺跡　確認調査　表土採集土器観察表……10

第Ⅴ章
第５表　１－１・３区　Ⅸ－ｄ層上面検出
柱穴計測表……17
第６表　３区　Ⅸ－ｄ層上面検出　柱穴計測表……17
第７表　浜場遺跡　集石１　出土礫計測表（１）……23
第８表　浜場遺跡　集石１　出土礫計測表（２）……24
第９表　浜場遺跡　集石２　出土礫計測表（１）……24
第１０表　浜場遺跡　集石２　出土礫計測表（２）……25
第１１表　浜場遺跡　集石３　出土礫計測表……25
第１２表　浜場遺跡　集石４　出土礫計測表……25
第１３表　浜場遺跡　縄文早期土器観察表（１）……43
第１４表　浜場遺跡　縄文早期土器観察表（２）……44
第１５表　浜場遺跡　縄文早期土器観察表（３）……45
第１６表　浜場遺跡　第Ⅹ群　縄文早期土器表……45
第１７表　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器観察表……45
第１８表　１区　Ⅷ層上面検出　柱穴計測表……48
第１９表　２区　Ⅷ層上面検出　柱穴計測表……48
第２０表　３区　Ⅷ層上面検出　柱穴計測表……48
第２１表　浜場遺跡　掘立柱建物１　計測表……49
第２２表　浜場遺跡　溝１出土　土器観察表……57
第２３表　浜場遺跡　Ⅳ層上面検出土坑　計測表……59
第２４表　浜場遺跡　成川式土器観察表（１）……66
第２５表　浜場遺跡　成川式土器観察表（２）……67
第２６表　浜場遺跡　Ⅲ層出土　異形土器観察表……67
第２７表　浜場遺跡　土師器・須恵器　土器観察表……67
第２８表　浜場遺跡　Ⅲ層出土　石器計測表……67
第２９表　浜場遺跡　近世陶器　土器観察表……67
第３０表　浜場遺跡　現代遺物観察表……67

写　真

第Ⅵ章
写真１　浜場遺跡の炭化材……73

図　版

図版１　浜場遺跡　試掘調査　浜場遺跡・下堀遺跡　確認調査
図版２　浜場遺跡　集石
図版３　浜場遺跡　溝１
図版４　浜場遺跡　掘立柱建物・土坑
図版５　浜場遺跡　遺物出土状況・土層断面
図版６　浜場遺跡　縄文早期土器（Ⅰ～Ⅵ群）
図版７　浜場遺跡　縄文早期土器（Ⅶ～Ⅸ群）
図版８　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器
図版９　浜場遺跡　成川式土器
図版１０　浜場遺跡　成川式土器・土師器・須恵器・石器
近世陶器・現代遺物

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

鹿児島県農政部農地建設課及び農地整備課（大隅地域振興局農林水産部曽於支所、以下「県農整課」）は、草野２期地区において半島基幹農道整備事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財包蔵地の有無について鹿児島県教育委員会文化財課（以下「県文化財課」）に照会した。

これを受けて鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」）と有明町教育委員会社会教育課（当時　現「志布志市教育委員会生涯学習課文化財管理室」）が平成 16 年３月に埋蔵文化財分布調査を実施したところ、事業区内に遺物散布地として、浜場遺跡が存在することが判明した。

この分布調査の結果をもとに県農整課、県文化財課、志布志市教育委員会文化振興課（当時　以下「市文化振興課」　現「志布志市教育委員会生涯学習課文化財管理室」）は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るため協議を行った結果、事業着手前に埋蔵文化財確認調査（以下「確認調査」）を実施することとなった。確認調査は県文化財課の指導・助言を受けて、志布志市教育委員会（以下「市教育委員会」）が調査主体となり、平成 19 年７月 17 日から８月 16 日にかけて実施した。確認調査の結果、浜場遺跡において事業対象区域内に縄文時代早期・古墳時代の遺物包含層が存在することが判明した。

この結果を受けて、遺跡の取扱いについて県農整課、県文化財課、市文化振興課で協議を行い、農道整備事業の推進にあたって遺跡の現状保存は困難であると判断されたため、平成 19 年 11 月 19 日から平成 20 年３月７日にかけて埋蔵文化財が存在する範囲の全面発掘調査を実施することとなった。

第２節　調査の組織

〔確認調査・全面調査〕　平成１９年度

調査主体者	志布志市教育委員会		
調査責任者	〃	教育長	坪田勝秀
調査事務局	〃	教育次長	上村和憲
	〃	文化振興課長	米元史郎
	〃	文化振興課長補佐	森重晃一
	〃	文化財係長	小村美義
	〃	主査	出口順一朗
	〃	主査	大窪祥晃
	〃	主事	松元友美
	〃	主事補	上集一樹
調査担当者	志布志市教育委員会	主査	出口順一朗

遺物指導　鹿児島大学　埋蔵文化財調査室　准教授　　中村直子

〔確認調査作業員〕
大迫　亨　小平光子　鈴木絹枝　田迫チヅ　谷口チエ　谷口モギ　田渕孝夫
長竹健次　鍋　サチ　萩迫ユミ　村久木マサ子　持永ハツ子　用皆サダ子
（以上　社団法人志布志市シルバー人材センター）

〔全面調査作業員〕
有馬タエ　井之上徳満　大迫　亨　岡村エチ子　片山スズエ　桑畑　弘　小平光子
重永ヒデ　鈴木絹枝　園田信夫　嶽タエ子　田迫チヅ　田渕孝夫　谷口モギ　長竹健次
鍋　サチ　前田寛明　村久木マサ子　森　勇　森山敬子　山中善次郎　山脇八重子
吉満　孝　用皆サダ子　吉井弘子
（以上　社団法人志布志市シルバー人材センター）

〔報告書作成〕　平成２０年度

組織再編に伴い、文化振興課と生涯学習課の統合により、文化振興課文化財係を生涯学習課に移管し、生涯学習課に文化財管理室を置く。

調査主体者	志布志市教育委員会		
調査責任者	〃	教育長	坪田勝秀
調査事務局	〃	生涯学習課長	小辻一海
	〃	文化財管理監	米元史郎
	〃	文化財管理室長	竹田孝志
	〃	埋蔵文化財係長	小村美義
	〃	主任主査	出口順一朗
	〃	主査	大窪祥晃
	〃	主事補	相美伊久雄
	〃	主事補	上集一樹
調査担当者	志布志市教育委員会	主任主査	出口順一朗

報告書作成・整理作業従事者
川ノ上真理　安野美子　山元弓枝（市生涯学習課文化財管理室臨時職員）
遺物注記・接合・復元　川ノ上真理　安野美子　山元弓枝
遺物実測・トレース　安野美子　山元弓枝
遺物拓本　安野美子
遺物撮影　吉岡康弘（県立埋蔵文化財センター）
出口順一朗
遺物撮影補助　山元弓枝（市生涯学習課文化財管理室臨時職員）
石器実測委託従事者
高橋　亨　藤山聖子　小野田真子　森口美佐　池ノ上智美
（以上　㈱埋蔵文化財サポートシステム鹿児島支店）

第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境

第１節　志布志市の概要

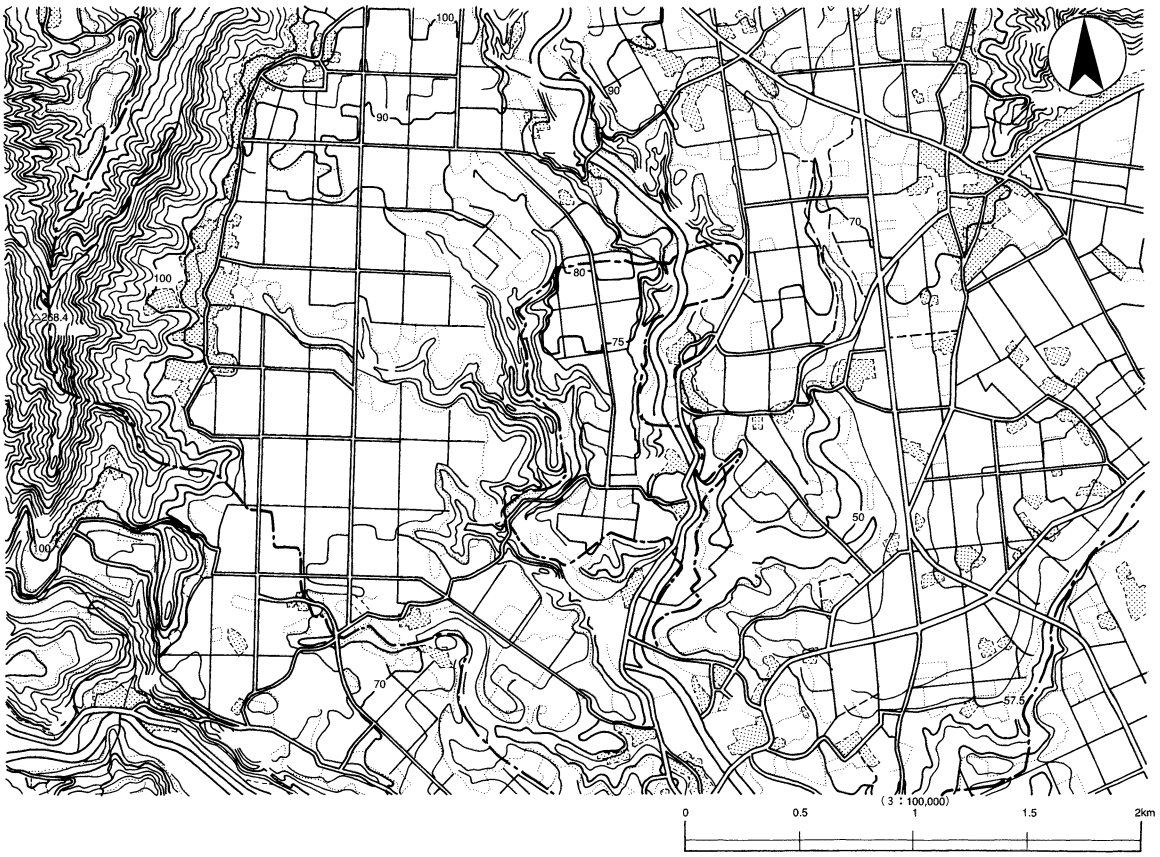
志布志市は鹿児島県大隅半島の東部、志布志湾奥のほぼ中央に位置し、東部は宮崎県串間市、西部は大崎町、北部は曽於市と境をなしその一部は宮崎県都城市と接している。東西に約 23 km、南北に 18 kmの扇形の区域をなし、総面積は 290 km^{2}であり、大崎町内に 1.02 km^{2}の飛地を有している。

南部の志布志湾沿岸部一帯は、昭和 30 年６月１日、日南海岸国定公園の一部として指定された沖合約４kmの志布志湾のほぼ中央に浮かぶ枇榔島（周囲４km　面積 17.8ha）は亜熱帯性植物群落が国の特別天然記念物に指定されている。市の気候は温暖多湿な土地であり、緯度からみれば亜熱帯に近い暖帯の位置にあり、夏から秋にかけて台風の襲来と豪雨による多雨地帯でもある。

第２節　地形的環境の概要

市周辺の地形は、全体として志布志湾に向かって緩やかな勾配となっており、平野部が極端に少なく、標高 100ｍのあたりから大きく南部の台地と北部の山岳・丘陵地帯に二分される。

南部の台地は安楽川・菱田川・田原川・肝属川などの緒川によって開析される標高約 20～100ｍの火山噴出物の台地（シラス台地）が広がり、「原（ばる）」と表現される、比較的平坦な台地が見られる。この台地を南北に貫流する河川に菱田川があり、この沿岸に河岸段丘が形成されている。この河岸段丘は三段階の段丘に大別され、第三段丘面は明治から昭和にかけて先人たちの開墾による野井倉



第１図　浜場遺跡・下堀遺跡　周辺地形図

開田・蓬原開田が拓がり、広域に跨る稲作地帯となっている。

北部から東部にかけては標高 100mのあたりから山岳地帯となり、宮田山（標高 520m）をはじめ、霧岳（標高 408m)、御在所岳（標高 530m）などの山岳・丘陵地帯が広がる地域で、中世層を基盤として準平原化の後、周囲の台地が形成されたものといわれ、山地の開析は相当に進み、火山灰台地面を除いてほとんど平坦を残していないため、起伏の多い丘陵が連なっている。そのため山岳・丘陵地帯の集落はこれまで谷間に点在していた。台地上においては地下水位がシラス下部の深い位置にあり、第三段丘面は集落等の形成が困難で開田以前まではほとんど利用されず、シラス下部あるいは降下軽石層を流動する浅層地下水の露頭される段丘面の末端(崖脚)からの自然湧水の有無が集落立地の重要な因子であった。なお、市の総面積の約 55.0%は山林で占められ、耕地の占める割合は約 23.6%となっている。

浜場遺跡・下堀遺跡は市南部の火山灰台地の田原川沿いの台地上にあり、この台地は菱田川西岸の第三段丘面の一部にあたる通称「野神原（のがんばる)」の西端部（標高約 80m）に立地する。

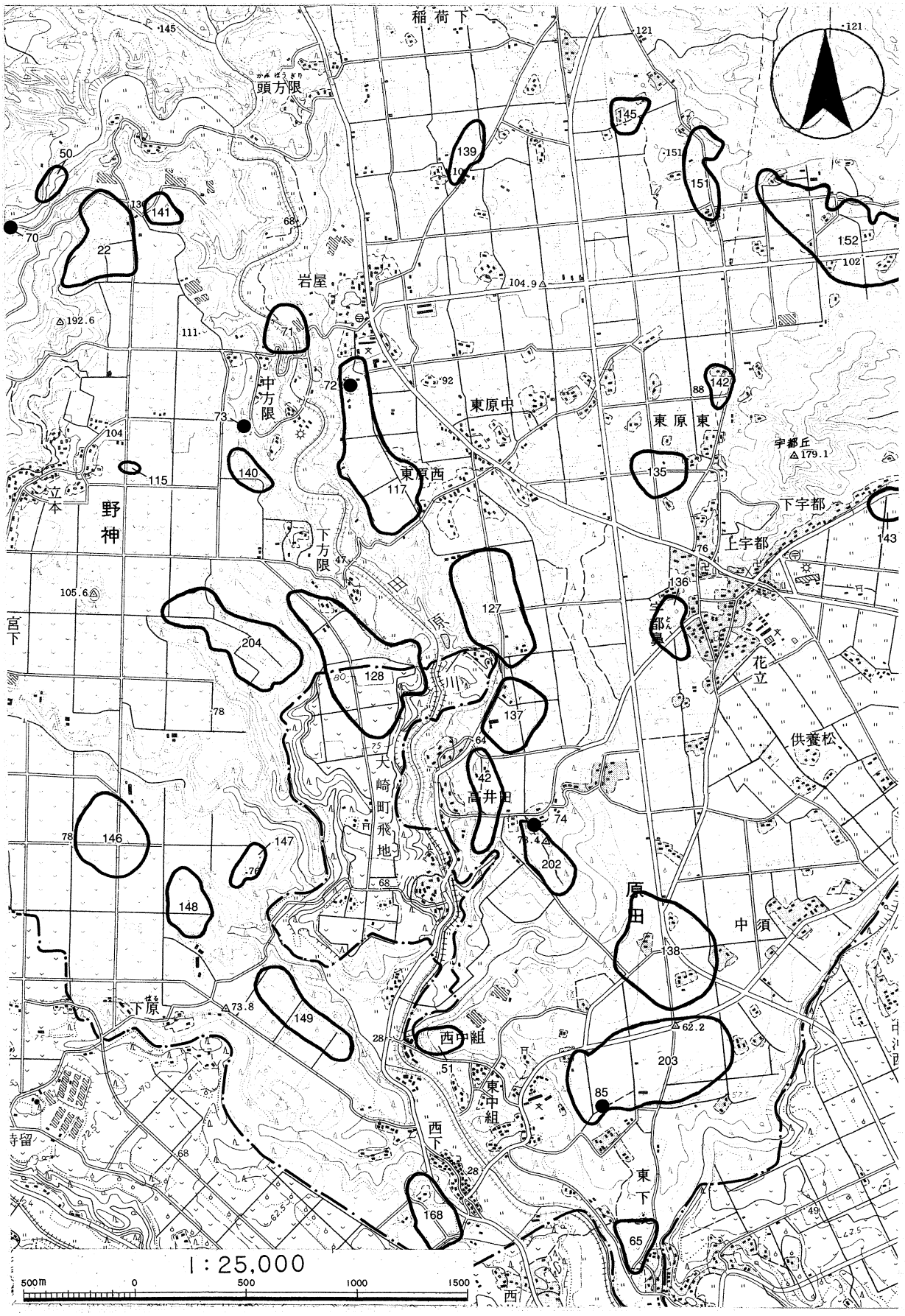
第３節　遺跡周辺の歴史的環境

浜場遺跡・下堀遺跡の周辺には複数の遺跡及び古墳群が存在する。(第２図)

平成 14 年度に同遺跡の隣接地を、同事業の農道整備事業が起因となる埋蔵文化財全面調査が実施された。この調査では下堀遺跡〔127〕において前平式、吉田式、倉園Ｂ式、石坂式、下剥峯式、桑ノ丸式、手向山式、塞ノ神式、右京西式土器の縄文時代早期前葉から後葉にかけての土器及び集石等の遺構、弥生時代早期の刻目突帯文土器等が確認された。特にサツマ火山灰層上面において 36 基の炉穴（連穴土坑）が検出され、その炉穴の一部には遺構の下部にシミ状痕跡が見られるものが確認されている。浜場遺跡〔128〕においては、サツマ火山灰層直上より石鏃及び剥片等の石器が多数出土し、石鏃製作跡と思われる直径３ｍの範囲内の集合分布が３ヶ所認められた。またサツマ火山灰層上面において住居と思われる竪穴状土坑１基が検出された。下堀遺跡の北に平成９・15 年度に全面調査を行った穴倉遺跡〔117〕があり、平成９年度の調査では弥生時代・古墳時代の土器が多数確認されている。平成 15 年度の調査では石坂式、下剥峯式土器等の縄文時代早期の土器及び２基の集石、池田湖テフラ上面において９基の掘立柱建物が確認されている。浜場遺跡・下堀遺跡が立地する台地の下を流れる田原川沿岸には、小規模ながら古墳群が複数存在し、岩屋古墳群〔71〕、中方限古墳群〔72〕、渡迫古墳群〔73〕等が確認されている。

【参考文献】

牛ノ浜　修・中村耕治・弥栄久志　1985　『札元遺跡・山原遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（１）　有明町教育委員会
出口順一朗・堂込秀人　2003　『長田遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（２）　有明町教育委員会
中水　忍・東　徹志　2004　『上苑遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（５）　有明町教育委員会
中水　忍・松崎卓郎・東　徹志　2004　『浜場遺跡・下堀遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（６）　有明町教育委員会
出口順一朗・中水　忍・堂込秀人・横手浩二郎・東　徹志　2005　『仕明遺跡（１～３次)』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（７）　有明町教育委員会
中水　忍・黒川　晃・倉元良文・下園昌三・栗林文夫・堂込秀人・和田るみ子・東　徹志　2006　『有明町内遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（１１）有明町教育委員会
出口順一朗・東　徹志・中水　忍・中村直子・内山伸明　2008　『上苑Ａ遺跡・穴倉Ｂ遺跡』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（１）　志布志市教育委員会
有明町郷土史編纂委員会　1980　『有明町誌』　有明町教育委員会



第２図　浜場遺跡・下堀遺跡　周辺遺跡位置図

第１表　浜場遺跡・下堀遺跡　周辺遺跡一覧

番号	遺　跡　名	所　在　地	地形	時　代	遺　物　等	備　考
22	牧原Ａ	野神字牧原・高尾・中牧	台地	縄(後)	磨製石斧・打製石斧	
42	塚堀	原田字塚堀・下原	台地	縄・歴	土師器	
50	古池	野神字古池・高尾	台地	弥(中)	磨製石斧・打製石斧	
51	清水	原田字清水	台地	弥(中)	打製石斧・磨製石斧	旧遺跡名 元宮の下・永田
65	長田	原田字長田	台地	弥・古 中世	山ノ口式・成川式 磁器・竪穴住居跡 掘立柱建物跡	平成８年度分布調査 平成10年度確認調査 平成11年度全面調査 有明町埋蔵文化財発掘 調査報告書(2)
70	山神ノ上古墳	野神字後平	台地	古	円墳	
71	岩屋古墳群	野神字河内・井手元	台地	古	円墳３基	
72	中方限古墳群	野神字穴倉	台地	古	円墳	
73	渡迫古墳群	野神字岩道	台地	古	円墳	
74	高井田古墳群	原田字下原	台地	古	円墳１基・方墳１基	
85	原田古墳	原田字大塚・出口・牧	台地	古	円墳５基・方墳１基	(町)昭44.　４．１
115	長塚古墳	野神字岩道・立下	台地	古	円墳	
117	穴倉	野神字穴倉	台地	縄(早) 弥・古	石坂式・下剥峯式 成川式	平成６年度農政分布調査 平成９年度全面調査 平成12年度確認調査 平成15年度全面調査 志布志市埋蔵文化財発掘 調査報告書(１)
127	下堀	野神字下堀・立山	台地	縄(早) 弥・古	前平式・吉田式 倉園Ｂ式・石坂式 下剥峯式・桑ノ丸式 手向山式・押型文 塞ノ神式・右京西式 成川式・集石・土坑	平成８年度農政分布調査 平成11年度確認調査 平成14年度全面調査 平成19年度確認調査 有明町埋蔵文化財発掘 調査報告書(6)
128	浜場	野神字浜場	台地	縄(早) 古	辻タイプ・石鏃 成川式・竪穴状遺構 連穴土坑	平成８年度農政分布調査 平成11年度確認調査 平成14年度全面調査 平成19年度確認調査 平成19年度全面調査 有明町埋蔵文化財発掘 調査報告書(6)
135	大堀	野神字大堀・水喰	台地	古・古代		平成10年度農政分布調査
136	上原	原田字上原	台地	古		平成10年度農政分布調査
137	立山	原田字立山	台地	古		平成10年度農政分布調査
138	東中原	原田字東中原・大塚	台地	古		平成10年度農政分布調査
139	廣迫	野神字廣迫・中岡	台地	古		平成10年度農政分布調査
140	渡迫	野神字渡迫・岩道・薗田	台地	古代	土師器	平成11年度農政分布調査
141	牧原Ｂ	野神字牧原	台地	古		平成10年度農政分布調査
142	水喰	野神字水喰、蓬原字山ノ後	台地	古代		平成10年度農政分布調査
143	山ノ前	蓬原字山ノ前	台地	古		平成10年度農政分布調査
145	丸岡Ａ	野神字丸岡・中ノ丸	台地	古		平成10年度農政分布調査
146	風穴	野神字風穴・五色	台地	古		平成10年度農政分布調査
147	上五敷	原田字上五敷・五色	台地	古		平成10年度農政分布調査
148	五色	野神字五色・風穴	台地	古		平成10年度農政分布調査
149	西ノ堀	原田字西ノ堀・下五敷	台地	古		平成10年度農政分布調査
151	丸岡Ｂ	野神字丸岡 蓬原字楠原・山ノ後	台地	古		平成10年度農政分布調査
152	楠原Ｂ	蓬原字楠原・山ノ後・屋部当	台地	古		平成10年度農政分布調査
168	鹿藤	伊崎田字鹿藤・二反田	台地	縄		平成11年度農政分布調査
202	下原	原田字下原	台地	古		平成10年度農政分布調査
203	大塚	原田字大塚・出口	台地	縄・古		平成８年度農政分布調査
204	浜場Ａ	野神字浜場	台地	古代		平成15年度農政分布調査

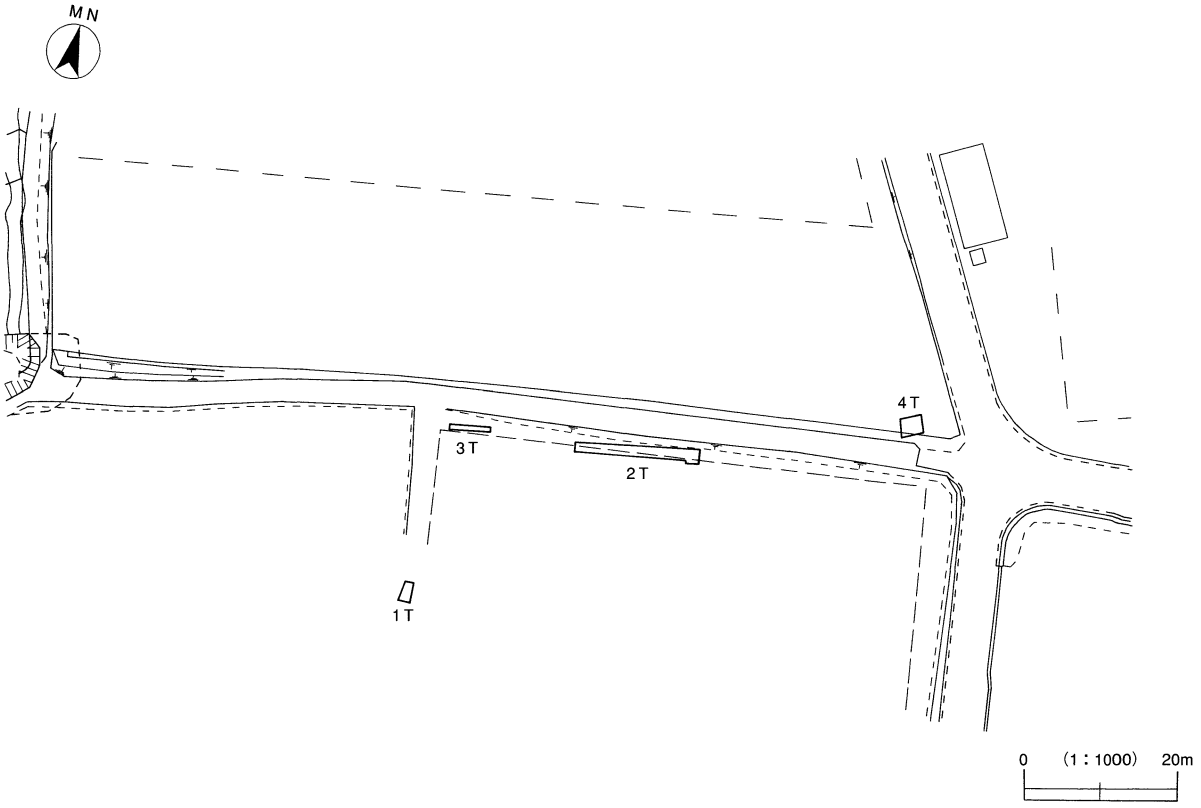
第Ⅲ章　浜場遺跡　試掘調査の概要

第１節　試掘調査の方法

試掘調査は、事業対象区域内の埋蔵文化財の有無を確実に把握するために、平成19年４月27日、５月１日の２日間で実施された。事業対象区域内の任意の地点に４トレンチを設定して実施した。調査は調査員立会いのもと、表土層を重機で除去した後、遺物が確認された層から作業員による掘り下げを行った。

第２節　試掘調査の概要

遺物出土は４Ｔから確認された。古墳時代の遺物包含層に相当すると思われるⅢ層から成川式土器21点が確認された。遺構は２・３Ｔから確認され、２Ｔよりアカホヤ層上面において柱穴５基、３Ｔより２Ｔ同様アカホヤ層上面において柱穴２基が確認された。また層位的判断からは、１Ｔは土層改良により撹乱を受けており、２・３Ｔについても一部に土層改良による撹乱が見受けられた。４Ｔについては遺物包含層の上層にやや削平が見られたが、層の残存状況は良好であった。これらのことから事業対象区域内に埋蔵文化財が包蔵されていることが確実になり、その遺跡範囲の特定と未調査部分の埋蔵文化財の有無については、一定期間を設けて確認調査を実施することとなった。



第３図　浜場遺跡　試掘調査　トレンチ位置図

第Ⅳ章　浜場遺跡　確認調査の概要

第１節　確認調査の方法

確認調査は、遺跡の性格と範囲を把握するために、事業対象区域内の任意の地点に５トレンチを設定して実施した。トレンチの規模は２ｍ×３ｍを基調とし、調査員立会いのもと表土、火山灰層を除去した後、作業員による掘り下げを行った。包含層の残存状況は全体的に良好であったが、一部で削平が見られた。

第２節　層位

確認調査時の標準土層は下記のとおりである。

層　位	層　色	土　質　・　特　徴
Ⅰ層	褐灰色〔10YR4/1〕	表土層。層中に白色〔N9/0〕テフラ（直径2㎜程度）を含む硬質土層。
Ⅱ層	黒色〔5Y2/1〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない締まった層。
Ⅲ層	黒褐色〔2.5Y3/2〕	層中に微細な暗灰黄色〔2.5Y5/2〕粒子を多含する締まった層。古墳時代の遺物包含層と思われる。
Ⅳ層	黒褐色〔2.5Y3/1〕	遺構検出面。層中にⅤ層に含まれるパミスの浮き上がりが見られる締まった層。
Ⅴ層	オリーブ黒色〔5Y3/1〕	明黄褐色〔10YR6/6〕パミスが層全体に浮遊する締まった層。
Ⅵ層	黒色〔5Y2/1〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない締まった層。
Ⅶ層	オリーブ黒色〔5Y2/2〕	通称　池田湖テフラ（Ik）。淡黄色〔2.5Y8/4〕テフラ（直径１㎝程度）が層の上位にあり、その下位は粘性のある硬く締まった層が堆積する。
Ⅷ層	明黄褐色〔10YR6/8〕	通称　鬼界アカホヤ火山灰層（K－Ah）。層の下位に5～10㎜大の黄橙色〔10YR7/8〕テフラが層を成す。
Ⅸ－ａ層	黒褐色〔2.5Y3/1〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない硬く締まった層。縄文時代早期の遺物包含層と思われる。
Ⅸ－ｂ層	黒色〔5Y2/1〕	層中に黄橙色〔10YR7/8〕パミスを含む硬く締まった層。縄文時代早期の遺物包含層と思われる。
Ⅸ－ｃ層	黒色〔5Y2/1〕	層の様子はⅨ－ｂ層に似るが、層中のパミスの含有が多く、比較的硬い層。Ⅸ－ｂ層との分層が出来ない場合もある。
Ⅸ－ｄ層	オリーブ黒色〔5Y3/2〕	Ⅸ－ｃ層に比べて層中のパミスの含有が減り、層全体に濁りが見られる層。
Ⅹ層	にぶい黄橙色〔10YR6/3〕	通称　サツマ火山灰層（Sz－S）。かなり硬化して締まった層。層の上位にサツマ火山灰層の２次堆積が一部見られる。
ⅩⅠ層	暗赤褐色〔2.5YR3/3〕	粘性がありローム化した層。
ⅩⅡ層	灰赤色〔2.5YR4/2〕	粘性がかなり強いローム化した層。
ⅩⅢ層	にぶい赤褐色〔2.5YR4/3〕	ⅩⅡ層に比べて比較的粘性が弱いがローム化した層。

XⅣ層	橙色 〔7.5YR6/6〕	XⅢ層に比べて粘性が弱い層。
XⅤ層	明黄褐色 〔10YR6/6〕	粘性がほとんど見られないサラサラとした層。
XⅥ層	橙色 〔7.5YR6/6〕	シラスの２次堆積層と思われ硬く締まった層。

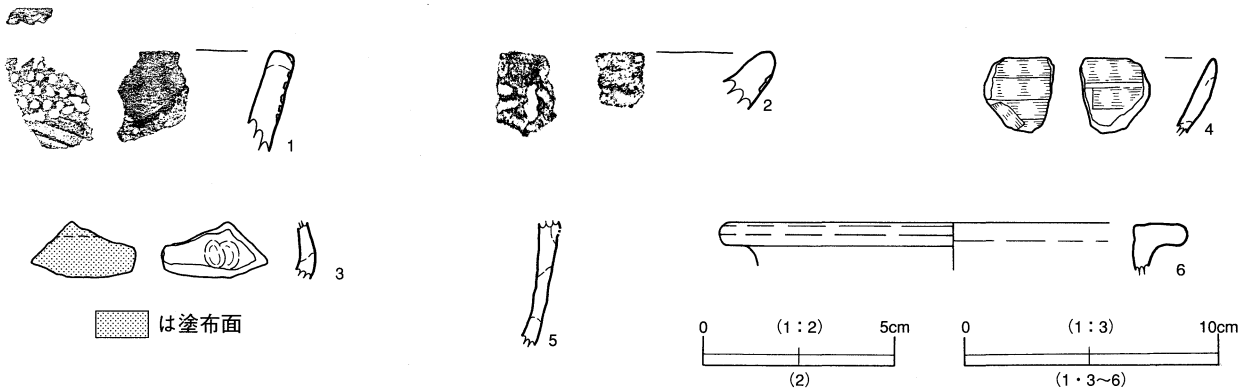
第３節　確認調査の概要

遺物出土は全てのトレンチから確認された。１・２・４Ｔより、古墳時代の遺物包含層に相当すると思われるⅢ層から成川式土器46点が確認され、３～５Ｔより縄文時代早期の遺物包含層に相当すると思われるⅨ－ａ層から土器４点及び焼石を含む破砕礫15点が確認された。

遺構は１～４Ｔから確認された。２ＴよりⅣ層上面において炭化物を伴う土坑１基、１ＴよりⅧ層上面において柱穴１基、３ＴよりⅨ－ｂ層上面において集石１基、４ＴよりＸ層上面において柱穴５基が確認された。

調査の結果、事業対象区域の東西に分かれて大きく２つの遺物包含層が確認され、１・２・４Ｔ（事業対象区域東側）付近に古墳時代、３～５Ｔ付近（事業対象区域西側）に縄文時代早期の遺物包含層が存在することが判明した。また検出状況から遺構の分布についても遺物包含層と同様に東西に分かれている可能性が推測された。

なお、事業対象区域の最西端は迫地形の上端部であるが、近年の自然災害により元の地形を20m程抉るような形で崩落しており、雨天時においても崩落する危険性があったため、トレンチを設定すること出来なかった。崩落した断面を観察する限りでは、事業対象区域の最西端の迫地形の上端部は、過年の構造改善事業により押し出された土砂の盛土であった。またその盛土の部分から５Ｔに向かっては土層の残存は確認でき、迫に向かっての層の傾斜が認められた。



第４図　浜場遺跡　確認調査　出土遺物

第４節　出土遺物

（１）Ⅸ－ａ・Ⅸ－ｂ層　出土遺物（第４図）

１はⅨ－ｂ層、２はⅨ－ａ層より出土した。Ⅸ－ａ・ｂ層は層位的には縄文時代早期に該当する。１は外面に施文され、口唇部には刻目を巡らせ、口縁部に斜位の貝殻連続刺突文を、さらに下位に横位の貝殻刺突文で区切っている。胴部には斜位に幅広の貝殻条痕文を施す。口縁部は直行すると思われる。石坂式土器に比定される。２は外面に施文され、口縁部に縦位の貝殻腹縁による刺突文を施す。塞ノ神式土器に比定される。

第２表　浜場遺跡　確認調査　Ⅸ－ａ・Ⅸ－ｂ層出土土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面	施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂			口径	底径	器高	
第４図	1	確　86	4T Ⅸ-b 層	深鉢	口縁部	石坂式土器	○	○	○			○	7.5YR5/3 にぶい褐色	施文：斜位貝殻連続刺突文 斜状貝殻条痕文 調整：ナデ	－	－	4.1	Ⅲ群 直行
													7.5YR5/3 にぶい褐色	施文：無 調整：ナデ				
第４図	2	確　85	5T Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	塞ノ神式土器				○		○	7.5YR5/3 にぶい褐色	施文：貝殻刺突文 調整：ナデ	－	－	1.6	Ⅶ群 内外面に煤付着
													10YR5/3 にぶい黄褐色	施文：無 調整：ナデ				

（２）Ⅲ層　出土遺物（第４図）

３～５はⅢ層より出土した成川式土器である。３は坩である。頸部から胴部が残存し、外面に赤色塗布が認められ、内面は指頭圧痕を残し、器面は歪である。４は椀形土器の口縁部であり、わずかに内湾し、口唇端部は丸く治まる。５は甕の胴部である。器壁が薄く、貼り付けた突帯をもち、刻目は見られない。胎土に含まれる鉱物の含有が他の遺物と異なり、３㎜大の小礫・赤褐色礫の鉱物を多含し、混砂量が密である。搬入品の可能性がある。

第３表　浜場遺跡　試掘調査・確認調査　Ⅲ層出土土器観察表

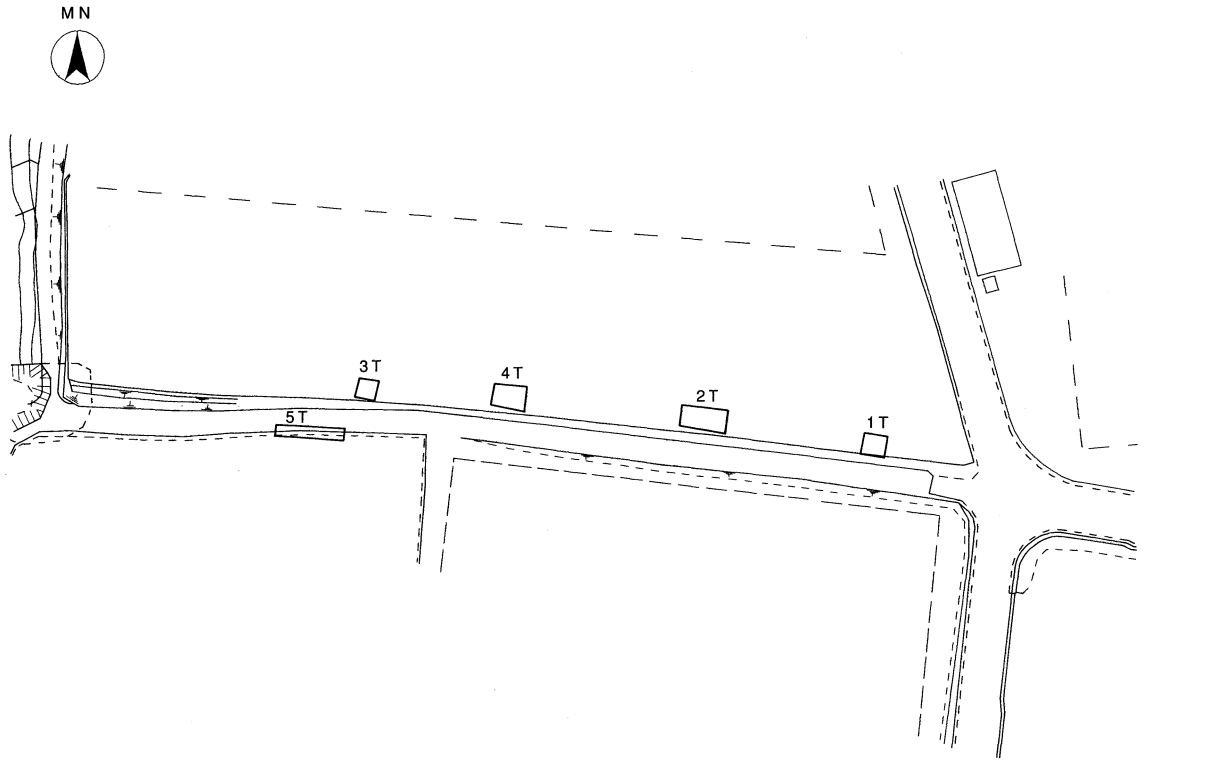
挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂				口径	底径	器高	
第４図	3	試 12	4T Ⅲ層	坩	頸部～胴部	成川式土器		○	○	○			10R4/4	赤褐色	ナデ	－	－	2.3	外面に赤色塗布
													7.5YR7/4	にぶい橙色	粗いナデ 一部に指頭圧痕				
第４図	4	―	2T Ⅲ層一括	椀形	口縁部	成川式土器				○	○	○	10YR6/4	にぶい黄橙色	横ナデ	－	－	3.0	確認調査遺物
													7.5YR6/6	橙色	横ナデ				
第４図	5	確 38	2T Ⅲ層	甕	胴部	成川式土器				○	○	○	5YR6/6	橙色	粗いナデ	－	－	4.95	胎土に含まれる礫等が密
													10YR7/3	にぶい黄橙色	ナデ				

（３）表土採集遺物（第４図）

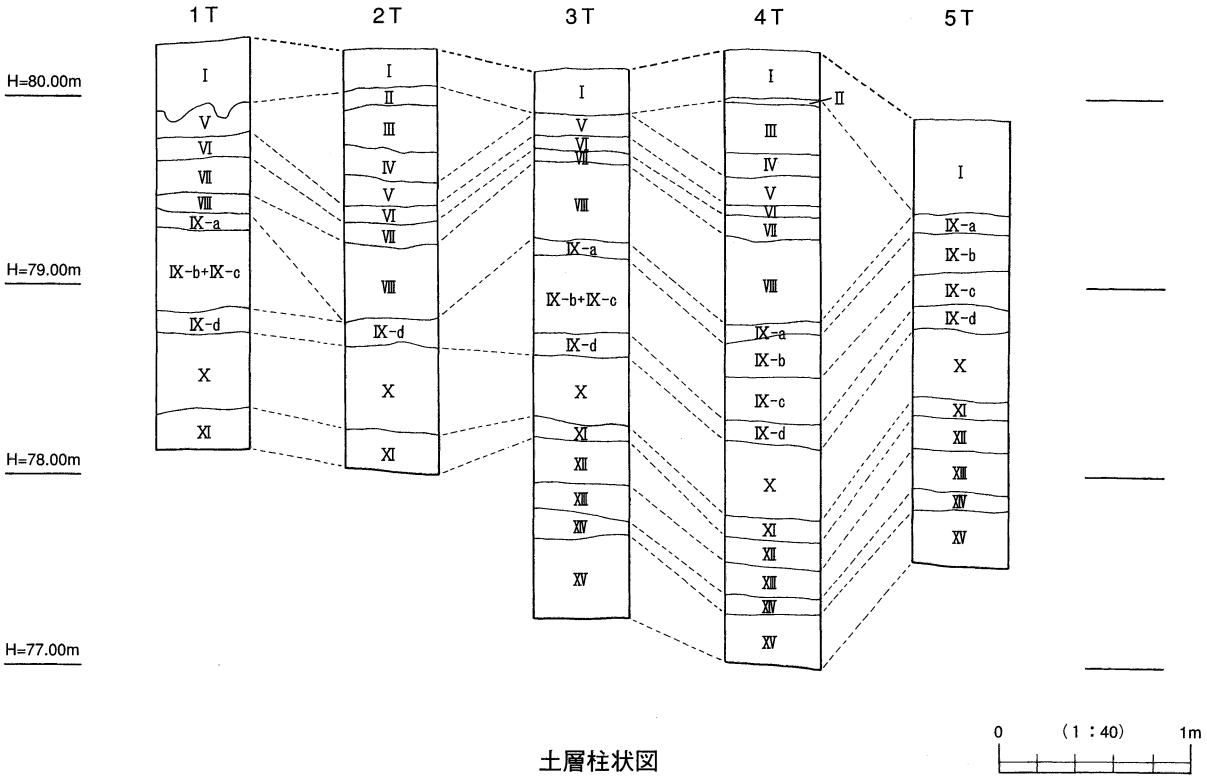
６は表土採集遺物で、近世苗代川系薩摩焼の甕の口縁部である。口唇部がやや肥厚し、口唇の平坦面に釉の掻取痕が見られる。

第４表　浜場遺跡　確認調査　表土採集土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土	色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
											口径	底径	器高	
第４図	6	確認	表採	甕?	口縁部	近世陶器	10YR4/1 褐灰色	10YR3/1	黒褐色	施釉	16.8	－	1.85	口唇部に釉掻き取り痕
								7.5YR5/4	にぶい褐色	施釉				

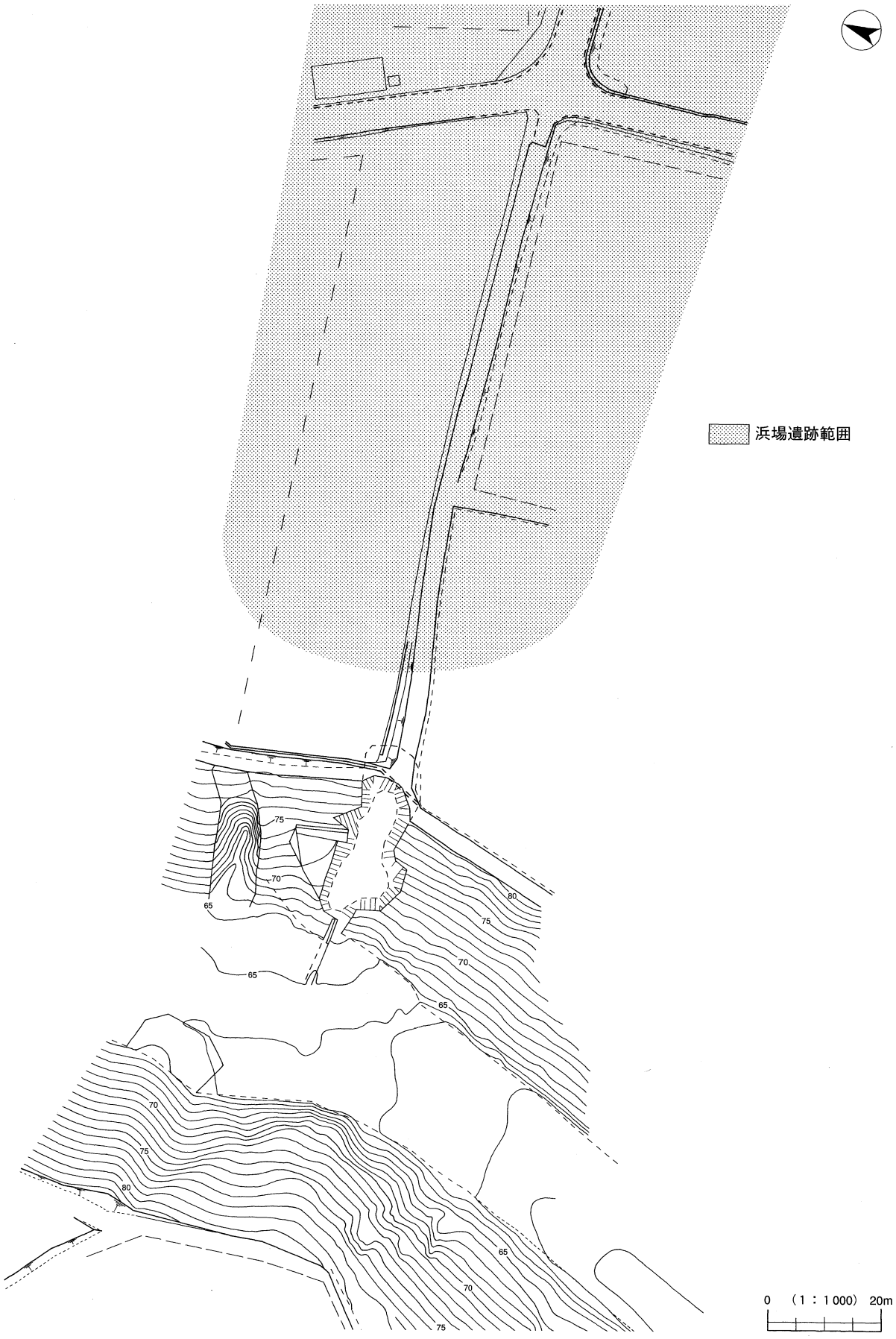


トレンチ位置図



土層柱状図

第５図　浜場遺跡　確認調査　トレンチ位置図及び土層柱状図



第６図　浜場遺跡　遺跡範囲図

第Ⅴ章　浜場遺跡　全面調査の概要

はじめに

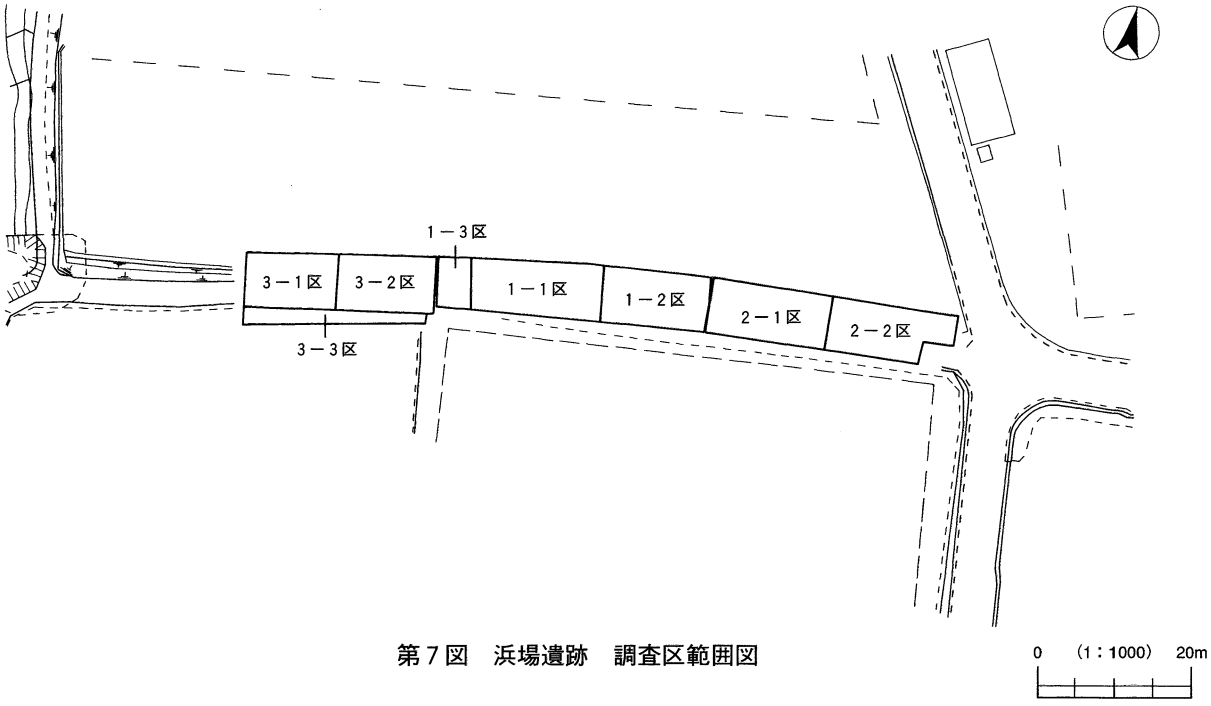
全面調査にあたり、表土層を調査員立会いのもと重機で除去し、その下層から人力による掘り下げを行った。Ⅳ層上面でⅢ層と思われる埋土を含んだ遺構の検出を行い、さらにⅦ層上面（池田湖テフラ層）まで人力で掘り下げを行った。Ⅶ層上面で遺構検出を行い、再度確認のためⅧ層（鬼界アカホヤ火山灰層）上面でも遺構検出を行った。Ⅷ層を調査員立会いのもと重機で除去し、Ⅸ－ａ～Ⅸ－ｄ層を人力による掘り下げを行い、調査の過程で層位毎の遺物の出土量等から判断し、Ⅸ－ｂ・ｄ層・Ｘ層（サツマ火山灰層）上面で遺構検出を行った。

第１節　全面調査の方法

全面調査はＤ－７区付近から調査区に沿って東側に向って調査を進め、調査の進捗に伴って随時調査範囲を設定した。調査区は延長距離約 93m，幅約８ｍの未舗装農道であり、その周りは耕作途中の畑地であるため、調査によって通行できなくなった畑地への迂回路を設置しながら「１－１区」、「１－２区」「１－３区」「２－１区」…と便宜的に呼称し、調査の進捗にあわせて、一定の範囲を区切りながら調査を行った。（第７図）また、調査区内の任意の起点から方位に応じた５ｍ×５ｍのグリッドを設定し、西から東へ１～21 区、北から南にＡ～Ｇ区の記号・番号を付し、「Ａ－１区」「Ｂ－１区」…と呼称した。（第８図）

第２節　全面調査の概要

全面遺跡は、立地的には東側に田原川を見下し、西側には小谷地形（迫谷）が見られる。遺跡の南北は「野神原」と呼ばれる比較的平坦な台地が広がっているが、これは近年の耕地整備により丘の削平と迫の埋め立てにより平坦化したものと思われ、野神原の旧地形を

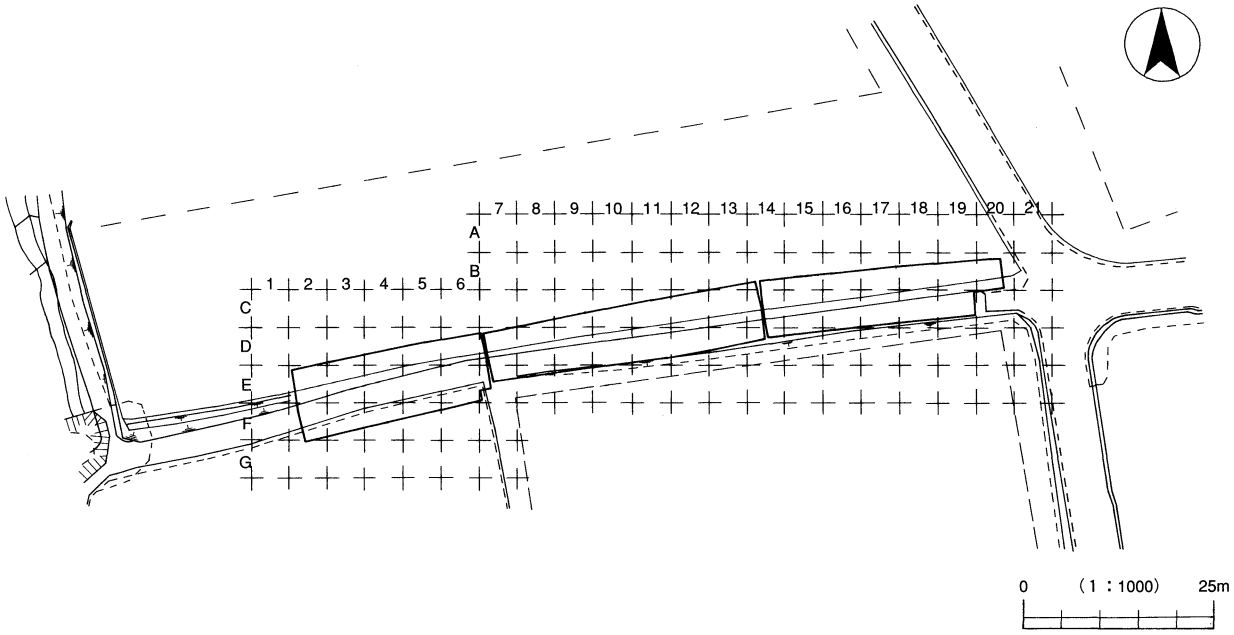


第７図　浜場遺跡　調査区範囲図

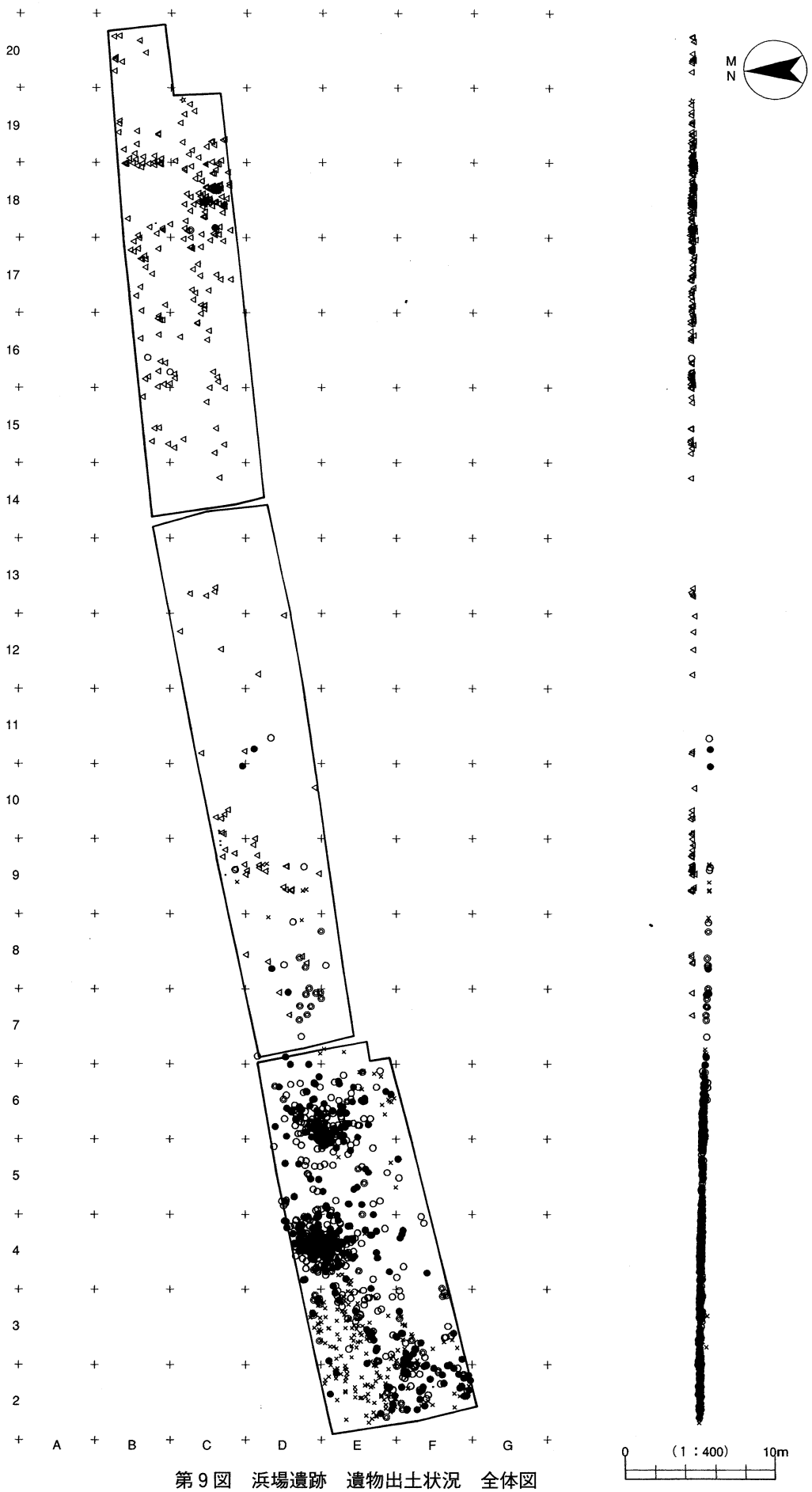
知ることは困難である。今回の調査により、調査区付近に限定した場合、旧地形は土層柱状図（第５図）から迫のある西側に向かって下るのではなく、南東側に向かって緩やかに下る地形であることがわかり、また調査区西側にあたる３区側は古墳時代の包含層であるⅢ層が削平を受けており、３－１区の中央を頂点にして調査区西側は迫の傾斜に近付くように下ると思われる。

遺構は、Ⅳ層上面よりＣ－10 区、Ｄ－９～13 区、Ｅ－９・10 区の広範囲で大型の溝状遺構が１基、Ｂ・Ｃ－14 区、Ｂ－18・20 区より炭化物を伴う土坑が３基検出された。Ⅷ層上面よりＣ－13・14 区の範囲で１間×１間の掘立柱建物１基、Ｂ－14～18・19 区、Ｃ－10～12・15～19 区、Ｄ－５・10～15 区、Ｅ－５～９区の広範囲で柱穴 42 基検出された。Ⅸ－ｂ層上面より、Ｄ・Ｅ－４～６区で集石４基が狭い範囲で確認され、集石が検出された範囲に、多数の土器・石器・破砕礫が出土した。またＥ－２～４区、Ｆ－２・４・５区、Ｄ－９・10 区に土坑や掘り込みを伴わない一定範囲に炭化物が集中して出土する地点（以後「炭化物集中地点」と呼称）が５基確認された。この炭化物集中地点からは微細な剥離片もほぼ同レベルで確認されている。Ⅸ層上面ではＣ－９・11・12 区、Ｄ－６・８～11 区、Ｅ－２・３・５・６区の広範囲で柱穴 37 基が検出された。なお、Ⅹ層上面では新たに検出される遺構は確認できなかった。

遺物は、Ⅲ・Ⅳ層及びⅨ－ａ・ｂ層で出土した。Ⅲ層が古墳時代の遺物包含層と思われ、Ｄ・Ｅ－７区より東側の範囲に遺物包含層が残存していた。Ⅲ・Ⅳ層からは成川式土器 271 点、土師器１点、須恵器１点、磨石１点等が確認された。Ⅸ－ａ・ｂ層からは縄文時代早期相当の土器 215 点及び打製石鏃７点、姫島産の黒曜石を含む剥片 41 点等が出土した。第９図で見ると、調査区全体の遺物分布は、時期により調査区の東西で大別でき、遺物分布からみた古墳時代の遺跡範囲が調査区の東端にあたるＢ・Ｃ－15～20 区に、縄文時代早期の遺跡範囲は調査区の西端にあたるＤ～Ｆ－２～８区を主として広がることが分かった。（第９図）



第８図　浜場遺跡　グリッド設定図



第９図　浜場遺跡　遺物出土状況　全体図

第３節　浜場遺跡　層位

全面調査の標準土層は下記のとおりである。

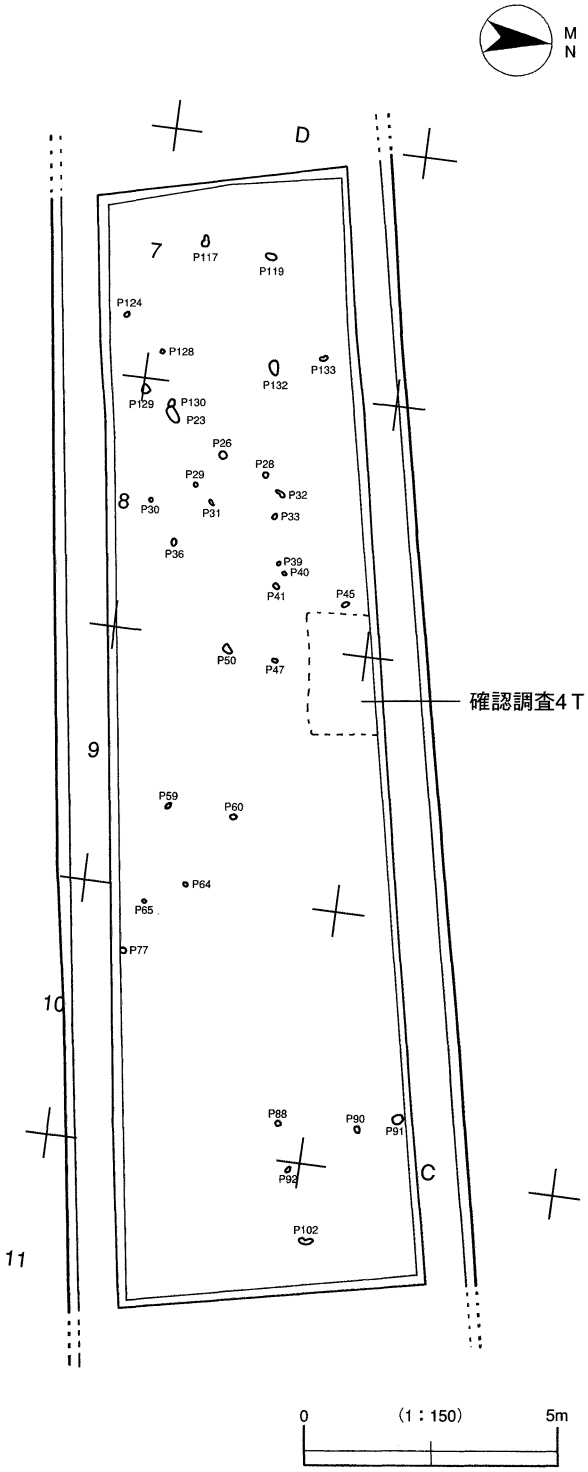
層　位	土色	土　質　・　特　徴
Ⅰ層	褐灰色〔10YR4/1〕	表土層。層中に白色〔N9/0〕テフラ（直径2mm程度）を含む硬質土層。
Ⅱ層	黒色〔5Y2/1〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない層。
Ⅲ層	黒褐色〔2.5Y3/2〕	層中に微細な暗灰黄色〔2.5Y5/2〕粒子（パミス？）を多含する締まった層。古墳時代の遺物包含層。
Ⅳ層	黒褐色〔2.5Y3/1〕	遺構検出面。一部に下層のパミスの浮き上がりが見られる締まった層。
Ⅴ層	オリーブ黒色〔5Y3/1〕	明黄褐色〔10YR6/6〕パミスが層全体に浮遊する締まった層。
Ⅵ層	黒色〔5Y2/1〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない締まった層。
Ⅶ層	オリーブ黒色〔5Y2/2〕	遺構検出面。通称　池田湖テフラ層（Ik）。淡黄色〔2.5Y8/4〕テフラ（直径１cm程度）が層の上位に、その下位は粘性のある硬く締まった層が堆積する。
Ⅷ層	明黄褐色〔10YR6/8〕	遺構検出面。通称　鬼界アカホヤ火山灰層（K－Ah）。かなり硬く締まる層。層の下位に5～10mm大の黄橙色〔10YR7/8〕テフラが層を成す。
Ⅸ－ａ層	黒褐色〔2.5Y3/1〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない硬く締まった層。縄文時代早期後葉の遺物包含層。
Ⅸ－ｂ層	黒色〔5Y2/1〕	層中に黄橙色〔10YR7/8〕パミスが層全体に浮遊するように含む硬く締まった層。
Ⅸ－ｃ層	黒色〔5Y2/1〕	層の様子はⅨ－ｂ層に似るが、層中の黄橙色〔10YR7/8〕パミスの含有が多く比較的硬い層。場所によりⅨ－ｂ層との分層が出来ないところも見られる。
Ⅸ－ｄ層	オリーブ黒色〔5Y3/2〕	遺構検出面。Ⅸ－ｃ層に比べて層中のパミスの含有が減り、層に濁りが見られる。
Ⅹ層	にぶい黄橙色〔10YR6/3〕	遺構検出面。通称　サツマ火山灰層（Sz－S）。かなり硬化して締まった層。層の上位にサツマ火山灰の２次堆積層が一部見られる。
ⅩⅠ層	暗赤褐色〔2.5YR3/3〕	粘性がありローム化した層。
ⅩⅡ層	灰赤色〔2.5YR4/2〕	粘性がかなり強いローム化した層。
ⅩⅢ層	にぶい赤褐色〔2.5YR4/3〕	ⅩⅡ層に比べて比較的粘性が弱いローム化した層。
ⅩⅣ層	橙色〔7.5YR6/6〕	ⅩⅢ層に比べて粘性が弱い層。
ⅩⅤ層	明黄褐色〔10YR6/6〕	粘性がほとんど見られないサラサラとした層。
ⅩⅥ層	橙色〔7.5YR6/6〕	シラスの２次堆積層と思われ硬く締まった層。

第４節　発掘調査の成果

１　縄文時代早期の調査

（１）Ⅸ－ｄ層上面検出遺構の調査

Ⅸ－ｄ層上面の遺構検出範囲は１－１・３区と３－１～３区の範囲で行った。遺構の調査方法として、検出された遺構は全て半裁を行い、半裁面の観察により、柱穴と



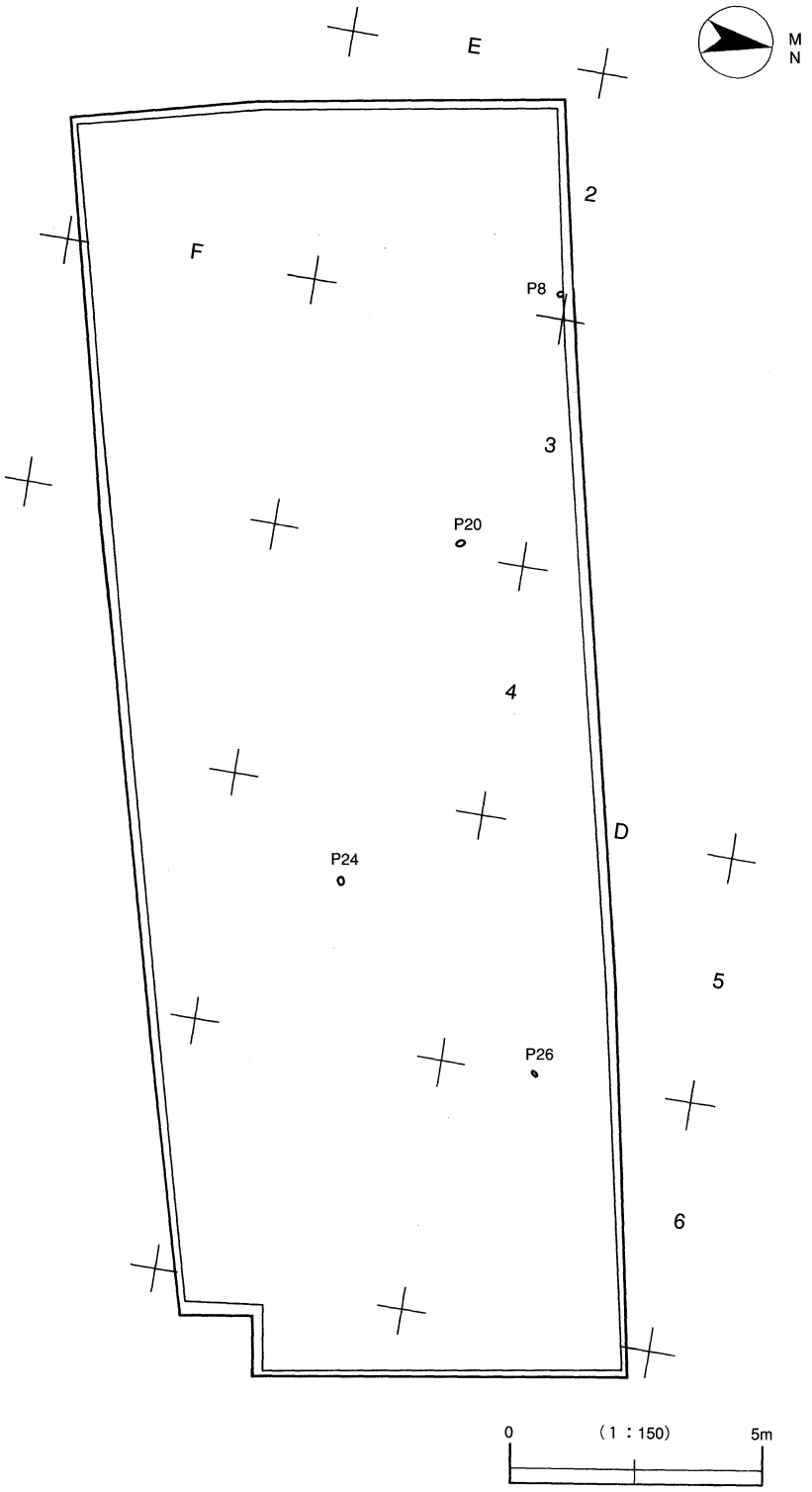
第10図　浜場遺跡　１－１・３区　Ⅸ－ｄ層上面
遺構検出状況図

第５表　１－１・３区　Ⅸ－ｄ層上面検出
柱穴計測表

柱穴	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	検出区
P23	楕円形	35.5	18.0	37.0	D-8区
P26	楕円形	23.5	17.5	39.0	D-8区
P28	楕円形	14.5	12.0	25.0	D-8区
P29	楕円形	10.0	8.0	17.0	D-8区
P30	楕円形	11.0	8.5	20.0	D-8区
P31	楕円形	17.5	12.0	19.0	D-8区
P32	楕円形	19.5	10.5	35.0	D-8区
P33	円形	13.5	13.5	13.5	D-8区
P36	変形楕円形	15.0	12.0	21.5	D-8区
P39	変形楕円形	11.0	10.5	6.0	D-8区
P40	変形楕円形	14.0	9.5	17.0	D-8区
P41	楕円形	19.5	18.5	35.0	D-8区
P45	楕円形	19.5	11.0	20.0	C-8区
P47	楕円形	17.0	14.5	23.0	D-9区
P50	楕円形	21.0	21.0	21.0	D-9区
P59	変形楕円形	17.0	12.0	30.0	D-9区
P60	楕円形	16.5	12.0	29.0	D-9区
P64	楕円形	10.0	9.0	16.0	D-9区
P65	楕円形	14.0	9.5	12.0	D-10区
P77	円形	13.0	13.0	14.0	D-10区
P88	楕円形	17.0	14.0	25.0	C-10区
P90	楕円形	18.0	15.0	25.5	C-10区
P91	(楕円形)	30.0	19.0	58.0	C-10区
P92	楕円形	16.0	12.0	19.0	C-11区
P102	変形楕円形	27.5	19.0	43.0	C-11区
P117	変形楕円形	25.5	16.0	39.0	D-7区
P119	変形楕円形	21.5	16.5	23.0	D-7区
P124	楕円形	16.0	14.0	37.0	D-7区
P128	楕円形	15.5	14.0	7.5	D-7区
P129	変形楕円形	26.0	19.5	44.0	D-8区
P130	楕円形	17.0	14.0	22.0	D-8区
P132	楕円形	31.0	20.5	28.0	D-7区
P133	変形楕円形	15.5	15.0	13.0	D-7区
平均値		18.5	14.0	25.3	

第６表　３区　Ⅸ－ｄ層上面検出
柱穴計測表

柱穴	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	検出区
P8	(楕円形)	13.0	11.5	27.0	E-2区
P20	楕円形	19.0	14.0	27.0	E-3区
P24	楕円形	20.5	16.5	42.5	E-5区
P26	楕円形	13.0	10.5	23.0	D-5区
平均値		16.4	13.1	29.9	



第11図　浜場遺跡　3区　Ⅸ－d層上面
遺構検出状況図

しての判断を行った。そのため半裁段階で柱穴番号の欠番が生じている。また、調査の進捗の関係から大調査区の1区・3区ごとで柱穴番号を設定したため、第5・6表に見られるように柱穴番号の表記が重なる。

柱穴はC－10・11区、D－5・7～10区、E－2・3・5区で37基検出された。柱穴毎の計測値については第5・6表に述べる。検出された柱穴は、形状は円形若しくは楕円形であり、長径の平均値は17.45㎝、深さの平均値は27.6㎝を測る。柱穴の検出分布は調査区東側に主に広がり、西側に向かうに従い、遺構密度が疎になる傾向がある。

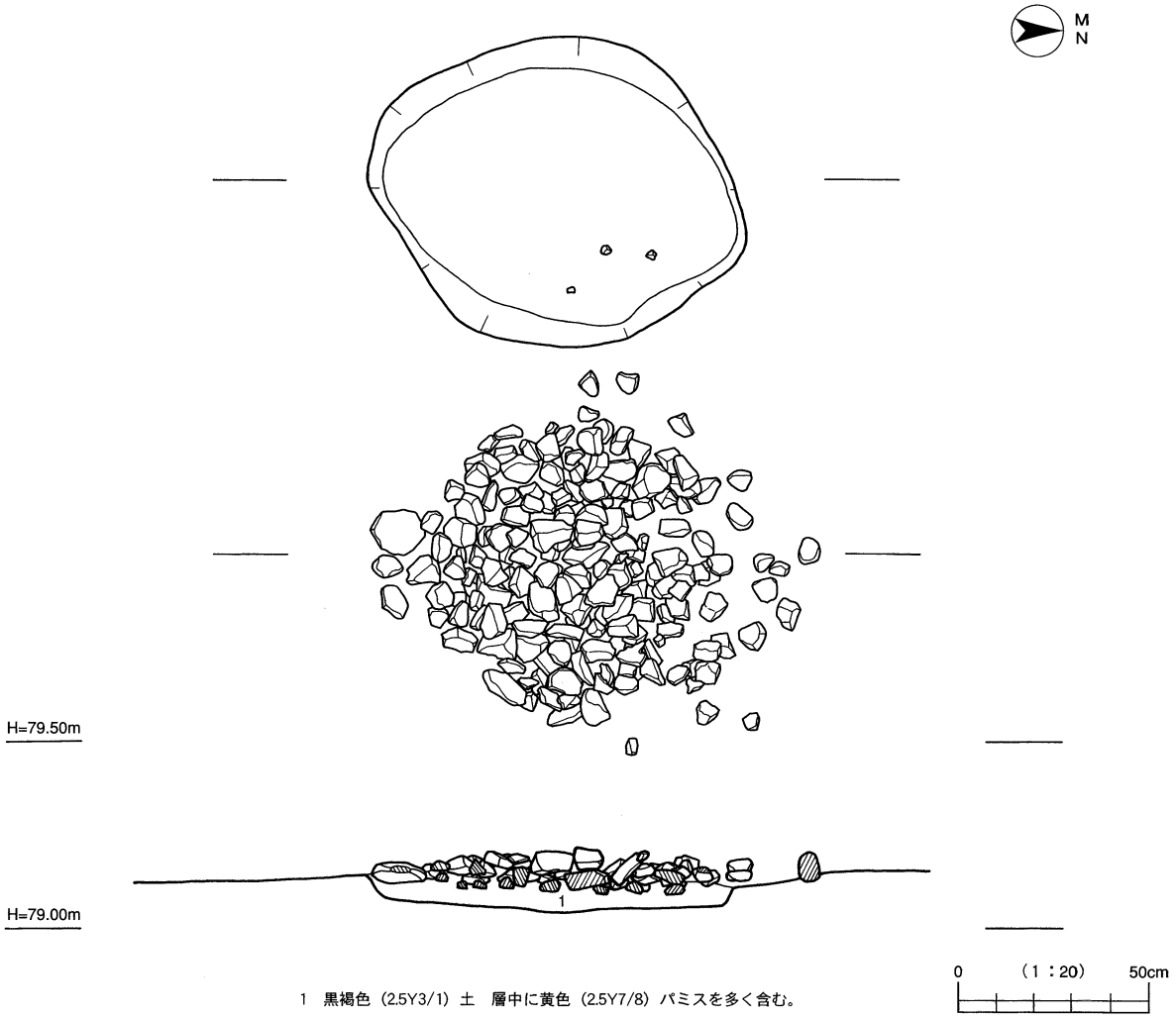
（2）Ⅸ－b層上面検出遺構の調査

Ⅸ－b層の遺構検出範囲は3－1～3区の範囲で行った。Ⅸ－a層の掘り下げを行った際、焼石を含めた破砕礫が散石状に多数確認され、その直下から集石4基が確認された。破砕礫・焼礫と集石との位置関係は第16図に付す。

ア　集石

①集石1（第12図）

集石1はE－4区で検出された。礫密度は密で、集石を構成する礫は275個確認され、出土礫の総重量は39978.6g、長径120㎝、短径105㎝の楕円形を呈する範囲内に、大小の礫が不規則に3層程度積み重なるように検出された。出土礫は主に角礫で破砕した状態であり、最大で

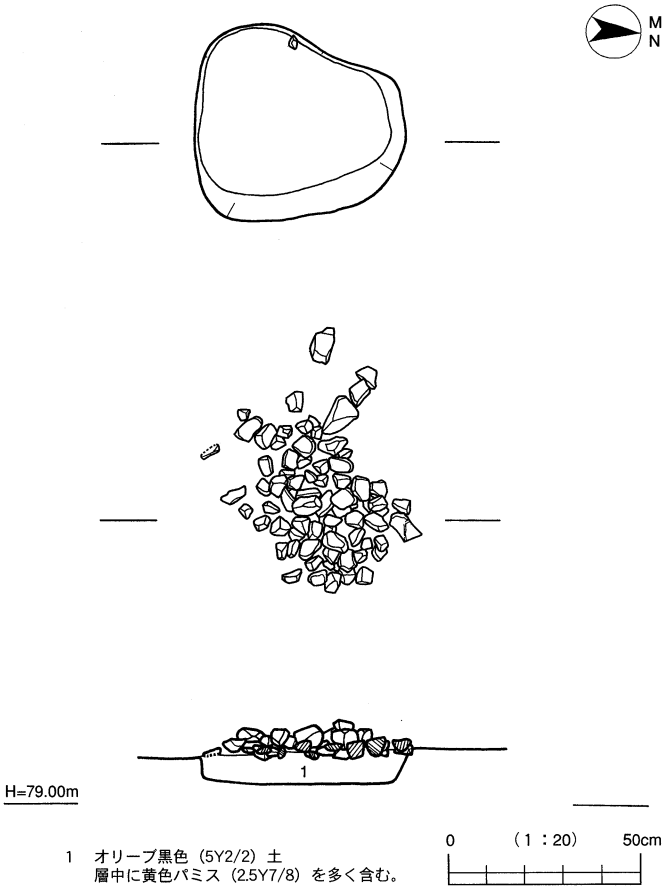


第12図 浜場遺跡 集石１ 平面・断面図

も長径が 132.27 ㎜、重さ 736.21 g を測り、出土礫の平均重量値は 145.37 g を量る。礫の一部に赤みを帯びているものも見られ、集石内に炭化物は微量ながら確認されたが、焼土等は確認出来なかった。また集石の直下より 102cm×85cm を測る楕円形の掘り込みが礫の集中部分に重なるように検出され、上部の集石を構成する同様の小礫が掘り込み内に落ち込んでおり、集石との関連性があると思われる。

②集石２（第 13 図）

集石２はD・E－４区で検出された。礫密度は密で、集石を構成する礫は 91 個確認され、出土礫の総重量は 9079.6 g、長径 70 cm、短径 58 cmの楕円形を呈する範囲内に、大小の礫が不規則に３層程度積み重なるように検出された。出土礫は主に角礫で破砕した状態であり、最大でも長径が 116.17 ㎜、重さ 456.18 g を測り、出土礫の平均重量値は 99.77 g を量る。集石内に炭化物や焼土等は確認出来なかった。また集石の直下より 55 cm×51 cmを測る楕円形の掘り込みが礫の集中部分に重なるように検出された。しかし掘り込み内には礫の落ち込みは確認出来ず、集石と掘り込みとは別の遺構の可能性も否定できない。



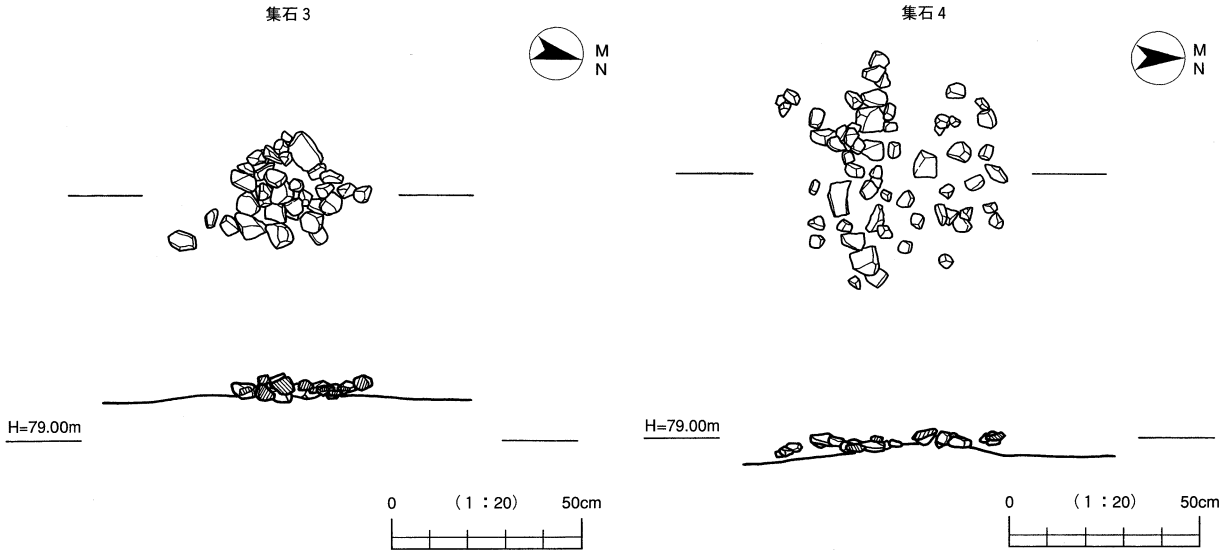
第13図　浜場遺跡　集石２　平面・断面図

③集石３（第14図）

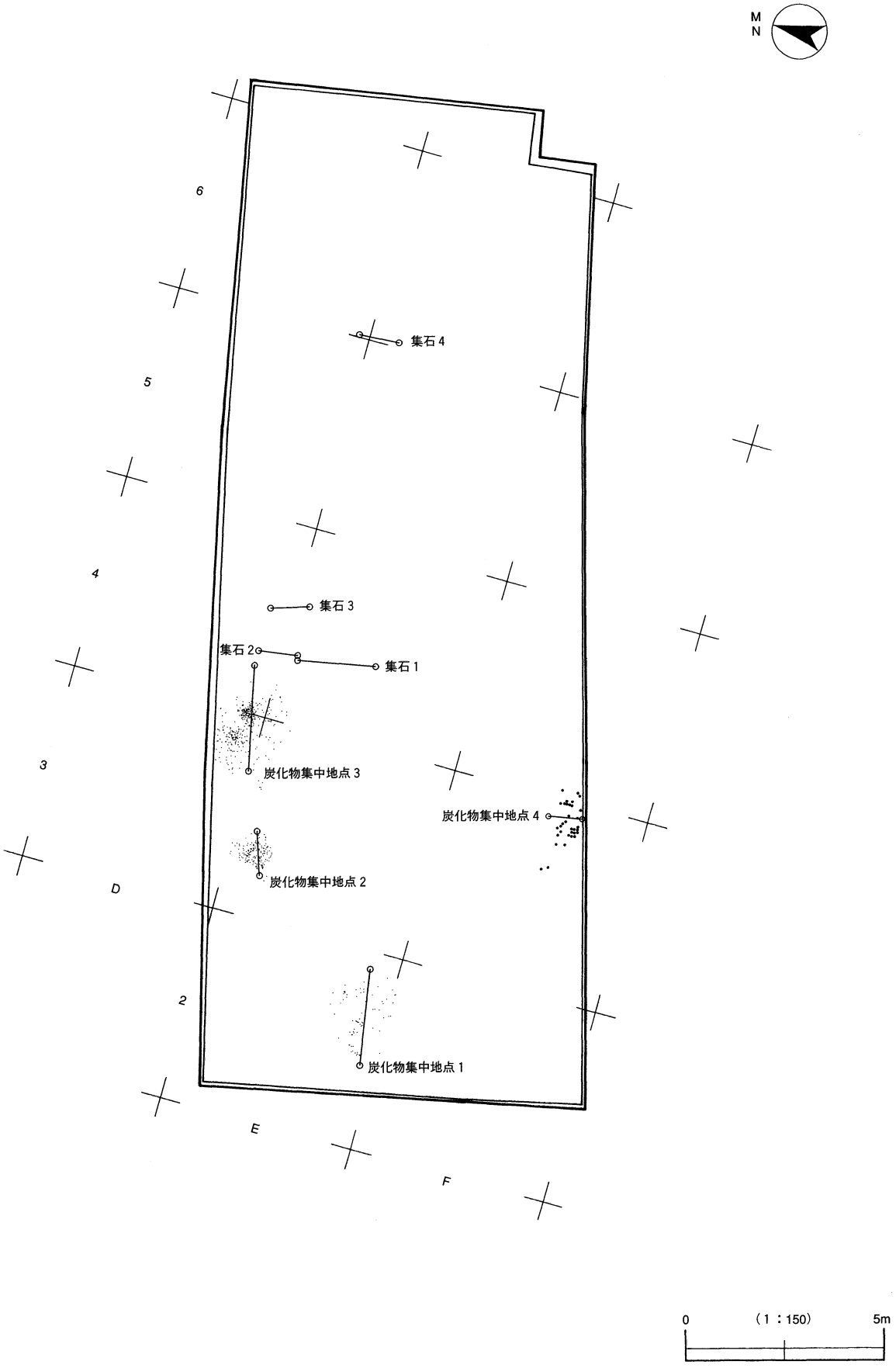
集石３はＤ・Ｅ－４区で検出された。礫密度は密で、集石を構成する礫は34個確認され、出土礫の総重量は4064.03ｇ、長径55㎝、短径31㎝の楕円形を呈する範囲内に、大小の礫が不規則に積み重なるように検出された。出土礫は主に角礫で破砕した状態であり、最大でも長径が88.55㎜、重さ400.05ｇを測り、出土礫の平均重量値は119.53ｇを量る。集石内に炭化物や焼土等は確認出来ず、掘り込みも見られない。

④集石４（第14図）

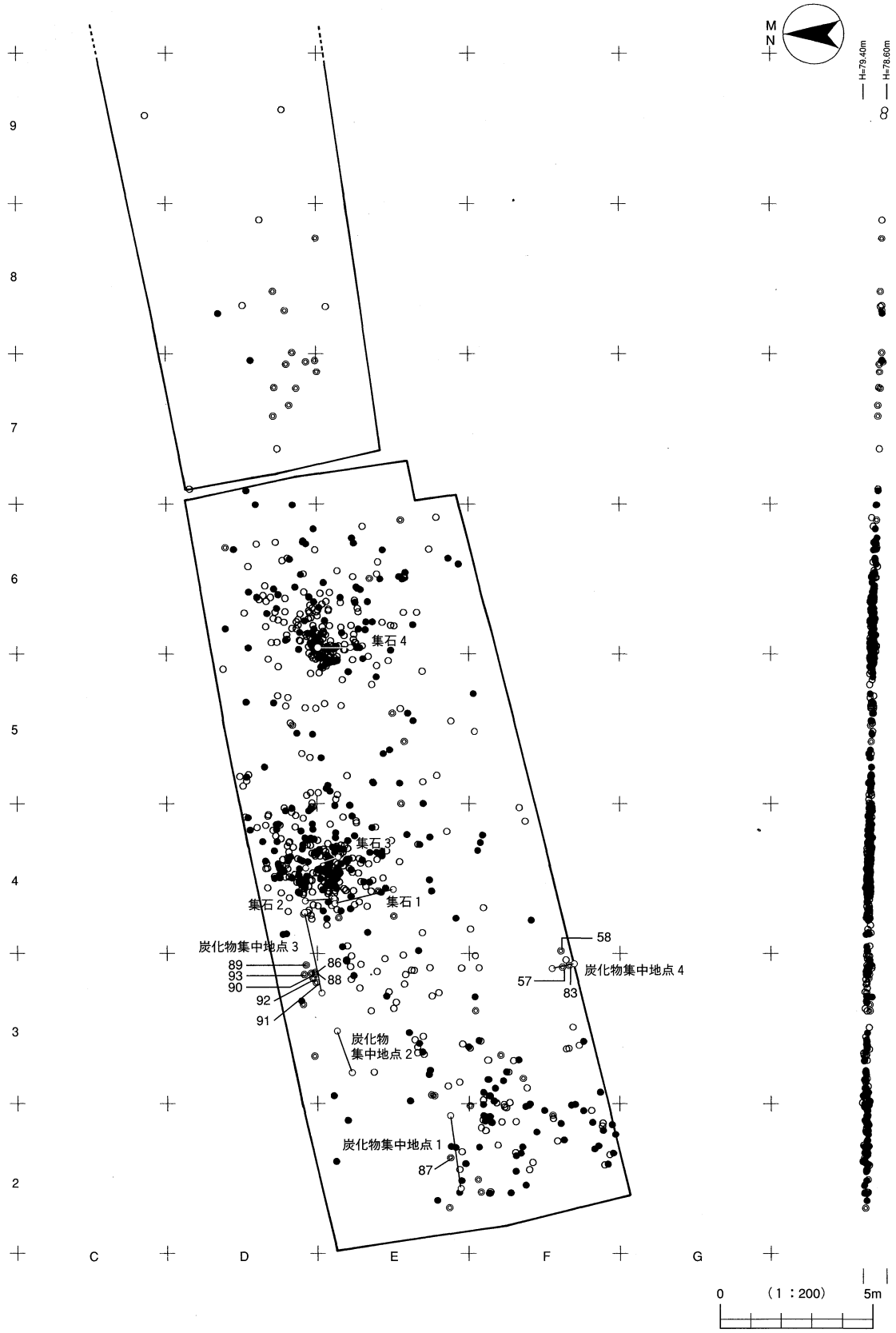
集石４はＤ・Ｅ－５・６区で検出された。礫密度は疎で、散石状に礫が散らばる。集石を構成する礫は34個確認され、出土礫の総重量は4397.52ｇ、長径68㎝、短径59㎝の楕円形を呈する範囲内に、大小の礫が不規則に積み重なるように検出された。出土礫は主に角礫で破砕した状態であり、最大でも長径が82.79㎜、重さ199.13ｇを測り、出土礫の平均重量値は62.38ｇを量る。集石内に炭化物や焼土等は確認出来ず、掘り込みも見られない。



第14図　浜場遺跡　集石３・４　平面・断面図



第15図　浜場遺跡　集石1・2・3・4及び炭化物集中地点1・2・3・4
遺構配置図



第16図　浜場遺跡　Ⅸ－ｂ層上面　集石及び炭化物集中地点配置及び石器・礫・焼石出土状況図

第７表　浜場遺跡　集石１　出土礫計測表（１）

	重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)
1	122.11	63.61	45.82	56	83.56	59.36	35.04	111	190.51	86.54	65.67
2	76.74	51.74	33.81	57	118.4	66.72	46.57	112	95.2	58.62	39.31
3	357.6	99.16	70.63	58	108.05	69.5	46.83	113	277.21	89.79	64.56
4	233.22	64.14	50.47	59	100.69	58.34	52.26	114	97.08	50.25	44.26
5	558.23	97.73	84	60	390.63	108.34	66.55	115	146.82	59.77	49.34
6	156.22	69.02	48.66	61	182.53	82.31	60.96	116	99.68	59.79	43.31
7	183.59	69.52	46.4	62	215.78	60.71	49.99	117	128.16	54.13	49.32
8	322.94	74.02	63.48	63	253.5	67.05	63.5	118	125.95	72.61	42.01
9	107.53	69.45	46.02	64	129.6	63.73	47.67	119	38.73	40.4	34.46
10	219.03	75.48	51.49	65	78.71	69.34	45.98	120	142.79	80.2	64.45
11	171.98	70.33	53.17	66	89.54	74.53	38.06	121	154.81	57.4	51.85
12	294.59	86.28	66.87	67	145.35	64.76	52.49	122	66.76	67.72	32.71
13	149.61	75.56	65.54	68	174.4	75.74	56.36	123	135.95	76.56	52.51
14	125.14	91.51	38.86	69	70.5	57.29	37.22	124	114.83	80.26	48.65
15	107.23	66.8	38.82	70	128.75	51.64	43.4	125	132.05	70.44	50.15
16	289.4	86.22	61.39	71	572.51	125.76	56.88	126	95.2	68.29	48.06
17	95.68	97.15	47.15	72	51.95	45.58	36.1	127	101.31	67.09	46.09
18	391	110.08	56.21	73	120.98	68.31	46.31	128	123.88	72.44	37.31
19	209.27	73.92	44.03	74	36.88	47.32	39.45	129	121.1	80.77	57.39
20	77.45	68.16	45.39	75	92.56	63.6	55.32	130	41.66	45.2	40.36
21	34.39	44.37	29.45	76	160.68	75.63	65.26	131	244.77	84.9	53.34
22	137.68	71.57	50.61	77	201.48	77.02	56.42	132	131.22	57.78	46.87
23	102.04	55.94	47.23	78	108.96	72.04	52.92	133	111.35	69.8	34.47
24	208.85	76.09	57.2	79	88.93	60.98	59.5	134	47.47	51.43	30.79
25	193.6	78.35	58.53	80	113.78	68.01	50.52	135	137.26	68.67	62.71
26	120.46	66.1	47.83	81	88.58	68.45	38.55	136	72.4	74.04	41.71
27	108.91	63.68	40.51	82	111.75	74.78	51.69	137	53.44	48.28	36.54
28	100.06	50.58	43.99	83	80.91	60.77	44.13	138	74.14	50.46	34.03
29	113.87	52.55	44.62	84	164.1	77.53	50.48	139	76.59	68.98	51.85
30	174.57	70.93	54.91	85	107.49	101.27	45.26	140	72.5	54.67	40.97
31	131.16	58.98	45.34	86	136	59.7	41.31	141	159.12	91.17	74.47
32	101.85	66.69	48.02	87	51.64	49.37	32.27	142	78.4	56.1	41.14
33	124.95	75.09	39.76	88	97.65	59.18	39.45	143	150.21	74.53	62.21
34	135.28	57.88	45.08	89	68.01	61.96	49.64	144	224.65	92.6	67.34
35	168.9	64.17	58.32	90	106.01	63.27	58.34	145	82.24	49.13	40.5
36	64.1	45.37	38.39	91	172.01	83.78	62.42	146	214.23	68.53	53.9
37	270.38	78.76	59.01	92	72.07	62.5	36.58	147	142.49	100.1	39.31
38	308.31	108.49	83.57	93	159.02	77.27	57.35	148	163.19	74.92	51.99
39	269.7	81.1	65.73	94	49.89	44.04	40.49	149	122.61	49.85	39.71
40	72.37	68.9	44.37	95	108.36	54.23	44.67	150	155.6	69.53	48.49
41	128.56	62.34	58.44	96	185.35	81.86	47.15	151	169.35	64.25	52.72
42	169.28	95.2	58.57	97	72.28	47.95	40.77	152	406.5	93.41	70.08
43	381.9	89.67	66.91	98	164.5	70.41	56.99	153	174.48	74.27	61.47
44	109.9	84.51	47.05	99	139.22	81.92	47.92	154	99.76	69.73	51.75
45	52.1	57.81	36.47	100	132.99	58.65	53.26	155	169.04	55.79	57.89
46	110.6	58.06	54.4	101	125.19	55.6	48.96	156	215.09	77.04	51.65
47	147.13	82.23	56.32	102	130.35	69.12	61.03	157	318.73	90.75	64.14
48	44.35	49.52	36.88	103	64.37	68.67	34.29	158	152.48	101.91	59.59
49	43.09	53.53	31.79	104	132.86	55.39	42.93	159	321.11	96.11	75.69
50	98.25	80.09	52.92	105	134.16	60.07	53.25	160	119.4	65.97	47.09
51	39.09	51.63	35.59	106	79.8	53.3	46.74	161	298.17	98.17	86.68
52	82.74	48.65	48.1	107	69.14	58.13	31.43	162	127.74	66.41	51.36
53	105.54	86.81	68.8	108	176.9	79.38	55.47	163	71.08	47.26	41.91
54	96.85	56.94	50.94	109	109.06	70.38	50.11	164	183.63	76.99	63.16
55	59.03	49.2	33.23	110	722.92	118.3	79.1	165	122.94	59.56	44.27

第８表　浜場遺跡　集石１　出土礫計測表（２）

	重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)
166	195.39	66	62.17	203	38.71	48.64	38.91	241	57.21	59.86	28.6
167	477.35	98.59	79.49	204	122.28	67.26	55.58	242	59.74	49.9	35.28
168	349.67	93.65	59.07	205	109.58	79.62	54.36	243	206.87	72.62	49.42
169	160.65	63.57	48.13	206	86.21	78.7	43.32	244	160.88	84.32	60.49
170	175.4	75.71	49.51	207	44.66	41.6	34.71	245	121.79	53.79	45.2
171	69.96	58.2	44.85	208	85.13	50.55	43.47	246	104.54	55.43	40.47
172	79.99	92.03	38.41	209	49.64	48.8	46.09	247	150.92	64.02	50.6
173	203.34	63.89	59.84	210	110.46	62.96	42.82	248	85.56	51.6	42.97
174	19.62	30	28.59	211	75.9	62.04	37.62	249	86.71	54.06	51.72
175	79.43	58.68	40.37	212	77.56	57.41	55.55	250	255.47	71.61	71.61
176	27.76	52.37	32.47	213	87.73	65.23	49.79	251	154.9	77.4	63.8
177	187.98	67.32	44.15	214	81.58	93.75	39.32	252	638.66	106.79	79.95
178	55.71	39.69	39.65	215	155.77	63.58	66.12	253	12.18	40.19	28.65
179	133.23	72.9	48.92	216	120.04	66.35	53	254	129.13	64.05	49.58
180	88.57	73.52	40.16	217	67.34	64.16	43.12	255	45.76	52.46	35.73
181	183.89	68.69	46.11	218	244.61	93.8	70.2	256	48.81	39.38	38.53
182	736.21	132.27	121.5	219	345.57	132.07	68.35	257	14.48	36.68	36.39
183	77.33	49.59	52.47	220	277.54	81.23	64.01	258	106.25	66.48	54.46
184	243.83	74.05	57.38	222	364.82	95.31	77.33	259	70.29	45.91	32.79
185	88.98	60.02	42.65	223	106.58	50.34	41.54	260	104.34	61.69	52.55
186	162.99	73.7	58.72	224	224.3	74.72	52.38	261	35.35	51.33	31.76
187	112.36	52.71	46.99	225	232.54	64.22	43.68	262	5.47	33.86	24.16
188	89.26	61.03	39.39	226	150.18	87.84	64.05	263	64.74	59.46	36.28
189	76.33	47.05	46.29	227	39.09	47.66	28.93	264	93.32	63.1	47.32
190	278.44	84.95	62.31	228	53.45	52.61	40.84	265	56.72	48.72	40.97
191	261.95	71.75	51.78	229	96.6	60.51	48.55	266	89.02	71.99	60.39
192	363.28	106.05	68.2	230	308.75	127.01	62.31	267	125.33	87.46	32.41
193	127.52	65.04	38.68	231	150.09	96.59	40.14	268	465.92	108.79	72.01
194	47.15	57.8	42.14	232	188.59	76.23	63.2	269	118.31	58.46	53.9
195	65.82	60.25	39.26	233	148.97	67.22	58.56	270	171.5	58	52.48
196	77.56	65.91	52.76	234	48.65	44.09	33.52	271	92.1	58.72	39.96
197	105.86	57.95	46.52	235	126.66	49.36	39.88	272	221.58	87.18	65.05
198	5.53	20.86	19.55	236	89.58	48.25	45.61	273	141.55	60.02	43.34
199	64.8	46.33	34.97	237	169.53	88.65	54.47	274	49.29	46.65	35.04
200	70.17	50.95	45.73	238	92.47	66.46	36.28	275	59.26	47.32	41.21
201	78.07	56.39	33.79	239	144.67	57.64	47.02	計	39978.6		
202	271.9	76.99	65.09	240	51.2	54.23	33.72	平均値	145.37	68.08	49.52

第９表　浜場遺跡　集石２　出土礫計測表（１）

	重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)
1	456.18	116.17	80.88	17	141.58	65.69	46.11	33	114.33	68	51.51
2	312.8	80.88	63.82	18	152.07	61.03	56.15	34	88.19	46.28	46.05
3	318.37	98.21	56.82	19	163.23	75.37	36.47	35	115.95	66.68	44.4
4	136.79	88.74	38.22	20	125.9	88.79	34.24	36	115.18	53.53	46.23
5	102.45	57.65	42.91	21	98.48	71.99	53.7	37	72.29	55.72	44.78
6	154.7	97.34	48.78	22	67.88	54.02	29.77	38	95.04	47.55	48.04
7	84.07	95.92	45.06	23	83.55	51.89	42.82	39	64.71	48.17	41.29
8	209.11	71.84	58.4	24	53.15	48.56	36.13	40	64.09	50.47	42.94
9	85.75	73.41	45.86	25	90.97	53.69	44.26	41	49.26	45.49	31.48
10	117.02	76.89	51.44	26	126.17	76.94	50.86	42	59.73	72.22	35.48
11	221.6	60.85	52.35	27	153.66	66.52	61.76	43	81.75	58.46	40.77
12	134.94	83.1	50.87	28	217.83	77.14	54.24	44	48.24	39.03	35.1
13	62.74	61.79	51.76	29	188	73.17	58.25	45	71.61	54.47	48.53
14	89.32	65.65	55.87	30	107.48	58.15	44.51	46	22.3	52.4	20.99
15	98.84	56.95	44.88	31	84.06	54.39	45.48	47	62.48	50.07	49.44
16	189.69	69.15	51.94	32	106.81	71.38	61.33	48	56.07	46.5	36.31

第10表　浜場遺跡　集石２　出土礫計測表（2）

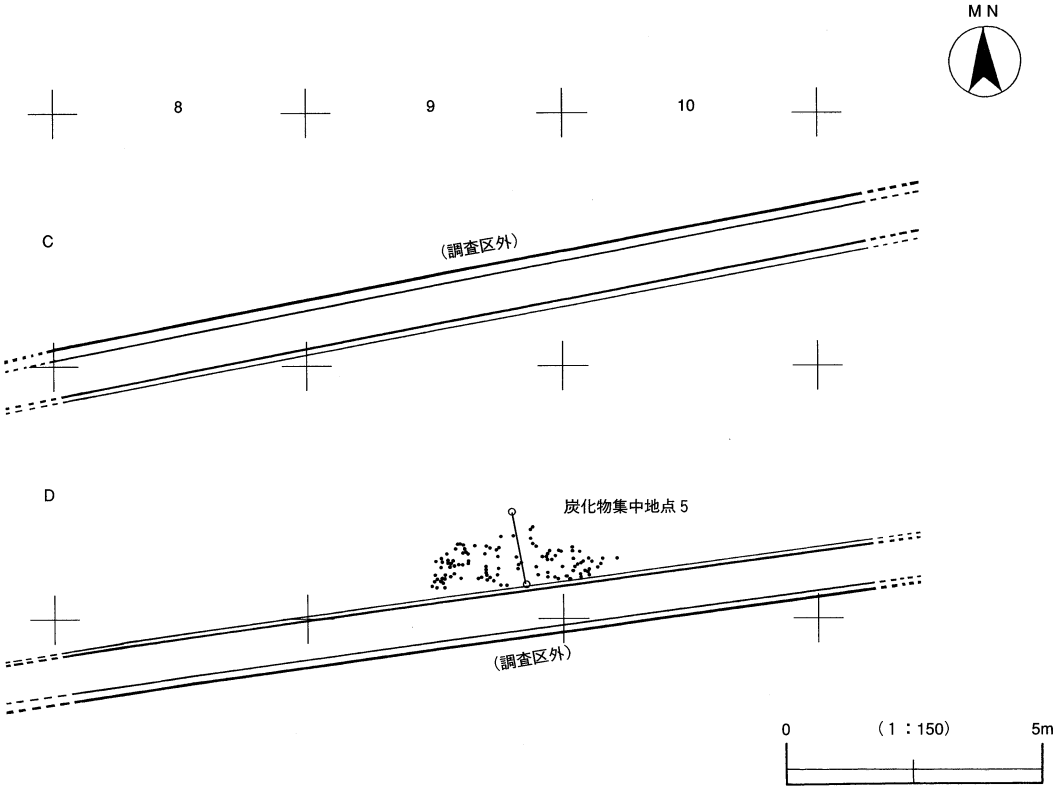
	重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)
49	77.33	51.21	45.41	64	85.08	52.25	42.81	79	81.79	56.28	35.05
50	22.3	46.85	25.92	65	49.33	36.04	33.12	80	84.8	67.77	47.72
51	66.07	56.71	46.99	66	46.95	52.2	44.75	81	44.86	43.93	30.85
52	67.89	42.99	41.1	67	48.45	44.96	30.66	82	67.23	49.79	40.55
53	61.62	50.92	40.36	68	102.1	68.92	41.98	83	79.8	66.55	36.45
54	50.75	59.16	34.83	69	74.94	54.3	42.48	84	62.77	70.1	29.02
55	61.66	56.87	38.48	70	58.35	43.02	42.54	85	108.84	59.18	58.28
56	48.89	39.51	38.7	71	61.13	60.47	40.15	86	46.86	53.4	45.23
57	73.27	43.76	41.96	72	63.29	53.5	32.35	87	104.13	68.75	51.02
58	145.85	70.82	62.79	73	74.56	59.47	37.35	88	130.89	56.28	44.15
59	45.86	56.25	39.55	74	79.4	48.06	46.86	89	53.62	46.7	46.33
60	82.49	50.82	41.01	75	42.62	58.4	27.87	90	61.65	54.88	36.38
61	118.78	53.2	46.03	76	91.78	57.29	39.05	91	30.27	43.84	24.09
62	65.83	52.26	41.25	77	96.38	48.92	50.56	計	9079.67		
63	188.96	62.91	54.02	78	53.84	51.99	37.06	平均値	99.77	60.21	44.09

第11表　浜場遺跡　集石３　出土礫計測表

	重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)
1	105.1	55.85	50.98	13	101.44	58.75	52.62	25	57.91	44.45	39.33
2	224.77	70.26	58.87	14	77.69	88.55	38.78	26	99.47	53.27	45.75
3	129.34	65.43	50.22	15	214.47	74.38	63.21	27	92.83	58.17	47.3
4	115.21	65.71	54.15	16	162.4	68.78	56.74	28	46.27	52.55	49.43
5	270.58	85.18	56.5	17	108.98	76.02	45.54	29	45.5	45.14	37.15
6	46.89	45.73	27.74	18	13.06	38.44	27.3	30	81.7	57.81	37.67
7	53.3	45.17	38.85	19	256.91	72.59	63.26	31	34.75	37.74	32.52
8	192.59	69.82	58.49	20	75.73	51.69	53.68	32	217.55	86	69.28
9	57.6	45.77	45.63	21	77.5	64.17	40.29	33	11.11	33.05	27.2
10	99.16	58.96	48.27	22	191.11	81.11	40.76	34	400.05	86.94	65.08
11	82.37	55.74	41.12	23	95.89	71.16	41.35	計	4064.03		
12	113.84	68.07	40.81	24	110.96	57.47	44.02	平均値	119.53	61.46	46.76

第12表　浜場遺跡　集石４　出土礫計測表

	重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)		重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)
1	199.13	75.23	71.41	25	38.95	57.87	32.74	49	170.32	82.79	65.5
2	11.09	42.36	20.26	26	58.01	51.05	38.95	50	34.53	35.6	30.6
3	57.78	66.28	44.47	27	46.74	51.05	33.94	51	76.71	53.57	49
4	74.52	49.54	37.82	28	155.69	76.64	64.66	52	49.84	37.97	30.12
5	95.08	64.49	45.84	29	37.32	45.29	36.33	53	70.52	50.01	46.37
6	54.2	46.66	37.51	30	29.47	34.46	33.87	54	42.48	46.41	38.32
7	89.52	42.88	41.44	31	49.78	73.12	32.12	55	88.42	56.61	43.98
8	131.09	77.53	53.06	32	33.16	43.6	29.34	56	47.32	52.39	42.19
9	54.84	75.8	40.61	33	50.1	59.23	42.89	57	60.31	49.13	35.42
10	49.36	71.13	36.99	34	40.06	45.55	31.29	58	47.89	47.37	36.67
11	39.69	44.13	38.86	35	22.89	39.42	31.53	59	27.2	47.58	41.64
12	55.32	51.66	44.56	36	74.2	53.93	46.06	60	125.96	63.93	42.76
13	35.78	47.95	19.92	37	35.23	51.75	31.22	61	35.79	44.31	39.55
14	50.05	47.42	35.51	38	46.68	45.75	33.28	62	56.1	48.67	45.48
15	74.95	52.79	39.6	39	62.75	61.7	36.16	63	138.5	69.46	40.27
16	20.76	36.32	23.27	40	35.7	38.14	38.02	64	43.93	46.2	33.26
17	34.29	44.29	39.82	41	44.31	41.69	37.8	65	29.04	41.78	34.17
18	10.62	28.57	23.18	42	45.34	47.34	36.49	66	53.52	52.04	33.96
19	31.92	58.9	19.66	43	99.42	62.64	45.8	67	61.39	44.2	41.52
20	180.25	75.58	65.28	44	62.76	42.92	38.12	68	123.64	66.16	50.16
21	46.09	58	40.49	45	88.72	82.75	39.36	69	66.51	57.7	41.48
22	50.62	54	45.06	46	47.7	46.61	31.44	70	93.21	50.84	41.62
23	76.09	73.68	41.82	47	50.83	55.77	36.38	計	4367.11		
24	18.4	41.64	23.87	48	26.73	33.18	30.26	平均値	62.38	53.04	38.89



第17図　浜場遺跡　炭化物集中地点５　遺構配置図

イ　炭化物集中地点

Ⅸ－ｂ層上面において、炭化物集中地点が５基検出された。この遺構から出土している炭化物は直径２～３㎜程度の微細なものであり、その炭化物出土の範囲内からは石匙未製品（57）、石核（58）、剥片（83）及び剥離片（86～93）が出土している。

①炭化物集中地点１（第19図）

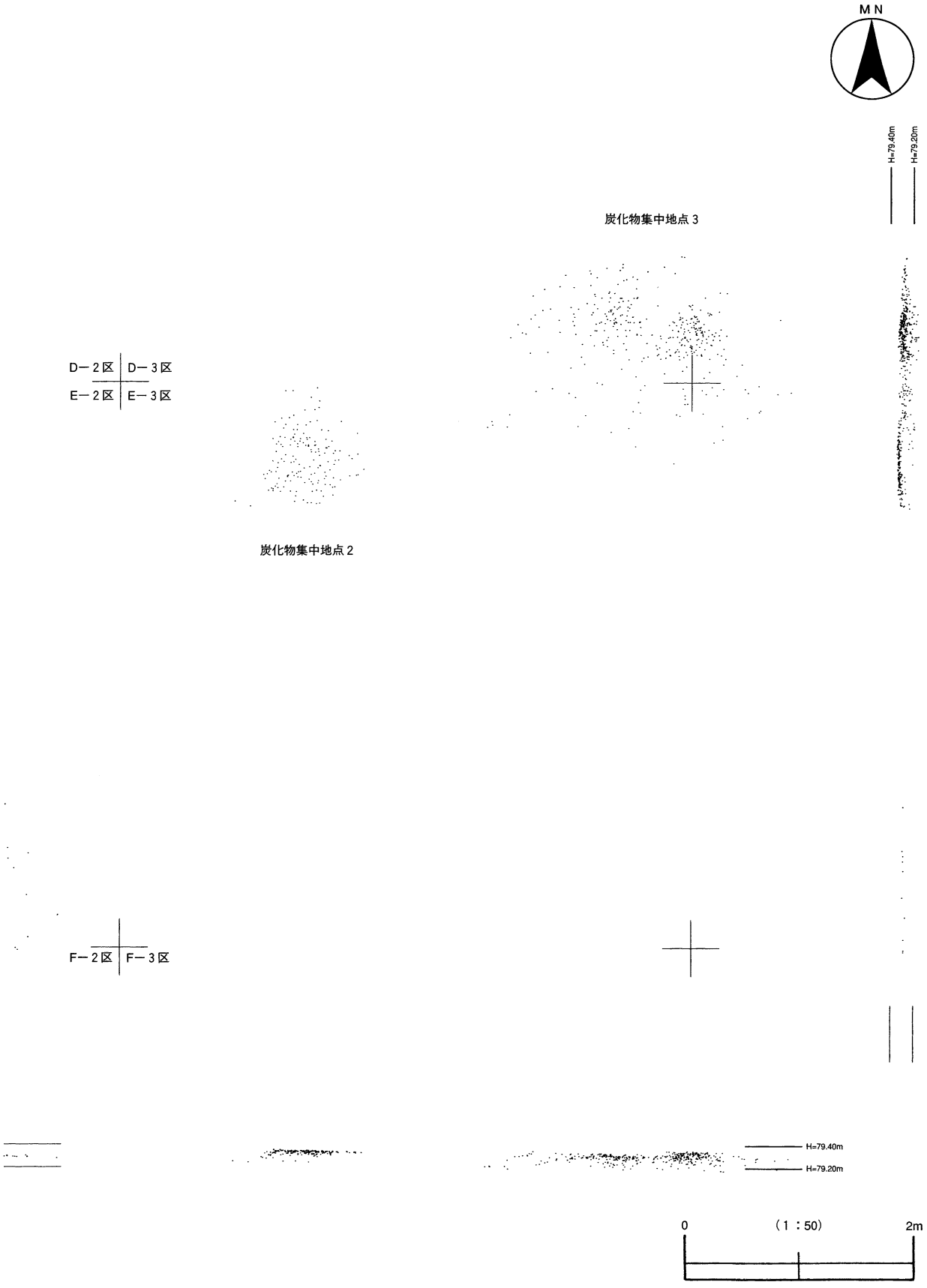
炭化物集中地点１はＥ・Ｆ－２区に検出された。炭化物の平面分布は約１ｍ×0.8ｍの楕円形の範囲内にやや疎な状態で広がり、水平分布は検出面とほぼ同一レベルに出土した。また炭化物の出土が認められた範囲内のほぼ中心に剥離片１点（87）が出土した。（第16図）

②炭化物集中地点２（第18図）

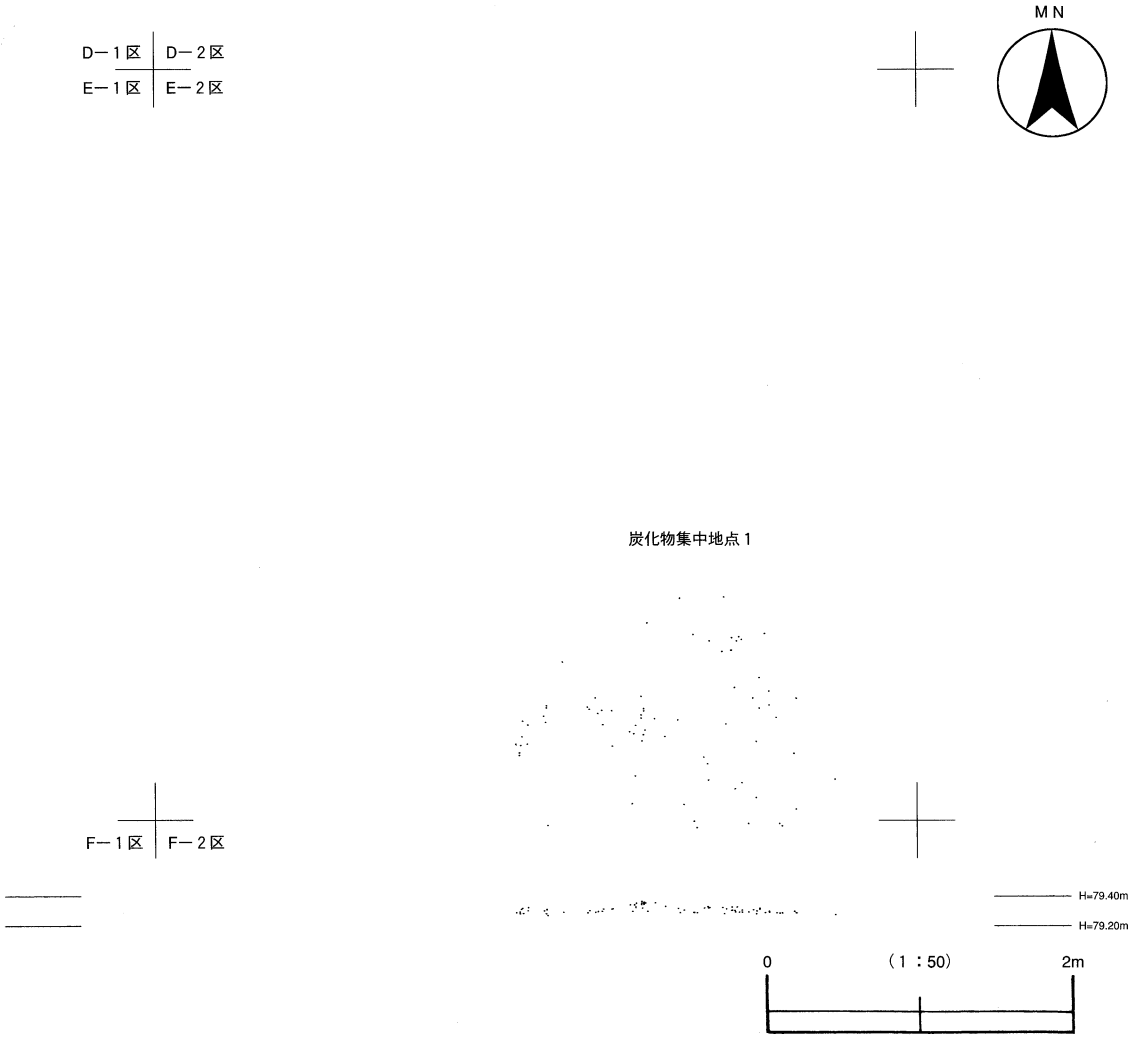
炭化物集中地点２はＥ－３区に検出された。炭化物の平面分布は約1.1ｍ×0.9ｍの楕円形の範囲内に密な状態で広がり、水平分布は検出面とほぼ同一レベルに出土した。

③炭化物集中地点３（第18図）

炭化物集中地点３はＤ・Ｅ－３・４区に検出された。この遺構からは５基検出された炭化物集中地点の中でも最も多くの炭化物が確認され、炭化物の平面分布は約 2.5ｍ×1.7ｍの楕円形の範囲内に満遍なく広がり、水平分布では検出面から18㎝の範囲に密に出土した。遺構の北西側が事業対象区域外であり、炭化物の出土分布の状況からその広がりが事業対象区域外に延びている可能性もある。また剥離片７点（86・88～93）が出土した。（第16図）



第18図　浜場遺跡　炭化物集中地点２・３　平面・断面図



第19図　浜場遺跡　炭化物集中地点１　平面・断面図

④炭化物集中地点４（第 15 図）

炭化物集中地点４はＦ－３・４区に検出された。炭化物の平面分布は約 1.4m×0.6m の半円形の範囲内に密な状態で広がり、水平分布は検出面とほぼ同一レベルに出土した。また遺構の南側が事業対象区域外であり、炭化物の出土分布の状況からその広がりが事業対象区域外に延びている可能性が充分に考えられる。また石匙未製品 (57)、石核 (58)、剥片 (83) がそれぞれ１点ずつ、炭化物の出土が認められた範囲内に出土した。(第 16 図)

⑤炭化物集中地点５（第 17 図）

炭化物集中地点５はＤ－９・10 区に検出された。炭化物の平面分布は約 3.6m×1.1 mの半楕円形の範囲内に疎な状態で広がり、水平分布は検出面とほぼ同一レベルに出土した。また遺構の南側が事業対象区域外であり、炭化物の出土分布の状況からその広がりが事業対象区域外に延びている可能性が充分に考えられる。

Ⅸ－ａ・ｂ層出土土器

本調査では、縄文時代早期の遺物包含層Ⅸ－ａ層から210点、Ⅸ－ｂ層から５点の土器が確認された。これらの遺物を施文等から下記の定義により分類を試みた。

第Ⅰ群　口唇部外端に貝殻刺突による刻目を施し、その下位に斜位の貝殻条痕文を施文するもの。

第Ⅱ群　胴部に縦位又は斜位の貝殻刺突文を施文するもの。

第Ⅲ群　口縁部に斜位の貝殻刺突文を施し、その下位に貝腹復縁による綾杉状に幅広な貝殻条痕文を施文するもの。

第Ⅳ群　口縁部内面に横位の胴部外面に縦位の浅い山形押型文を施文するもの。

第Ⅴ群　胴部に間隔をおきながら、2 ㎝程度の幅狭な撚糸文帯を縦位に施し、その上に横位の沈線文帯を施文するもの。

第Ⅵ群　口縁部及び胴部に横位又は斜位の細沈線を施すもの。

第Ⅶ群　口縁部に貝殻連続刺突文や幾何学状沈線文を施し、胴部には条線を幾何学的に構成するもの。

第Ⅷ群　口縁部とその下位に横位の貼付短突帯が巡り、その突帯に貝殻腹縁による刺突文を施し、胴部に貝殻腹縁による小波状の押引文を施文するもの。

第Ⅸ群　胴部に貝殻腹縁による波状文を施文するもの。

第Ⅹ群　土器と判別できるが、残存部位が小さく形式不明のもの。

①第Ⅰ群

第Ⅰ群は「口唇部外端に貝殻刺突による刻目を施し、その下位に斜位の貝殻条痕文を施文するもの。」と定義した。型式は縄文時代早期前葉の前平式土器に比定される。第Ⅰ群に属すると判断した土器片は３点確認された。その全点（７～９）を実測・図化（第21図）した。この群の出土分布は、３区西側のＥ－２区、Ｆ－３区に広がる。分布の傾向は出土量が少ないため判断が困難である。

７・８は深鉢の口縁部である。直行しており、７の口縁部の端部は丸みを帯び、８は外面に口唇部外端に見られる貝殻刺突が１条認められ、口唇部が欠けたと思われ、口縁部端部の形状は不明である。９は深鉢の胴部である。外面に斜位・横位の貝殻条痕文が施文され、上端には輪積みの接合痕が露出している。また７～９の土器片は胎土に含まれる混砂量が多含であるため器面が剥離しやすく、内面調整は粗い。

②第Ⅱ群

第Ⅱ群は「胴部に縦位又は斜位の貝殻刺突文を施文するもの。」と定義した。型式は縄文時代早期前葉の加栗山式土器に比定される。第Ⅱ群に属すると判断した土器片は１点確認された。その１点（10）を実測・図化（第21図）した。この群は１点のみの出土であり、Ｄ－6区で出土した。分布の傾向は出土量が少ないため判断が困難である。

10は深鉢の胴部である。器壁は比較的薄く、縦位の貝殻刺突文間を斜位の貝殻刺突文で埋めており、刺突文の間隔は特に疎である。

第20図　浜場遺跡　縄文時代早期土器　遺物出土状況　全体図

③第Ⅲ群

第Ⅲ群は「口縁部に斜位の貝殻刺突文を施し、その下位に貝腹復縁による綾杉状に幅広な貝殻条痕文を施文するもの。」と定義した。型式は縄文時代早期中葉の石坂式土器に比定される。第Ⅲ群に属すると判断した土器片は６点確認された。そのうち接合遺物を含む４点（11～14）を実測・図化（第21図）した。この群の出土分布は１区西側のＣ・Ｄ－９区に出土し、調査区のほぼ中央に広がる。分布の傾向は、この土器群は他の土器群とは出土分布が異なり、縄文早期土器の遺物分布の東端に出土し、分布域も大別され、台地の東斜面に出土分布が見込まれる。

11～14は深鉢の胴部である。11は胴部の上位に斜位の貝殻連続刺突文と、その下位に区切りを示すような１条の横位の貝殻刺突文が見られることから、口縁部に近い部位であると思われる。12・13は斜位の幅広な貝殻条痕文が施文され、14は胴部上位に斜位と横位の貝殻条痕文が見られることから底部に近い部位と思われる。また、12・14は内面調整が丁寧にナデているが、その他は混砂量が多含なためか剥離が認められる。

④第Ⅳ群

第Ⅳ群は「口縁部内面に横位の胴部外面に縦位の浅い山形押型文を施文するもの。」と定義した。型式は縄文時代早期中葉の手向山式土器に比定される。第Ⅳ群に属すると判断した土器片は20点確認された。そのうち接合遺物を含む９点（15～21）を実測・図化（第21図）した。この群の出土分布は３区西側のＥ－２・３区に広がり、主にＥ－２区に多く出土が見られた。分布の傾向は調査区の西端に集中し、Ｅ－２区からは炭化物集中地点１が確認されており、その検出域と第Ⅳ群はほぼ同レベルでの遺物分布であり、さらに、第Ⅳ群の出土分布はこの炭化物集中地点１の東側に広がる出土分布であり、炭化物集中地点１と第Ⅳ群の関連性が考えられる。

15・16は深鉢の口縁部である。大きく外反し、端部は丸くおさまる。口縁部内面に横位の浅い山形押型文が施文される。15 の外面には工具による横位の細沈線文が刻まれ、細沈線の上下を結んで幾何学上に施文する。17～23は深鉢の胴部である。17～21は外反するように開き、浅い山形押型文を施文する。22・23は胴部中位のが「く」字状に屈曲する部位である。15～21の胎土に含まれる鉱物が微細で、胎土のキメが細かい。

⑤第Ｖ群

第Ｖ群は「胴部に間隔をおきながら、2 ㎝程度の幅狭な撚糸文帯を縦位に施し、その上に横位の沈線文帯を施文するもの。」と定義した。型式は縄文時代早期後葉の塞ノ神Ａａ式に比定される。第Ｖ群に属すると判断した土器片は47点確認された。そのうち接合遺物を含む６点（24～29）を実測・図化（第21・22図）した。この群の出土分布は、３区のほぼ全域のＥ・Ｆ－２～４区に広がり、主にＥ－３区に多く出土が見られた。分布の傾向は調査区の西端に集中し、またＥ－４区の西側には遺物分布は確認できず、Ｅ－４区の南西側に広がっているように推測される。また、Ｅ－４区からは第Ｖ群の分布とほぼ同レベルで集石１が確認されており、第Ｖ群の出土分布はこの集石１の南側に広がっていることから、集石１と第Ｖ群の関連性が考えられる。

24～28は深鉢の胴部である。24は緩やかに内湾し、胴部上位に５条の沈線文帯が巡り、

その沈線は２条単位で上下が弧状に繋がる。25・27・28 は横位の沈線文帯が施文されている。28 は下位が肥厚し、底部に近いと思われる。26 は１条の横位の沈線文と幅狭な縦位の撚糸文帯が施文される。29 は深鉢の底部である。外面に４条の縦位の撚糸文帯が施文される。

⑥第Ⅵ群

第Ⅵ群は「口縁部及び胴部に横位又は斜位の細沈線を施すもの。」と定義した。型式は塞ノ神Ａ式の施文様式を踏襲しているように思われ、塞ノ神Ａ式の範疇の括りで分類した。第Ⅵ群に属すると判断した土器片は４点確認された。そのうち２点（30・31）を実測・図化（第 22 図）した。この群の出土分布は、３区東側のＥ－６区にのみ認められる。分布の傾向は出土量が少ないため判断が困難である。

30 は深鉢の口縁部である。大きく開いて直行し、外面に横位又は斜位の細沈線文が４条確認でき、その施文に規則性は感じられない。内面・外面の調整は粗く器面は歪で、著しく煤が付着する。31 は深鉢の胴部である。外面に横位の細沈線文が３条確認でき、途中で細沈線が終了している。30 同様内面・外面の調整は粗く器面は歪で、著しく煤が付着する。

⑦第Ⅶ群

第Ⅶ群は「口縁部に貝殻連続刺突文や幾何学状沈線文を施し、胴部には条線を幾何学的に構成するもの。」と定義した。型式は縄文時代早期後葉の塞ノ神Ｂｄ式に比定される。第Ⅶ群に属すると判断した土器片は 48 点確認された。そのうち接合遺物を含む８点（32～39）を実測・図化（第 22 図）した。この群の出土分布は、３区のほぼ中央のＤ－３・４区、Ｅ－２～５区、Ｆ－２・３区に広がり、主にＤ・Ｅ－３・４区に多く出土が見られた。分布の傾向は調査区の西端に集中し、Ｄ－３・４区からは炭化物集中地点３が確認されており、その検出域と第Ⅶ群はほぼ同レベルでの遺物分布であり、さらに、第Ⅶ群の出土分布はこの炭化物集中地点３の周りを巡るような出土分布であり、炭化物集中地点３と第Ⅶ群の関連性が考えられる。

32・33 は深鉢の口縁部である。32 は、口縁部に縦位の貝殻腹縁による貝殻連続刺突文が横位に廻り、その下位に斜位の条線が施文される。33 は 32 同様に口縁部に縦位の貝殻腹縁による貝殻連続刺突文が横位に廻る。34～39 は深鉢の胴部である。34 は胴部が緩やかに内湾し、頸部から口縁部に向かってラッパ状に開く。外面に縦位の貝殻腹縁による貝殻連続刺突文とその下位に格子状の貝殻条痕文が施され、さらにその下位に縦位の貝殻腹縁による貝殻連続刺突文が横位に等間隔に３条廻り、その下位に格子状の貝殻条痕文が施文される。35 は下位に貝殻腹縁による貝殻条痕文が深く横位に施文される。36 は下位に斜位の貝殻腹縁による貝殻条痕文が施文される。37 は横位の沈線文とその下位に縦位の貝殻腹縁による貝殻連続刺突文が横位に施文される。38 は縦位の貝殻腹縁による貝殻連続刺突文が横位に施され、その下位に幾何学状の沈線文が施文される。39 は底部に近いと思われ、外面に幾何学状の条痕文を施した後ナデ磨いているように思われる。

⑧第Ⅷ群

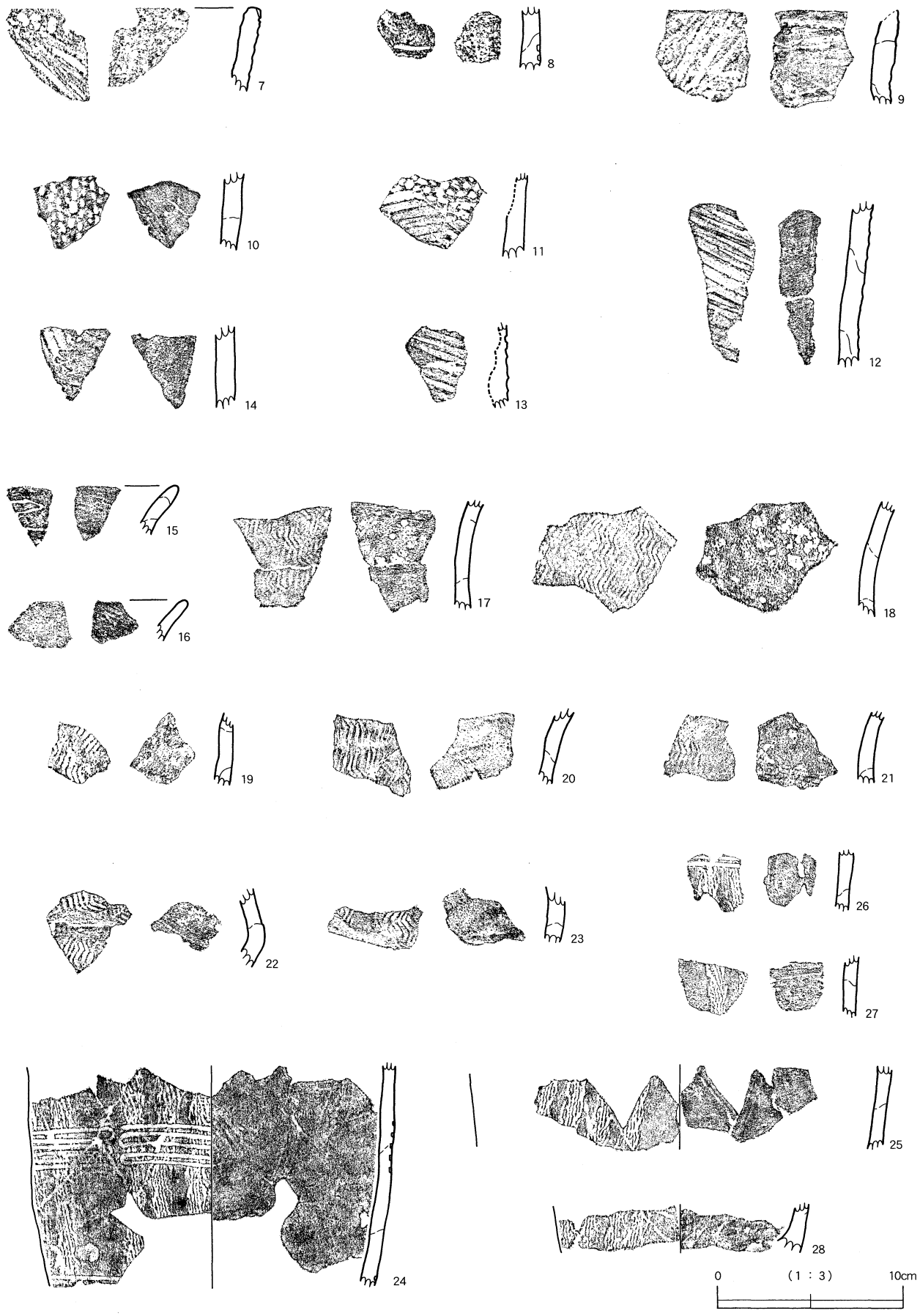
第Ⅷ群は「口縁部とその下位に横位の貼付短突帯が廻り、その突帯に貝殻腹縁による刺突文を施し、胴部に貝殻腹縁による小波状の押引文を施文するもの。」と定義した。型式は縄文時代早期後葉の苦浜式土器に比定される。第Ⅷ群に属すると判断した土器片は56点確認された。そのうち接合遺物を含む９点（40～48）を実測・図化（第23図）した。この群の出土分布は、３区のほぼ中央のＥ－２・３区、Ｆ－２・３区に広がり、主にＥ－３区に多く出土が見られた。分布の傾向は調査区の西端に集中し、Ｅ－３区からは炭化物集中地点２が確認されており、その検出域と第Ⅷ群はほぼ同レベルでの遺物分布であり、さらに、第Ⅷ群の出土分布はこの炭化物集中地点２の西側に広がる出土分布であり、炭化物集中地点２と第Ⅷ群の関連性が考えられる。

この土器群は混砂量が多含であり、器面が剥離しやすいことも特徴である。また内面の調整は粗く器壁が歪である。40～43は深鉢の口縁部である。いずれも小片であるため、断定はできないが口縁部は直行するものと思われる。40～42は口縁部・口唇部に横位の貼付短突帯を巡らす。40は口唇部に貝殻腹縁による縦位の刺突が刻まれ、その下位に貼り付けた短突帯にも貝殻腹縁による縦位の刺突が刻まれる。41・42は口唇部が見られない。41は貼り付けた短突帯の下位に、貝殻腹縁による小波状と思われる押引文が施文される。42は貼り付けた短突帯に貝殻腹縁による縦位の刺突が刻まれ、その下位に斜位の条痕文が施文される。43は貼付短突帯を持たない。口唇部がやや肥厚気味で、その下位に斜位の条痕文が施文される。44～48は深鉢の胴部である。44は貝殻腹縁による小波状の押引文が３条を単位にして深く施文される。器壁は厚い。45は横位の貼付短突帯が廻り、突帯には貝殻腹縁による縦位の刺突が刻まれる。その下位は貝殻腹縁による器面調整をした後ナデ磨きを施している。また器形は器面に凹凸が見られるものの、頸部から口縁部に向かって緩やかに開き、頸部に締まりも見られないことから円筒形状を呈すると思われる。44と同様器壁は厚い。46は上位に貼付短突帯の断片が見られ、その下位に斜位の貝殻腹縁による押引文が施文される。47は貝殻腹縁による小波状の押引文が深く施文される。また焼成前に穿ったと見られる孔が施文の上位に見られる。48は貝殻腹縁による横位の押引文が深く施文される。また47と同様に焼成前に穿ったと見られる孔が施文の上位に見られる。

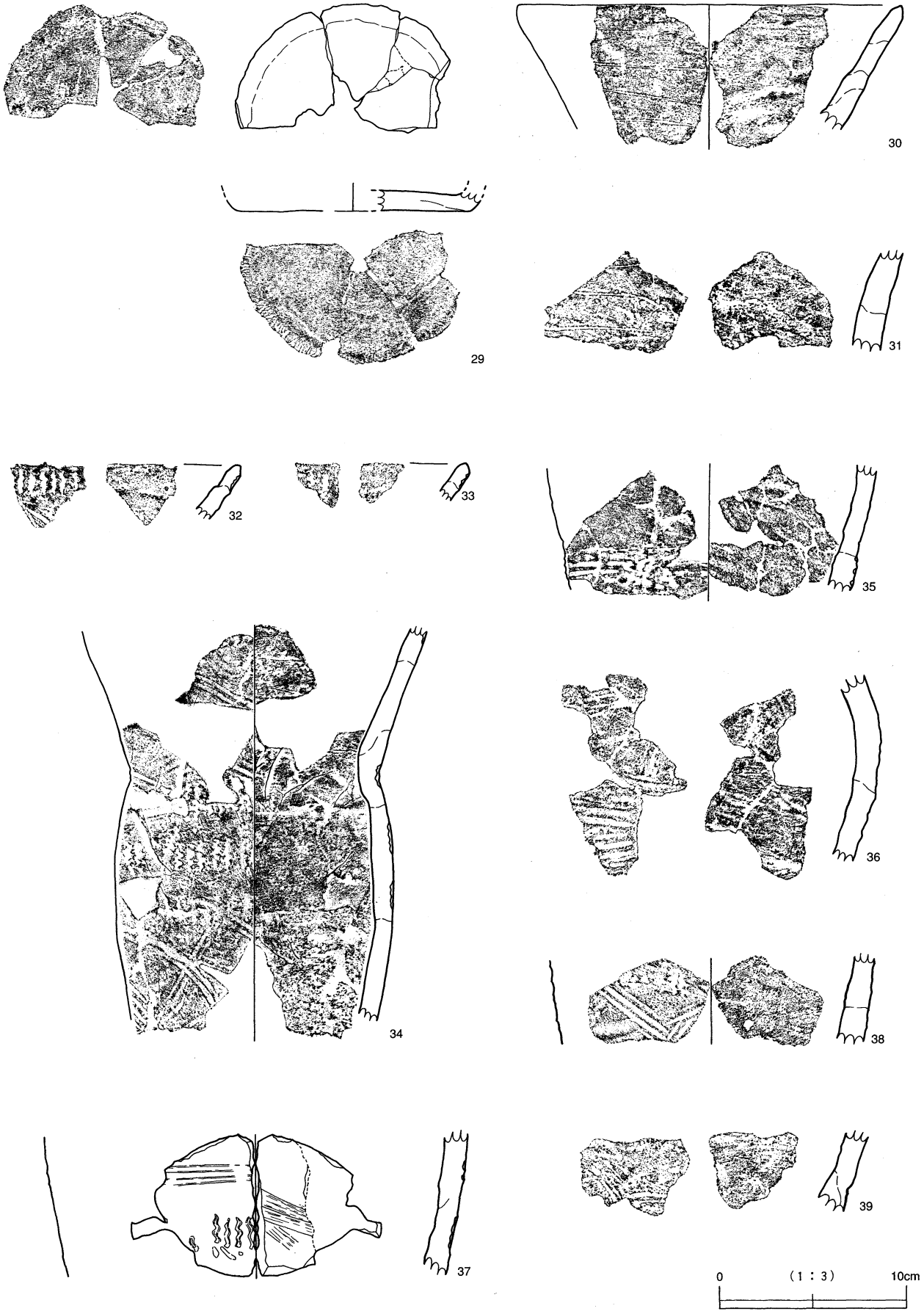
⑨第Ⅸ群

第Ⅸ群は「胴部に貝殻腹縁による波状文を施文するもの。」と定義した。型式は第Ⅷ群と同様に縄文時代早期後葉の苦浜式土器に比定される。第Ⅸ群に属すると判断した土器片は４点確認された。そのうち接合遺物を含む２点（49・50）を実測・図化（第23図）した。この群の出土分布は、３区の西端のＦ－２区のみに認められる。分布の傾向は出土量が少ないため判断が困難である。

49・50は深鉢の胴部である。２条から３条を単位とした横位の貝殻腹縁による波状文を施文し、内面には工具によるケズリが斜位或いは横位に調整がなされている。また器形は頸部から口縁部に向かって開き、頸部に締まりも見られないことから円筒形状を呈すると思われる。50には縦位と横位に１条ずつ貼り付けた短突帯が見られ、その突帯には貝殻刺突が深く刻まれる。



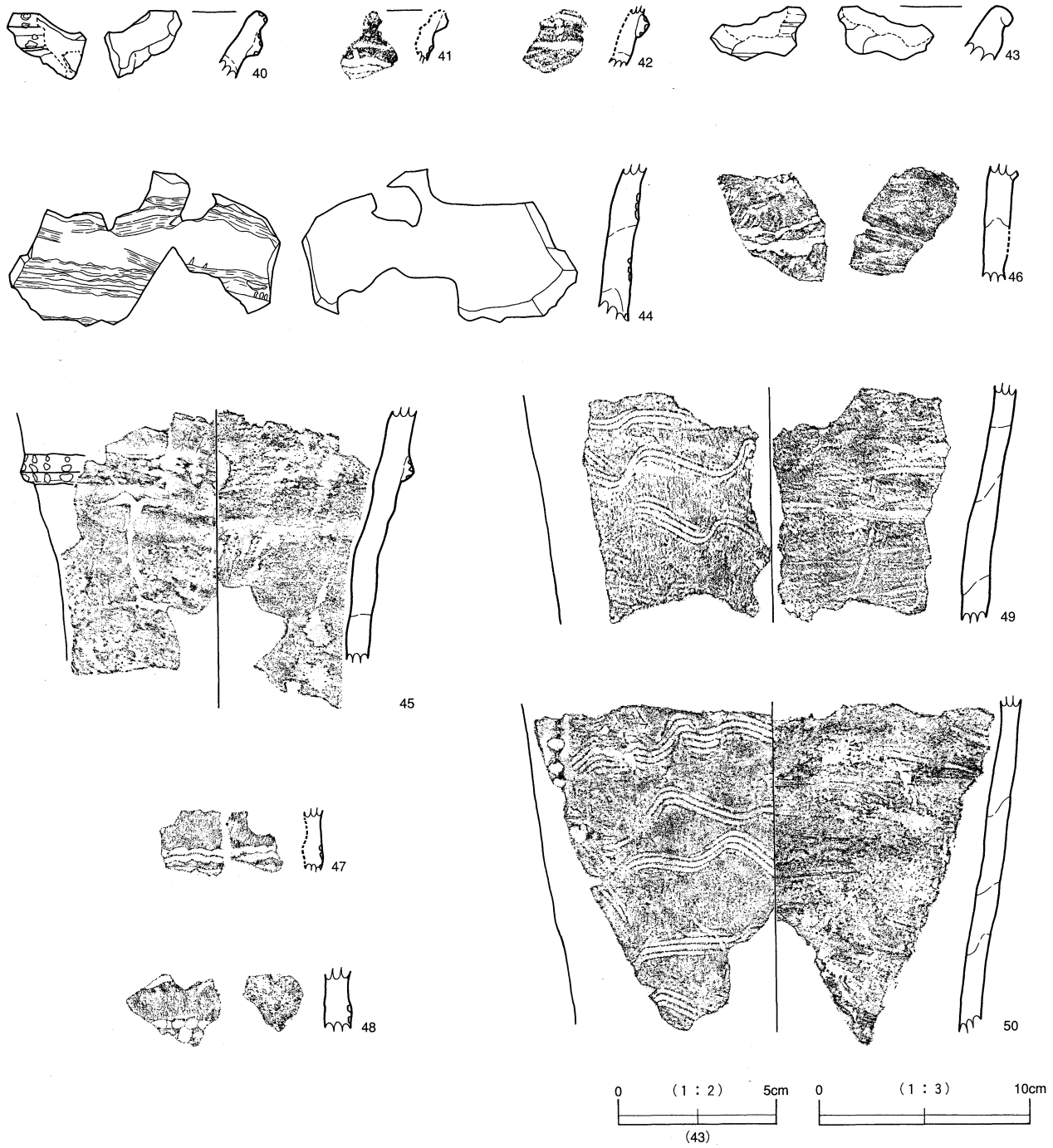
第21図　浜場遺跡　縄文時代早期土器　1



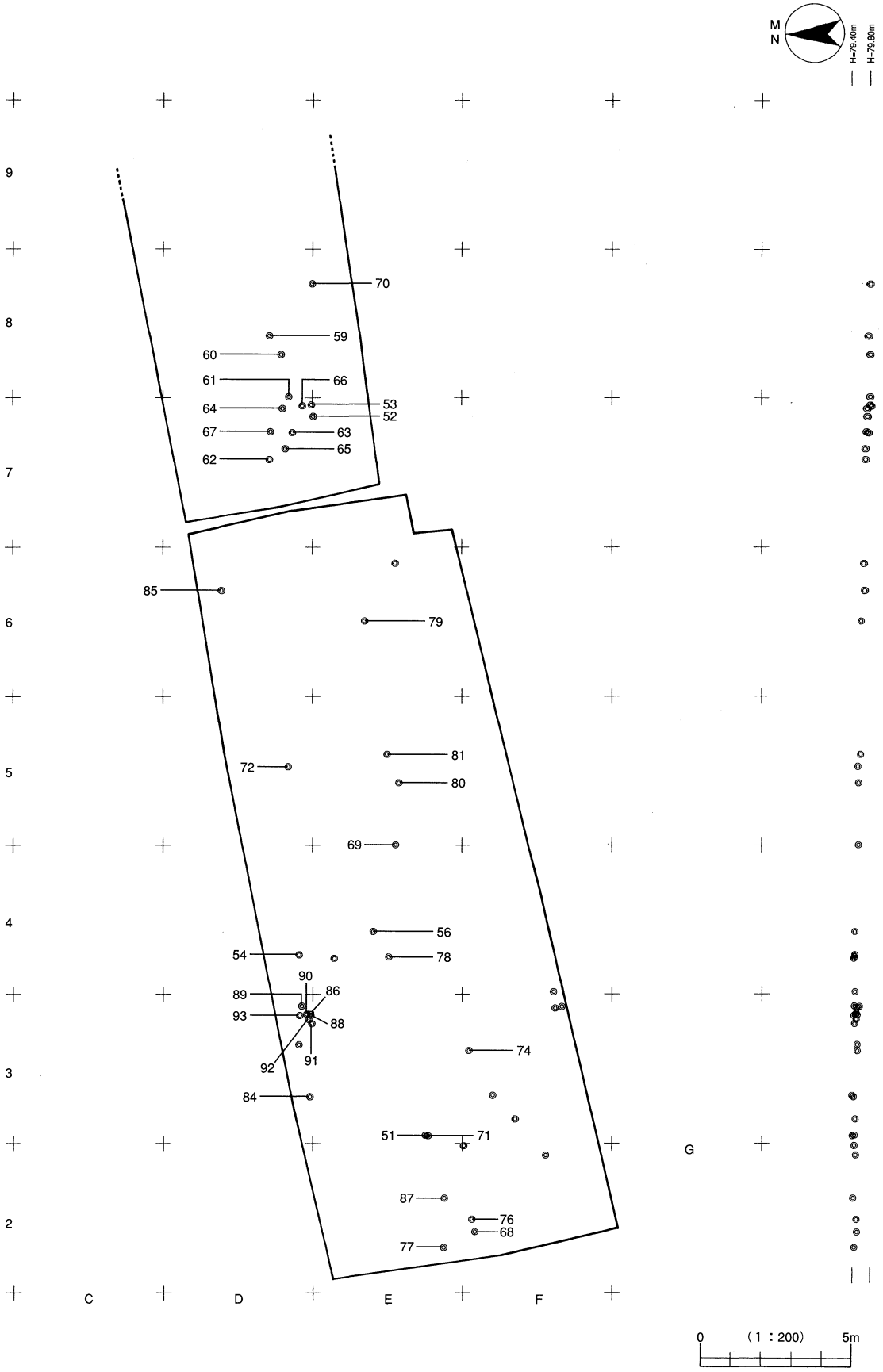
第22図　浜場遺跡　縄文時代早期土器　2

⑩第Ｘ群

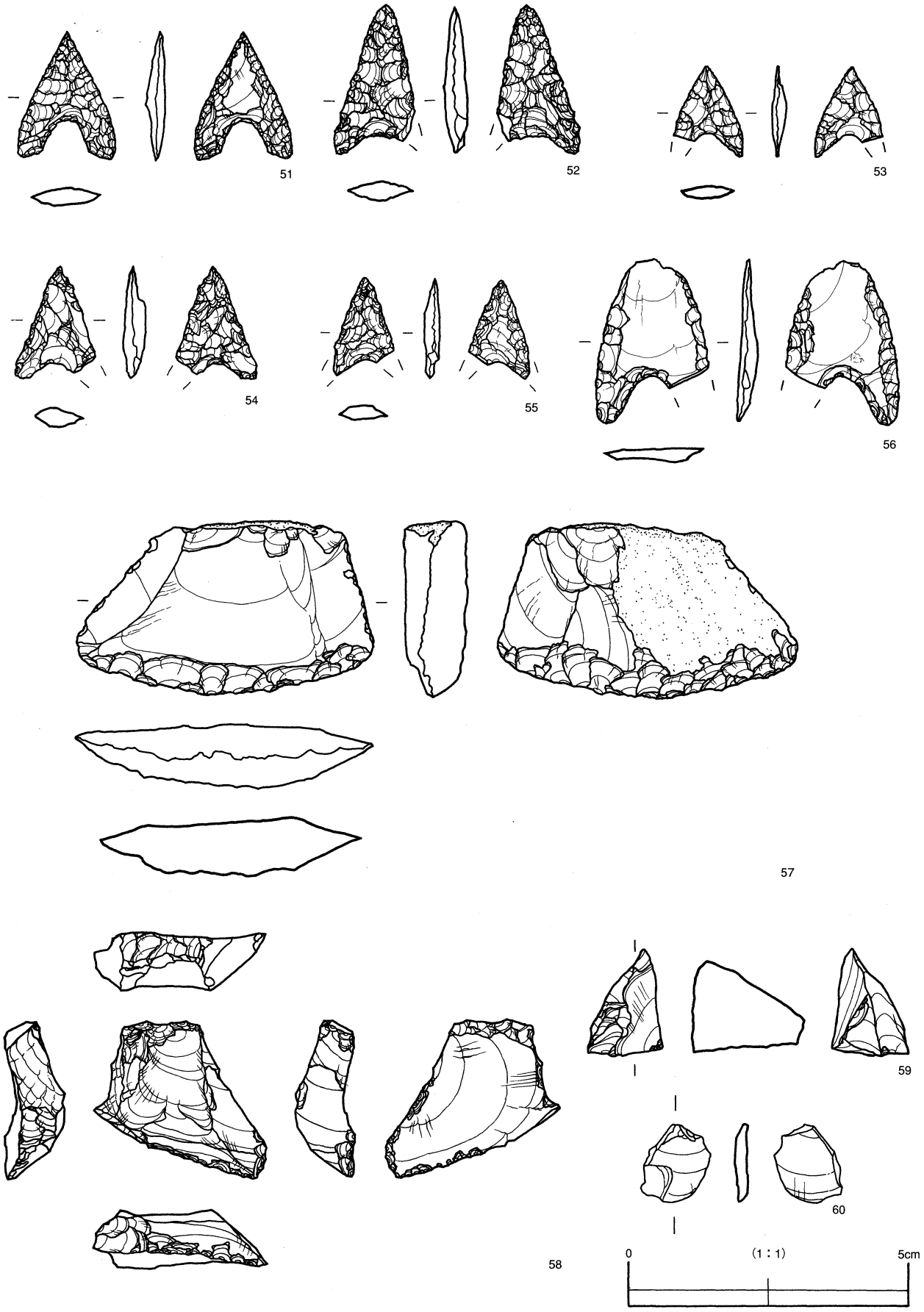
第Ｘ群に属すると判断した土器片は 27 点確認された。第Ｘ群は土器と判別できるが、残存部位が小さく型式不明のものであるため、実測・図化をせず、文章の表現のみに留める。この群の出土分布は３区のほぼ全域に広がり、Ｄ－４区、Ｅ－２～７区、Ｆ－２・３区に認められる。個々の出土区等は第 16 表のとおりである。



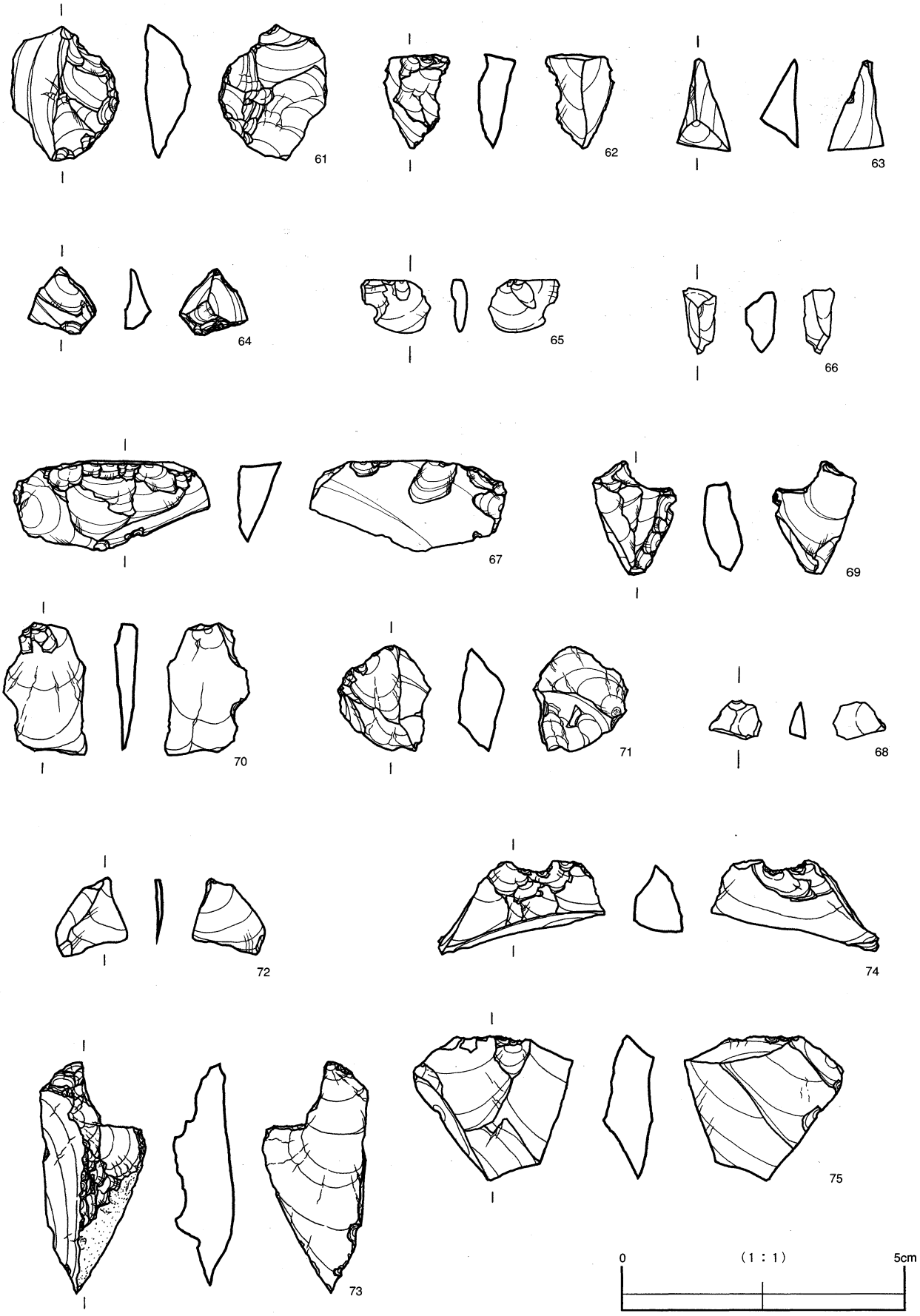
第23図　浜場遺跡　縄文時代早期土器　3



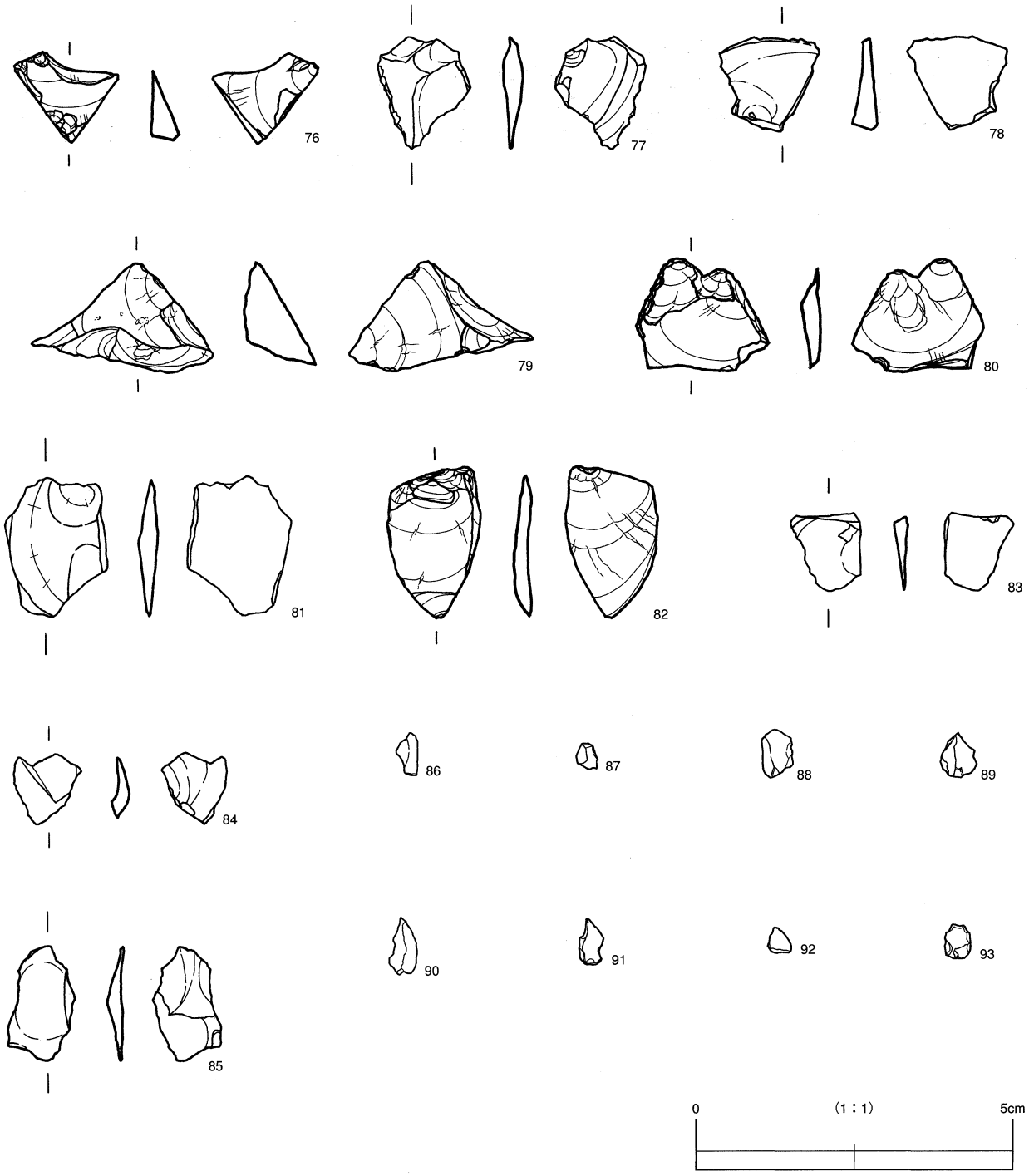
第24図　浜場遺跡　Ⅸ－a層出土　石器出土状況　全体図



第25図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器　1



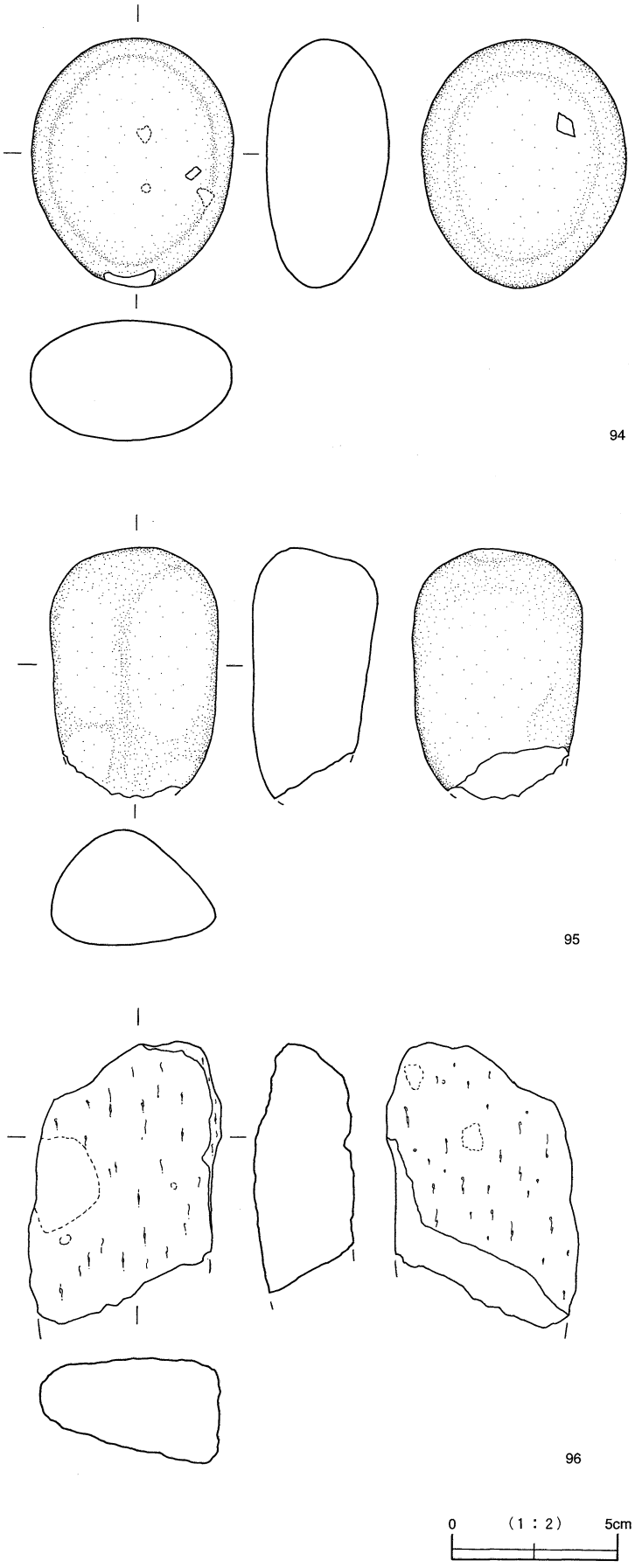
第26図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器　2



第27図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器　3

Ⅸ－ａ層出土石器

Ⅸ－ａ層より石器と認められる遺物は47点出土した。うち45点（51～96）を実測・図化（第25～28図）した。石鏃６点、石匙未成品１点、石核１点、剥片27点、剥離片８点、磨石２点、軽石製品１点の組成である。剥離片についてはかなりの小片であるが、炭化物が集中して出土した地点の範囲内より出土し、（第16図）その関連性を無視出来ないことから遺物として整理し、実測・図化（第27図）を試みた。



第28図　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器　4

石器の分布は、複数点の出土が認められた遺物の分布を見ると、石鏃がＤ－４・７区、Ｅ－３・７区、Ｆ－２区でそれぞれ出土している。剥片はＤ－３・５～８区、Ｅ－２～６区、Ｆ－２・３区で出土し、Ｄ－７・８区、Ｆ－３区に多く分布する。剥離片がＤ－２・３区、Ｅ－２区で出土し、Ｄ－３・４区で検出された炭化物の集中出土地点３に多く分布する。磨石はＦ－２・３区で出土している。いずれの石器の分布は縄文時代早期調査区の西側に確認され、調査区東側のＣ～Ｅ－９・10区には全く石器は確認することは出来なかった。

なお、石質に着目した場合、分布の特徴として姫島産と思われる黒曜石に分類される石器は、Ｄ・Ｅ－４・５・７・８区、Ｆ－２・４区に出土している。とりわけＤ・Ｅ－７区の約３ｍの範囲内に石鏃２点、剥片７点の集中した分布が確認されている。また黒色安山岩に分類される石器は、Ｄ－３区、Ｆ－２・３区、Ｅ－２・４～６区に出土している。前述の姫島産と思われる黒曜石と同様な集中した分布は確認されなかったが、調査区の南西側に遺物の分布が見られる。

51～56は石鏃である。51はチャート製である。完形で抉入部が深い抉りをもつ薄手の石鏃である。52～54は姫島系の黒曜石製である。52は長身で先端角も狭く、抉入部が深い抉りをもつ薄手の石鏃である。右肩が欠損

している。53 は抉入部が深い抉りをもつ比較的小型の石鏃である。左肩が欠損している。54 は抉入部が比較的浅い抉りをもつ薄手の石鏃である。右肩が欠損している。55 は頁岩製であり、抉入部が比較的浅い抉りをもつ薄手の石鏃である。両肩が欠損している。56 は石鏃の未成品と思われ、抉入部が深い抉りをもつ薄手の石鏃である。先端部は丸くおさまり、右肩が欠損している。57 は石匙の未成品と思われる。自然面が見られ刃部は３箇所と思われるが、刃部に微細な剥離は見られるものの加工が少なく、茎部は折損している。58 は石核である。自然面が見られ、剥離面も少ない。59～85 は剥片である。59～69 は姫島系の黒曜石製、70～72 はチャート製と思われる。73～83 は黒色安山岩製、84・85 は安山岩製である。59・61～64・66・67・69～71・73～83・85 はフレーク状の剥片であり、60・65・68・72・84 はチップ状の剥片で、剥離面数も比較的少ない。86～93 は剥離片である。86・87 は黒色安山岩製、88・89 は安山岩製と思われ、90～93 は石質が不明である。いずれも長さが１㎝に満たない、最大厚が１㎜程度の薄い剥片である。94･95 は砂岩製の磨石である。94 は表面に研磨による磨耗面があり、底面は平坦に近い。95 は底面が平坦で、研磨による磨耗面が全ての面にある。96 は軽石製の軽石製品である。岩質がもろく表面に剥落が多いため、使用の用途等不明であるが、器形の成形など人為的に加工を加えていることから、石器として判断した。

第 13 表　浜場遺跡　縄文早期土器観察表（1）

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面	施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂			口径	底径	器高	
第 21 図	7	346	F-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	前平式土器	○	○	○	○		○	7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：貝殻連続刺突文 斜位貝殻条痕文 調整：ナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	4.6	Ⅰ群
第 21 図	8	348	F-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	前平式土器	○		○	○		○	10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	施文：貝殻連続刺突文 斜位貝殻条痕文 調整：ナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	3.2	Ⅰ群
第 21 図	9	402	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	前平式土器	○	○				○	7.5YR6/6 橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	施文：斜状貝殻条痕文 調整：ナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	5.0	Ⅰ群 輪積みの接合痕が露出
第 21 図	10	1043	D-6 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	加栗山式土器		○		○	○	○	5YR5/6 明赤褐色 7.5YR6/6 橙色	施文：縦位貝殻刺突文 斜位貝殻刺突文 調整：ナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	4.2	Ⅱ類 施文の間隔が疎
第 21 図	11	628	D-9 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	石坂式土器	○	○				○	7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	施文：縦位貝殻連続刺突文 貝殻綾杉条痕文 調整：ナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	4.3	Ⅲ類 内面に一部剥離あり
第 21 図	12	629 確 83	D-9 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	石坂式土器	○	○		○		○	7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	施文：斜位貝殻条痕文 調整：ナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	8.8	Ⅲ類
第 21 図	13	632 633	D-9 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	石坂式土器	○	○		○		○	7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	施文：斜位貝殻条痕文 調整：ナデ 施文：— 調整：—	—	—	4.5	Ⅲ類 内面が全剥離
第 21 図	14	630	C-9 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	石坂式土器	○	○	○	○		○	7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	施文：斜・横位貝殻条痕文 調整：ナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	4.4	Ⅲ類
第 21 図	15	406	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	手向山式土器	○					○	2.5Y7/3 浅黄色 2.5Y8/4 淡黄色	施文：横位沈線文 調整：ナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	2.7	Ⅳ類 胎土が似る
第 21 図	16	400	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	手向山式土器	○			○		○	2.5Y7/3 浅黄色 2.5Y7/3 浅黄色	施文：無 調整：丁寧なナデ 施文：横位山形押型文 調整：丁寧なナデ	—	—	2.2	Ⅳ類
第 21 図	17	386 654	E-2・3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	手向山式土器	○	○				○	2.5Y7/3 浅黄色 2.5Y7/4 浅黄色	施文：縦位山形押型文 調整：丁寧なナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	5.6	Ⅳ類
第 21 図	18	655	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	手向山式土器	○	○		○		○	2.5Y7/3 浅黄色 2.5Y8/4 淡黄色	施文：縦位山形押型文 調整：ナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	6.2	Ⅳ類
第 21 図	19	423	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	手向山式土器	○	○				○	2.5Y7/4 浅黄色 2.5Y7/3 浅黄色	施文：縦位山形押型文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	3.9	Ⅳ類
第 21 図	20	560	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	手向山式土器	○		○	○		○	2.5Y7/3 浅黄色 2.5Y7/3 浅黄色	施文：縦位山形押型文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	3.9	Ⅳ類
第 21 図	21	656	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	手向山式土器	○					○	2.5Y7/4 浅黄色 2.5Y7/4 浅黄色	施文：縦位山形押型文 調整：ナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	3.8	Ⅳ類 施文が浅い
第 21 図	22	648	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	手向山式土器	○		○			○	2.5Y7/3 浅黄色 2.5Y7/3 浅黄色	施文：縦位山形押型文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	4.3	Ⅳ類
第 21 図	23	653	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	手向山式土器						○	2.5Y6/3 にぶい黄色 2.5Y6/3 にぶい黄色	施文：縦位山形押型文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ 一部指頭圧痕	—	—	3.1	Ⅳ類 外面に煤付着
第 21 図	24	354・371・384 429・431・432 434・444・476 481・537・584 669・670	F-3 区 E-3・4 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○	○	○	○	○	○	7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	施文：縦位・斜位撚糸文 横位沈線文 調整：丁寧なナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	11.9	Ⅴ類 Ａａ式 ５条の沈線の内下４条が上下で繋がる
第 21 図	25	380・665 1247	E-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○	○	○	○	○	○	7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：縦位撚糸文 調整：丁寧なナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	4.5	Ⅴ類 Ａａ式
第 21 図	26	392・664	E-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器				○	○	○	7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：縦位撚糸文 横位沈線文 調整：丁寧なナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	3.1	Ⅴ類 Ａａ式
第 21 図	27	572	E-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○			○		○	2.5Y4/2 暗黄灰色 7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：縦位撚糸文 調整：丁寧なナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	3.2	Ⅴ類 Ａａ式 外面に煤付着

第 14 表　浜場遺跡　縄文早期土器観察表（2）

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面	施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂			口径	底径	器高	
第 21 図	28	341・1195 1232	F-2・3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○	○	○		○	○	7.5YR7/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	施文：縦位撚糸文 調整：丁寧なナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	2.6	Ⅴ群 Aa式 底部に近い
第 22 図	29	383・398 574・671	E-2・3 区 Ⅸ-a・b 層	深鉢	底部	塞ノ神式土器	○	○	○			○	7.5YR7/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	施文：縦位撚糸文 調整：丁寧なナデ 施文：無 調整：ナデ	—	12.6	1.1	Ⅴ群 Aa式
第 22 図	30	1226	E-6 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	塞ノ神式土器	○			○	○	○	7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：横位・斜位細沈線文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ 一部指頭圧痕	20.4	—	6.8	Ⅵ類 外面に著しく 煤付着
第 22 図	31	1227	E-6 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○		○	○		○	7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR4/3 にぶい黄褐色	施文：横位・斜位細沈線文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	5.3	Ⅵ類 外面に著しく 煤付着
第 22 図	32	528	E-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	塞ノ神式土器	○	○		○		○	7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	施文：縦位貝殻連続刺突文 斜位沈線文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	2.9	Ⅶ類 外面に煤付着
第 22 図	33	445	E-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	塞ノ神式土器	○			○		○	7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR5/2 灰黄褐色	施文：縦位貝殻連続刺突文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	2.1	Ⅶ類 外面に煤付着
第 22 図	34	435・482・519 520・521・523 525・529・530 531・532・571 575・579・735	D・E-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○		○	○	○	○	7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：縦位貝殻連続文 格子状斜位沈線文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	21.1	Ⅶ類 小礫は 1 cm大
第 22 図	35	470・473・486 491・492・577 580・600	E-3・4 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○		○	○		○	2.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：横位貝殻押引文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	6.7	Ⅶ類 内面に煤付着
第 22 図	36	356・394 667	E-2 区 F-3 区 Ⅸ-a・b 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○	○	○	○	○	○	7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	施文：斜位貝殻条痕文 調整：ナデ 施文：無 調整：ナデ	—	—	10.1	Ⅶ類
第 22 図	37	313	F-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○	○		○		○	5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：縦位貝殻連続刺突文 横位沈線文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	7.6	Ⅶ類
第 22 図	38	777	E-4 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○			○		○	2.5Y7/4 浅黄色 10YR6/4 にぶい黄橙色	施文：縦位貝殻連続刺突文 幾何学状沈線文 調整：ナデ 施文：無 調整：丁寧なナデ	—	—	4.5	Ⅶ類
第 22 図	39	887	D-4 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	塞ノ神式土器	○	○	○		○	○	7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	施文：斜位貝殻条痕文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	3.5	Ⅶ類 底部に近い？
第 23 図	40	535	E-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	苦浜式土器		○	○		○	○	10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	施文：縦位貝殻連続刺突文 調整：ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	3.1	Ⅷ類 口唇がやや肥厚 短刻目突帯
第 23 図	41	540	E-3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	苦浜式土器		○			○	○	10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	施文：縦位貝殻連続刺突文 小波状貝殻押引文 調整：ナデ 施文：— 調整：—	—	—	2.5	Ⅷ類 短刻目突帯 内面は剥離
第 23 図	42	397	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	苦浜式土器		○	○		○	○	10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	施文：縦位貝殻連続刺突文 調整：ナデ・ケズリ 施文：— 調整：—	—	—	2.9	Ⅷ類 短刻目突帯 内面は剥離
第 23 図	43	569	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	口縁部	苦浜式土器	○				○	○	10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	施文：条痕文 調整：ナデ・ケズリ 施文：— 調整：—	—	—	1.7	Ⅷ類 口唇がやや肥厚 内面は剥離
第 23 図	44	527・573 652	E-2・3 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	苦浜式土器	○	○			○	○	7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	施文：小波状貝殻押引文 調整：ケズリ・ナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	7.3	Ⅷ類
第 23 図	45	315・322・416 427・428・536 539・541・545 549・555・617	E・F-2・3 区 Ⅸ-a・b 層	深鉢	胴部	苦浜式土器	○	○	○		○	○	7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	施文：縦位貝殻連続刺突文 斜位貝殻条痕文 調整：ケズリ・ナデ磨き 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	11.8	Ⅷ類 短刻目突帯
第 23 図	46	417・562	E-2 区 Ⅸ-a 層 横転層	深鉢	胴部	苦浜式土器		○		○	○	○	7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/6 橙色	施文：小波状貝殻押引文 調整：ケズリ・ナデ 施文：無 調整：ナデ・ケズリ	—	—	5.5	Ⅷ類 短刻目突帯？
第 23 図	47	409・564	E-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	苦浜式土器	○	○			○	○	7.5YR6/4 にぶい橙色 —	施文：小波状貝殻押引文 調整：ケズリ・ナデ 施文：— 調整：—	—	—	2.9	Ⅷ類 内面は剥離 孔有
第 23 図	48	294	F-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	苦浜式土器	○	○			○	○	10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	施文：小波状貝殻押引文 調整：丁寧なナデ 施文：無 調整：粗いナデ	—	—	2.8	Ⅷ類 孔有

第 15 表　浜場遺跡　縄文早期土器観察表（3）

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面	施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂			口径	底径	器高	
第 23 図	49	1170	F-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	苦浜式土器	○	○		○		○	7.5YR6/6 橙色	施文：波状貝殻押引文 調整：丁寧なナデ	—	—	11.1	Ⅷ類 短刻目突帯 (縦・横)
													10YR6/4 にぶい黄橙色	施文：無 調整：粗いケズリ				
第 23 図	50	1171	F-2 区 Ⅸ-a 層	深鉢	胴部	苦浜式土器	○	○				○	7.5YR6/4 にぶい橙色	施文：波状貝殻押引文 調整：丁寧なナデ	—	—	15.8	Ⅷ類
													10YR6/4 にぶい黄橙色	施文：無 調整：粗いケズリ				

第 16 表　浜場遺跡　第Ⅹ群　縄文早期土器表

注記番号	出土区	出土層	部位	注記番号	出土区	出土層	部位	注記番号	出土区	出土層	部位
299	F－2 区	Ⅸ-a 層	胴部	661	E－4 区	Ⅸ-a 層	胴部	1197	F－4 区	Ⅸ-a 層	胴部
326	E－3 区	Ⅸ-a 層	胴部	850	E－4 区	Ⅸ-a 層	胴部	1198	F－4 区	Ⅸ-a 層	胴部
355	F－3 区	Ⅸ-a 層	胴部？	884	D－4 区	Ⅸ-a 層	胴部	1214	E－5 区	Ⅸ-a 層	胴部
369	E－3 区	Ⅸ-a 層	胴部？	1139	E－6 区	Ⅸ-a 層	胴部	1216	E－6 区	Ⅸ-a 層	胴部
389	E－3 区	Ⅸ-a 層	胴部	1141	E－6 区	Ⅸ-a 層	胴部	1218	E－6 区	Ⅸ-a 層	胴部
396	E－2 区	Ⅸ-a 層	胴部	1174	F－3 区	Ⅸ-a 層	胴部？	1221	E－6 区	Ⅸ-a 層	胴部
421	E－2 区	Ⅸ-a 層	胴部	1182	F－3 区	Ⅸ-a 層	胴部	1252	D－7 区	Ⅸ-a 層	胴部
424	E－2 区	Ⅸ-a 層	胴部	1194	F－4 区	Ⅸ-a 層	胴部	1253	E－7 区	Ⅸ-a 層	胴部
542	E－3 区	Ⅸ-a 層	胴部	1196	F－4 区	Ⅸ-a 層	胴部	1254	E－7 区	Ⅸ-a 層	胴部

第 17 表　浜場遺跡　Ⅸ－a 層出土　石器観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土区	出土層 (遺構)	器種	石質	法量（cm・g）				備考
							最大長	最大幅	最大厚	重量	
第 25 図	51	391	E-3 区	Ⅸ-a 層	石鏃	チャート	2.30	1.80	0.40	1.00	完形
第 25 図	52	1160	E-7 区	Ⅸ-a 層	石鏃	黒曜石	2.65	1.45	0.45	1.10	右肩欠損　OB8 類　姫島
第 25 図	53	1161	D-7 区	Ⅸ-a 層	石鏃	黒曜石	1.65	1.25	0.25	0.30	左肩欠損　OB8 類　姫島
第 25 図	54	450	D-4 区	Ⅸ-a 層	石鏃	黒曜石	2.05	1.45	0.45	0.80	右肩欠損　OB8 類　姫島
第 25 図	55	324	F-2 区	Ⅸ-a 層	石鏃	頁岩	1.80	1.10	0.30	0.40	両肩欠損
第 25 図	56	463	E-4 区	Ⅸ-a 層	石鏃未成品	黒色安山岩	2.95	2.00	0.35	1.40	右肩欠損
第 25 図	57	1203	F-3 区	Ⅸ-a 層	石匙未成品	黒色安山岩	3.15	5.35	1. 15	20.40	微細な剥離有り
第 25 図	58	1205	F-4 区	Ⅸ-a 層	石核	黒曜石	2.90	3.10	1.10	6.60	OB8 類　姫島
第 25 図	59	621	D-8 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	1.90	1.35	2.00	3.60	OB8 類　姫島
第 25 図	60	620	D-8 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石(推)	1.40	1.15	0.21	0.28	OB8 類　姫島
第 26 図	61	1165	D-8 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	2.40	1.90	0.80	2.60	OB8 類　姫島
第 26 図	62	1156	D-7 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	1.65	1.15	0.70	0.70	OB8 類　姫島
第 26 図	63	1158	D-7 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	1.65	1.00	0.70	0.50	OB8 類　姫島
第 26 図	64	1163	D-7 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	1.20	1.20	0.50	0.50	OB8 類　姫島
第 26 図	65	1157	D-7 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石(推)	0.92	1.25	0.18	0.18	OB8 類　姫島
第 26 図	66	1162	D-7 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	1.15	0.60	0.55	0.23	OB8 類　姫島
第 26 図	67	1159	D-7 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	1.60	3.50	0.80	3.90	OB8 類　姫島
第 26 図	68	644	F-2 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	0.70	0.90	0.30	0.10	OB8 類　姫島
第 26 図	69	843	E-5 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒曜石	2.05	1.50	0.70	1.30	OB8 類　姫島
第 26 図	70	627	D-8 区	Ⅸ-a 層	剥片	チャート?	2.35	1.50	0.40	1.00	
第 26 図	71	390	E-3 区	Ⅸ-a 層	剥片	チャート?	1.90	1.65	0.85	2.00	新欠有り
第 26 図	72	848	D-5 区	Ⅸ-a 層	剥片	チャート?	1.40	1.30	0.15	0.20	新欠有り
第 26 図	73	352	F-3 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	4.15	1.90	1.10	5.40	新欠有り
第 26 図	74	357	F-3 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	1.65	2.95	0.90	3.30	新欠有り
第 26 図	75	343	F-3 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	2.60	2.80	0.95	5.30	
第 27 図	76	645	F-2 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	1.45	1.70	0.50	0.60	新欠有り
第 27 図	77	414	E-2 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	1.80	1.45	0.30	0.57	
第 27 図	78	365	E-4 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	2.00	1.60	0.40	0.67	
第 27 図	79	846	E-6 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	1.75	2.90	1.15	2.90	
第 27 図	80	844	E-5 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	1.75	2.10	0.35	1.30	新欠有り
第 27 図	81	845	E-5 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	2.25	1.65	0.30	1.16	
第 27 図	82	1187	F-2 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	2.45	1.50	0.30	1.30	新欠有り
第 27 図	83	1234	F-3 区	Ⅸ-a 層	剥片	黒色安山岩	1.25	1.10	0.30	0.28	
第 27 図	84	639	D-3 区	Ⅸ-a 層	剥片	安山岩	1.15	1.05	0.30	0.19	
第 27 図	85	849	D-6 区	Ⅸ-a 層	剥片	安山岩	1.85	1.10	0.30	0.40	
第 27 図	86	1240	D-3 区	Ⅸ-a 層	剥離片	黒色安山岩	0.70	0.45	0.10	0.02	
第 27 図	87	582	E-2 区	Ⅸ-a 層	剥離片	黒色安山岩?	0.40	0.35	0.10	0.01	
第 27 図	88	1242	D-2 区	Ⅸ-a 層	剥離片	安山岩	0.75	0.50	0.10	0.40	
第 27 図	89	738	D-3 区	Ⅸ-a 層	剥離片	安山岩	0.70	0.55	0.10	0.02	
第 27 図	90	1239	D-2 区	Ⅸ-a 層	剥離片	?	0.90	0.50	0.10	0.03	
第 27 図	91	739	D-3 区	Ⅸ-a 層	剥離片	?	0.75	0.40	0.10	0.01	
第 27 図	92	1241	D-2 区	Ⅸ-a 層	剥離片	?	0.40	0.40	0.10	0.01	
第 27 図	93	737	D-3 区	Ⅸ-a 層	剥離片	?	0.55	0.40	0.10	0.02	
第 28 図	94	335	F-3 区	Ⅸ-a 層	磨石	砂岩	7.60	6.10	3.65	231.67	新欠有り
第 28 図	95	296	F-2 区	Ⅸ-a 層	磨石	砂岩	7.60	5.10	3.80	199.55	下欠損
第 28 図	96	379	E-3 区	Ⅸ-a 層	軽石製品	軽石	8.60	5.75	3.00	34.60	下欠損

2　古墳時代の調査

（1）Ⅷ層上面検出遺構の調査

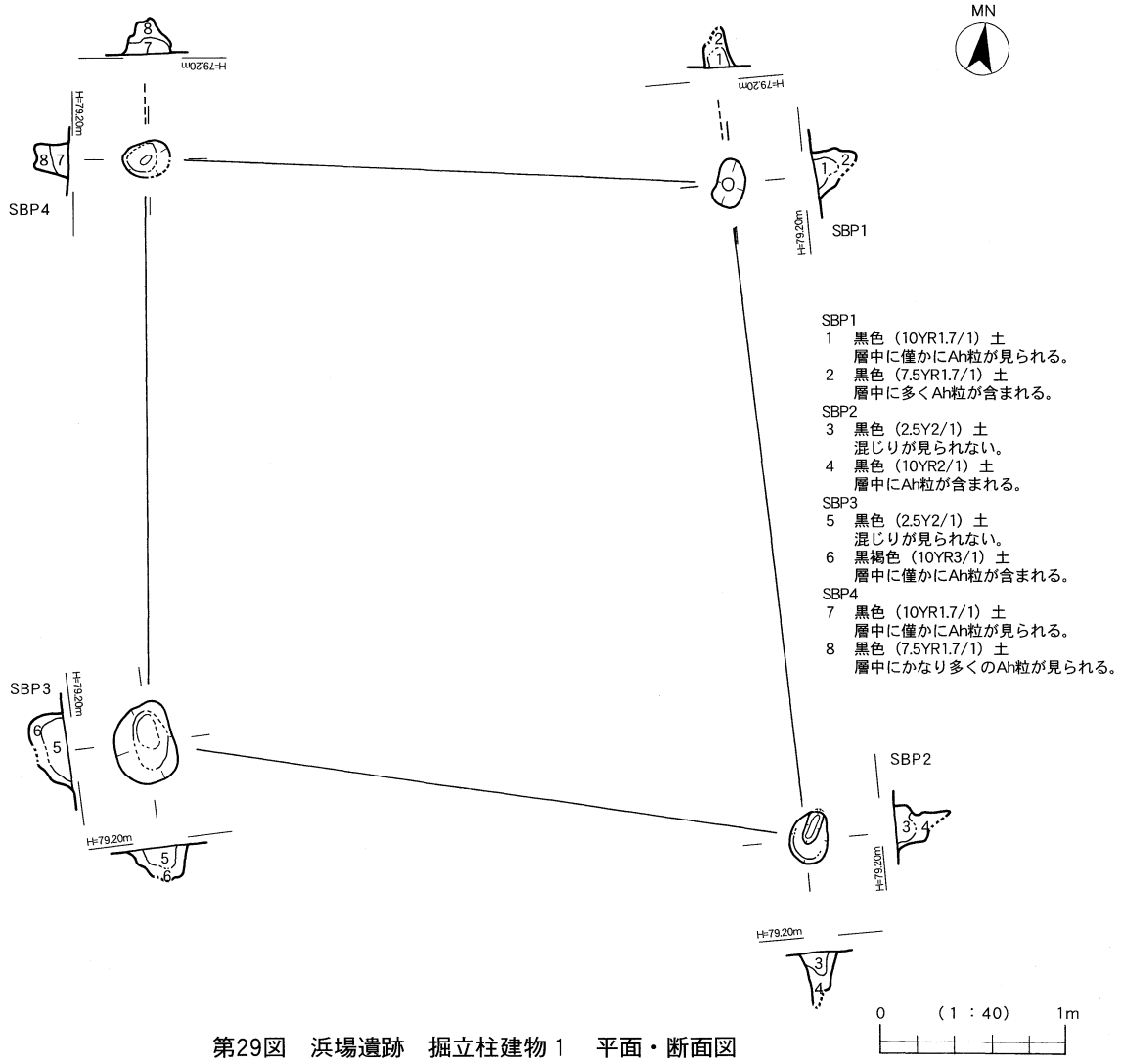
Ⅷ層上面の遺構検出は調査区全域で行った。検出された柱穴は全て半裁を行い、半裁面の観察により判断を行った。そのため半裁段階で柱穴番号の欠番が生じている。また、調査の進捗の関係から大調査区の１・２・３区ごとで柱穴番号を設定したため、第18～20表に見られるように柱穴番号の表記が重なることをご容赦願いたい。

調査の結果、掘立柱建物がＣ－13・14区で１基、柱穴がＢ－14～16・18・19区、Ｃ－10～12・15～19区、Ｄ－５・10～15区、Ｅ－４～６・８・９区で42基確認された。

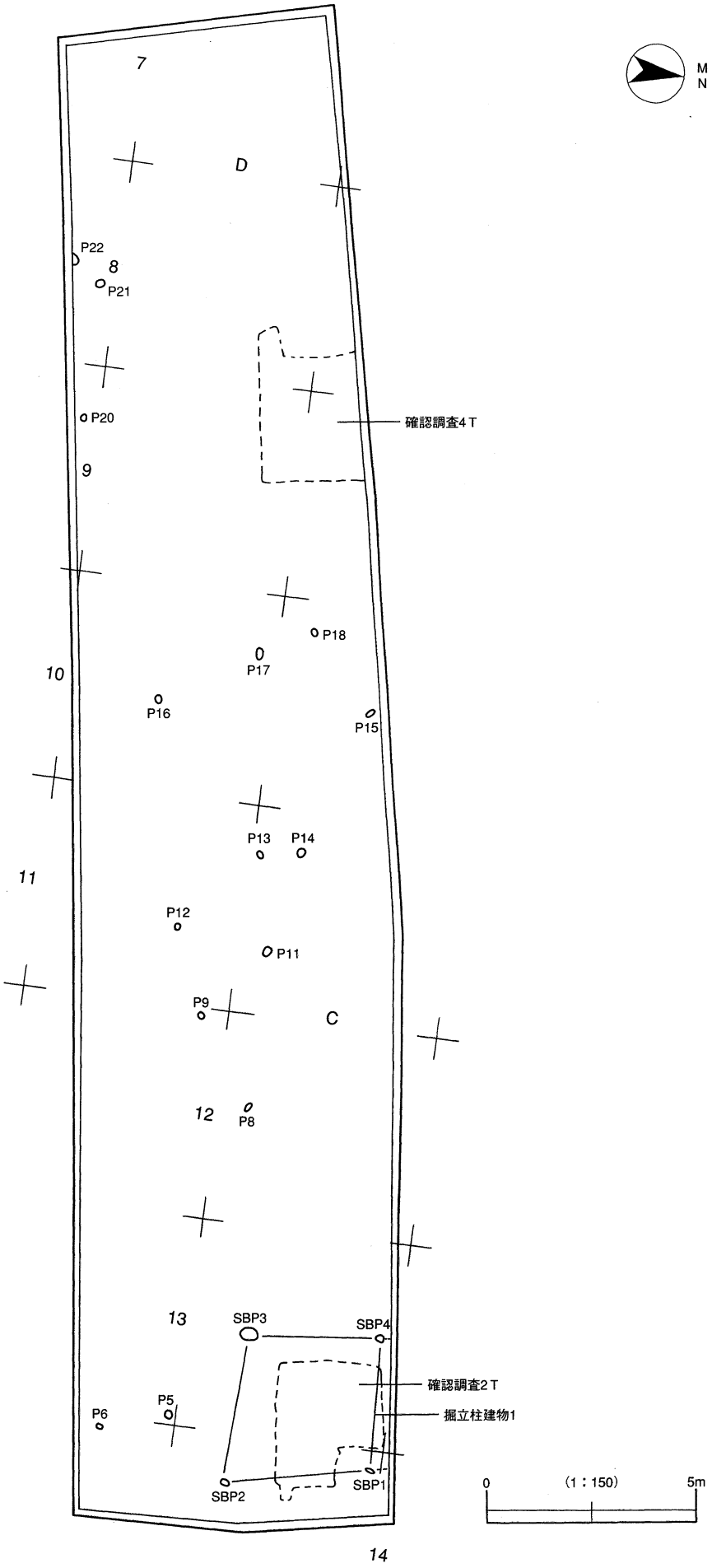
ア　掘立柱建物

①掘立柱建物１（第29図）

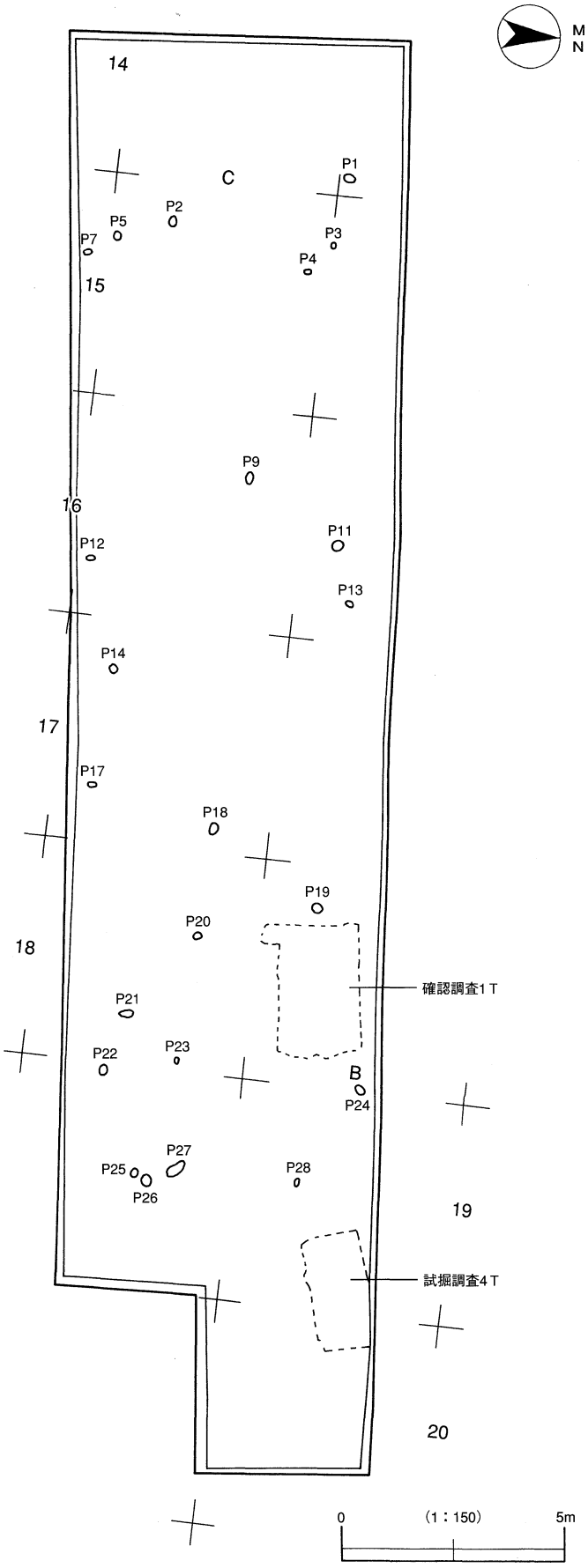
掘立柱建物１はＣ－13・14区で検出された。長軸方向はN13.5°Ｗの北北西方向に延び、遺構の平面形は桁行１間×梁行１間の若干歪みのある長方形を呈する。検出された柱穴と柱穴の間隔が桁・梁とも３ｍを越えることから、遺構の規模がまだ大きいことが考えられ、遺構の範囲の一部が調査区外に延びている可能性が考えられる。検出された柱穴のうちSBP１・２・４は、ほぼ同規模の柱穴であるのに対し、SBP３は平面形の規模が大きく、掘り込みの深さはSBP１・２・４とほぼ同一にであることから、柱の建替え等を行った際に従来あった柱穴を広げて掘削したことによるものと思われる。



第29図　浜場遺跡　掘立柱建物１　平面・断面図



第30図　浜場遺跡　1区　Ⅷ層上面　遺構検出状況図



第18表　1区　Ⅷ層上面検出　柱穴計測表

柱穴	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	検出区
P5	楕円形	26.5	23.0	27.0	D-13区
P6	楕円形	21.0	18.5	39.0	D-14区
P8	楕円形	24.0	17.0	11.0	C-12区
P9	円形	22.5	21.5	32.0	D-12区
P11	楕円形	23.5	20.0	45.0	C-11区
P12	円形	18.5	18.0	62.0	D-11区
P13	円形	19.5	19.0	31.5	C-11区
P14	楕円形	24.5	21.0	58.0	C-11区
P15	楕円形	25.5	19.5	52.0	C-10区
P16	楕円形	26.0	18.0	50.0	D-10区
P17	円形	28.0	26.5	54.0	D-10区
P18	円形	17.5	16.0	20.5	C-10区
P20	楕円形	15.5	15.0	16.0	E-9区
P21	楕円形	25.0	19.5	33.0	E-8区
P22	(楕円形)	23.5	19.0	13.0	E-8区
平均値		22.7	19.4	36.3	

第19表　2区　Ⅷ層上面検出　柱穴計測表

柱穴	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	検出区
P1	円形	26.0	25.5	65.0	B-14区
P2	楕円形	24.0	23.0	55.0	C-15区
P3	楕円形	14.0	12.0	30.0	B-15区
P4	楕円形	21.5	18.0	47.0	C-15区
P5	(円形)	23.0	20.0	30.0	C-15区
P7	楕円形	21.0	16.0	34.0	D-15区
P9	楕円形	28.5	17.0	29.5	C-16区
P11	楕円形	25.0	19.5	52.0	B-16区
P12	楕円形	25.5	20.0	54.0	C-16区
P13	円形	17.0	17.0	22.5	B-16区
P14	楕円形	24.0	19.0	20.0	C-17区
P17	楕円形	27.0	21.0	13.0	C-17区
P18	円形	30.5	28.5	65.0	C-17区
P19	楕円形	31.0	24.5	55.0	B-18区
P20	円形	23.0	23.0	50.0	C-18区
P21	楕円形	35.0	25.0	16.5	C-18区
P22	楕円形	30.5	20.5	17.0	C-19区
P23	円形	19.0	17.0	28.5	C-18区
P24	楕円形	25.0	21.5	72.0	B-19区
P25	円形	21.5	21.0	58.0	C-19区
P26	円形	28.0	27.5	62.0	C-19区
P28	円形	17.0	15.5	36.0	B-19区
平均値		24.4	20.5	41.5	

第20表　3区　Ⅷ層上面検出　柱穴計測表

柱穴	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	検出区
P1	楕円形	26.5	24.5	29.0	E-4区
P2	楕円形	30.0	25.0	34.0	E-5区
P3	楕円形	21.0	19.0	12.5	D-4区
P4	楕円形	23.0	23.0	31.5	E-6区
P5	楕円形	31.0	20.0	24.0	E-6区
平均値		26.3	22.3	26.2	

第31図　浜場遺跡　2区　Ⅷ層上面　遺構検出状況図

第21表　浜場遺跡
掘立柱建物1　計測表
（単位：cm）

挿図番号	第29図	検出区	C－13・14区
検出層	Ⅷ層上面	方　位	N13.5° W
床面積（㎡）	11.08735		

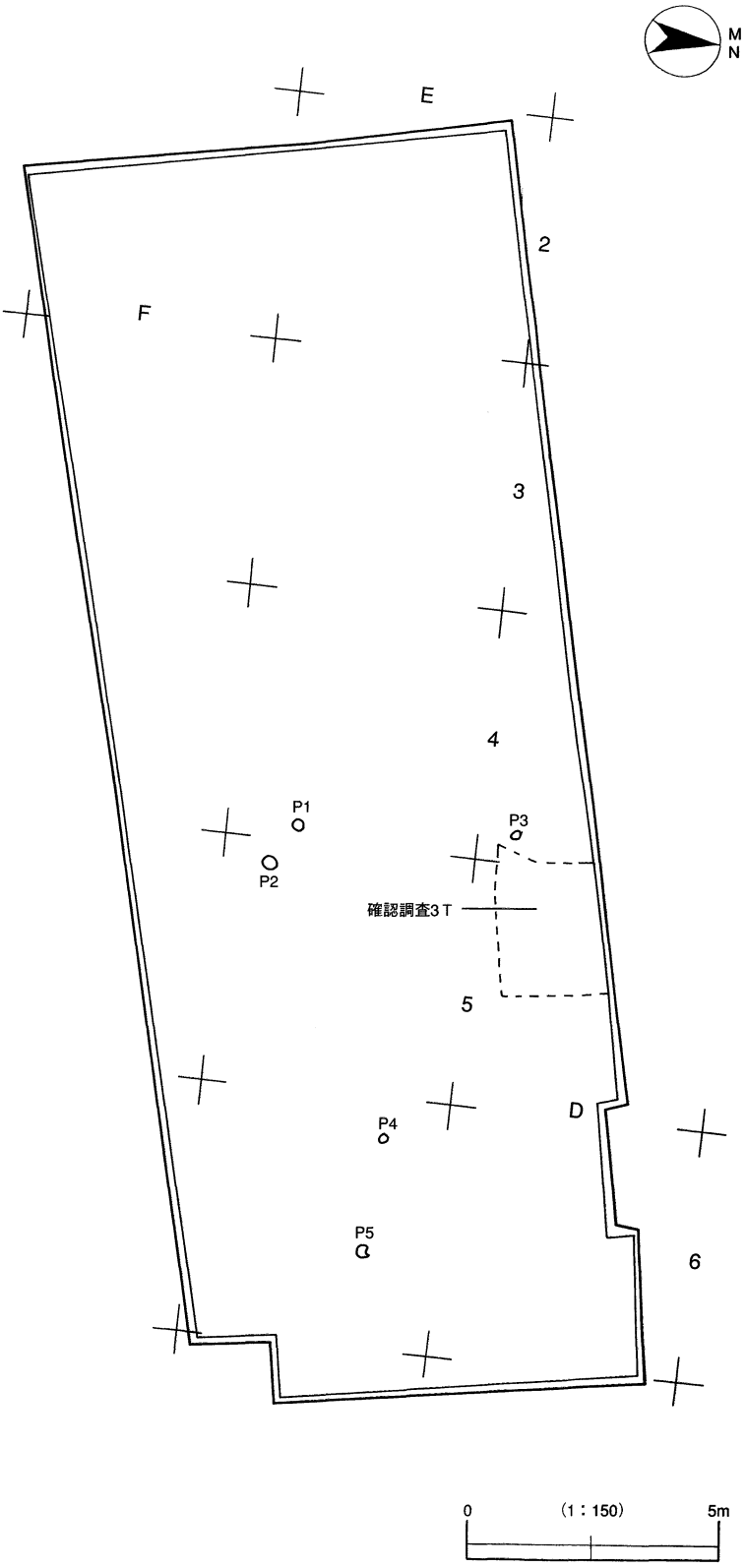
梁行1間	梁間柱間	梁行間
P1－P4	314.0	314.0
P2－P3	358.0	358.0
平均	336.0	336.0

梁桁1間	梁桁柱間	梁桁間
P1－P2	357.0	357.0
P3－P4	315.0	315.0
平均	336.0	336.0

柱穴番号	深さ	長径	短径	柱穴平面形
SBP1	23.0	26.0	17.5	楕円形
SBP2	29.5	27.0	20.0	楕円形
SBP3	19.0	42.5	31.0	楕円形
SBP4	19.0	25.0	19.0	楕円形
平均	22.625	30.125	21.875	

イ　柱穴

柱穴はB－14～16・18・19区、C－10～12・15～19区、D－5・10～15区、E－4～6・8・9区で検出された。柱穴毎の計測値については、大調査区毎に第18～20表に述べる。検出された柱穴は、形状は円形若しくは楕円形であり、長径の平均値は24.4 cm、深さの平均値は34.6 cmを測る。柱穴の検出分布は調査区東側に主に広がり、西側に向かうに従い、遺構密度が疎になる傾向がある。また、柱列などの規則性を持った並びや掘立柱建物1の軸方向について遺構配置を検討したが上屋等は確認出来なかった。



第32図　浜場遺跡　3区　Ⅷ層上面　遺構検出状況図

（2）Ⅳ層上面検出遺構の調査

Ⅳ層上面の遺構検出は調査区全域で行ったが、３区においてはⅢ層～Ⅶ層までが削平を受けていたため、実際の検出は１・２区のみであった。

調査の結果、Ⅳ層上面においてＣ－10 区、Ｄ－９～13 区、Ｅ－９・10 区に溝１基、Ｂ・Ｃ－14 区、Ｂ－18 区、Ｂ－20 区に土坑３基が検出された。

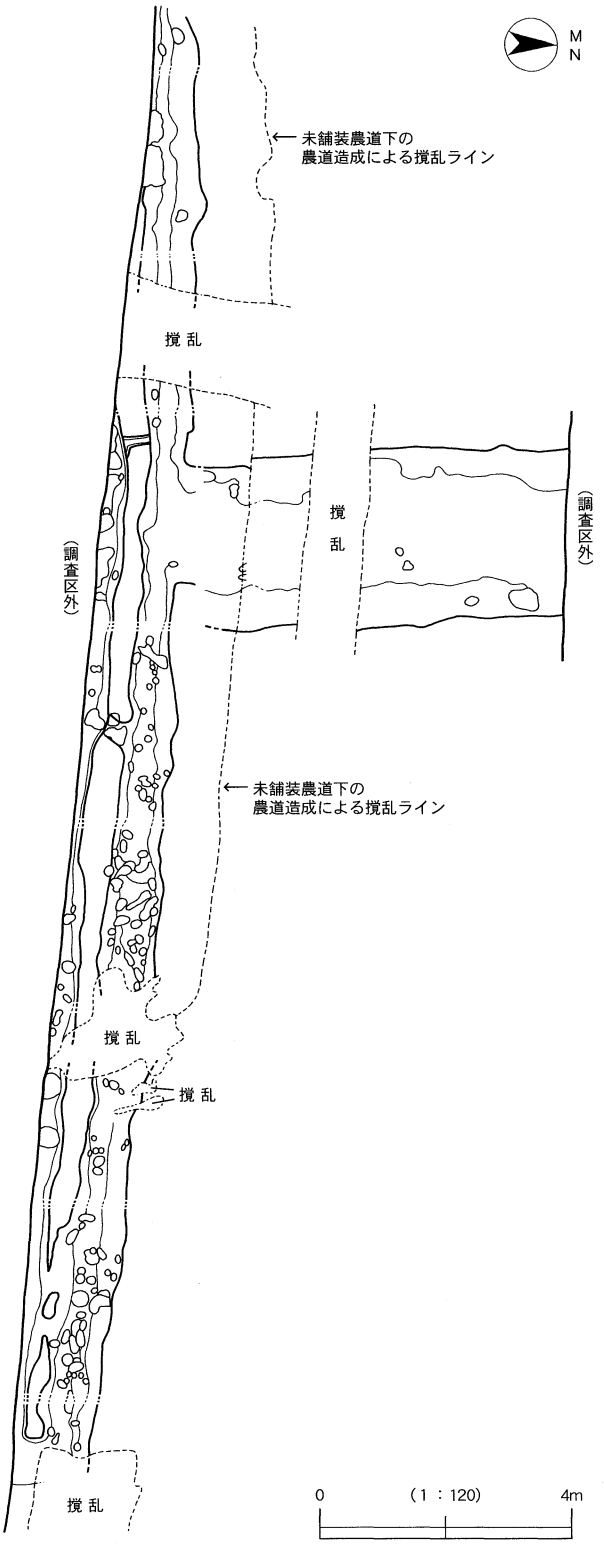
ア　溝

①溝１（第 33 図）

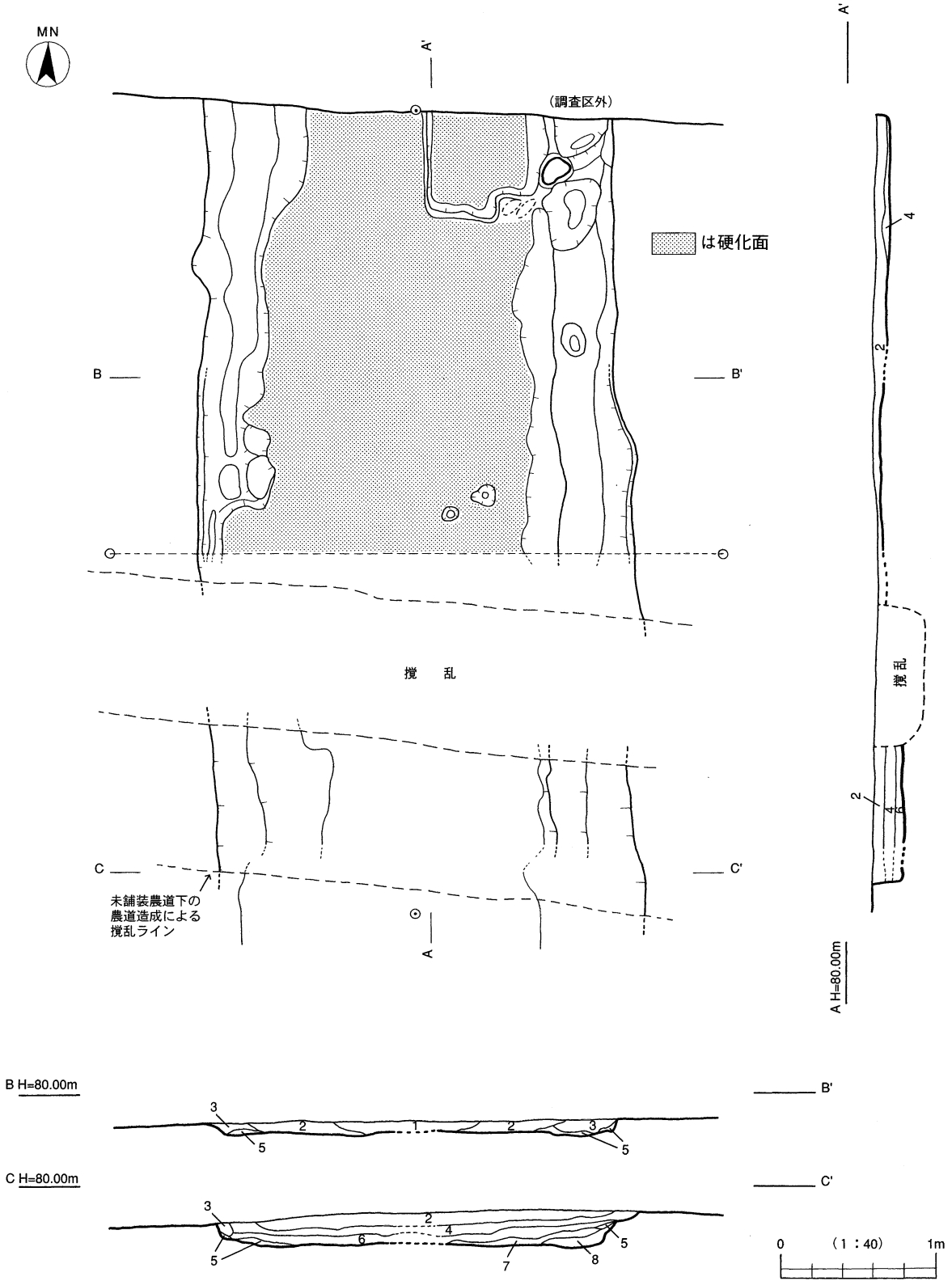
溝１はＣ－10 区、Ｄ－９～13 区、Ｅ－９・10 区の広範囲で検出された。この遺構は南北方向に延びる幅の広い溝状遺構（第 34 図）と、その遺構に直交するよう東西方向に延びる２条の幅の細い溝状遺構（第36～39 図）が確認された。幅の広い溝状遺構の長軸は 5.04ｍを測り、幅の細い溝状遺構の長軸は 23.60ｍを測る。

幅の広い溝状遺構の横幅はほぼ均一で約 2.8ｍを測る。遺構の底と思われる部分で層の硬化が確認され、その面を追って検出を試みたところ、第 34 図で示してあるＡ－Ａ´断面のような結果となった。遺構の中央と南端は撹乱を受けているため全体の様相は判断し難いが、遺構中央の撹乱部分から南北で段差が生じていた。また、遺構中央の撹乱部分から北側はやや強い硬化面をもち、南側は硬化面をほとんど確認する事は出来なかった。

幅の狭い溝状遺構の横幅は、幅の広い所で約 0.98ｍ、幅の狭い所で約 0.47ｍを測る。２本の細い溝状遺構はほぼ並列しているが、所々で繋がっている。当初この遺構の直上が未

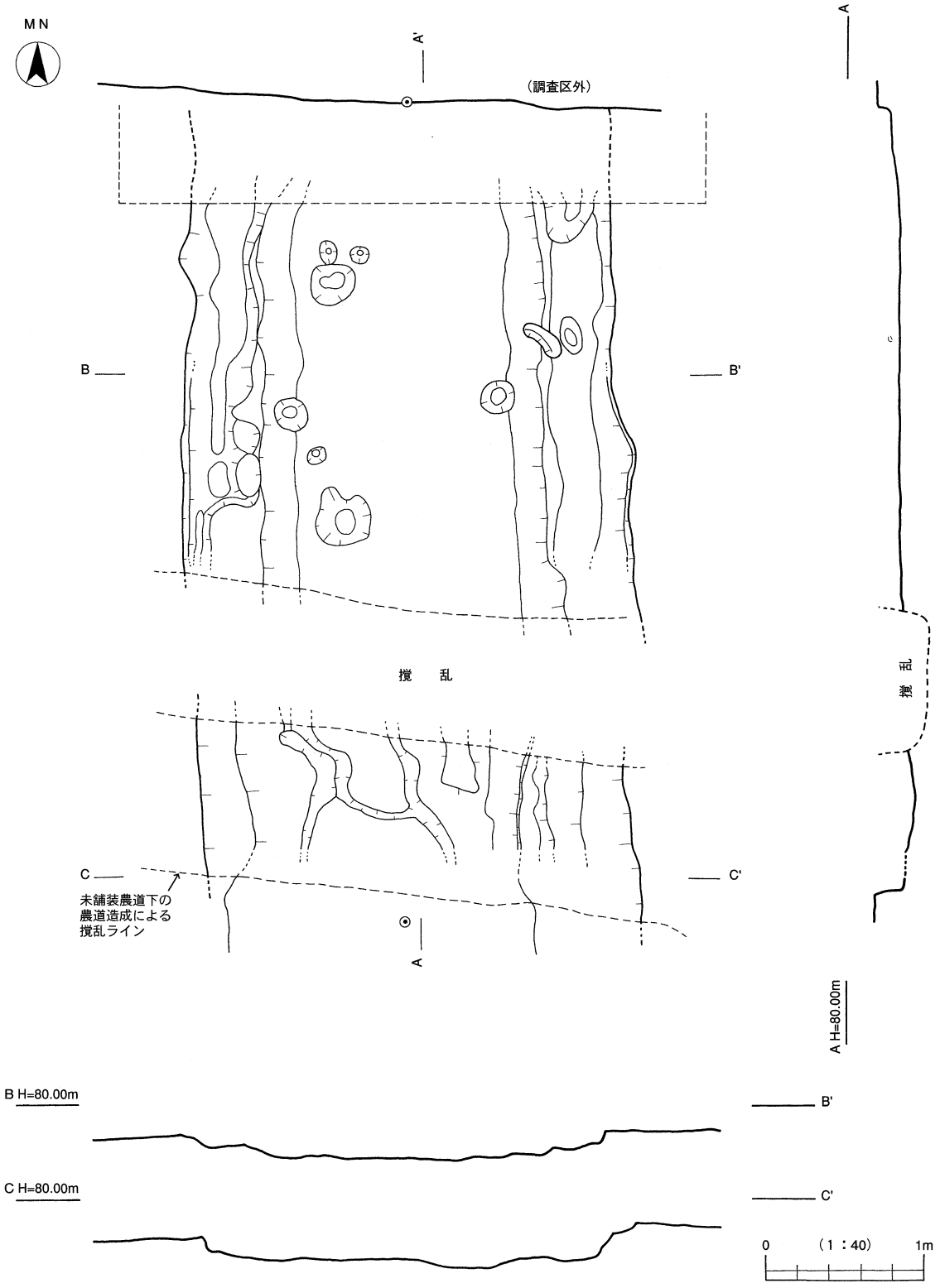


第33図　浜場遺跡　溝１　全体図

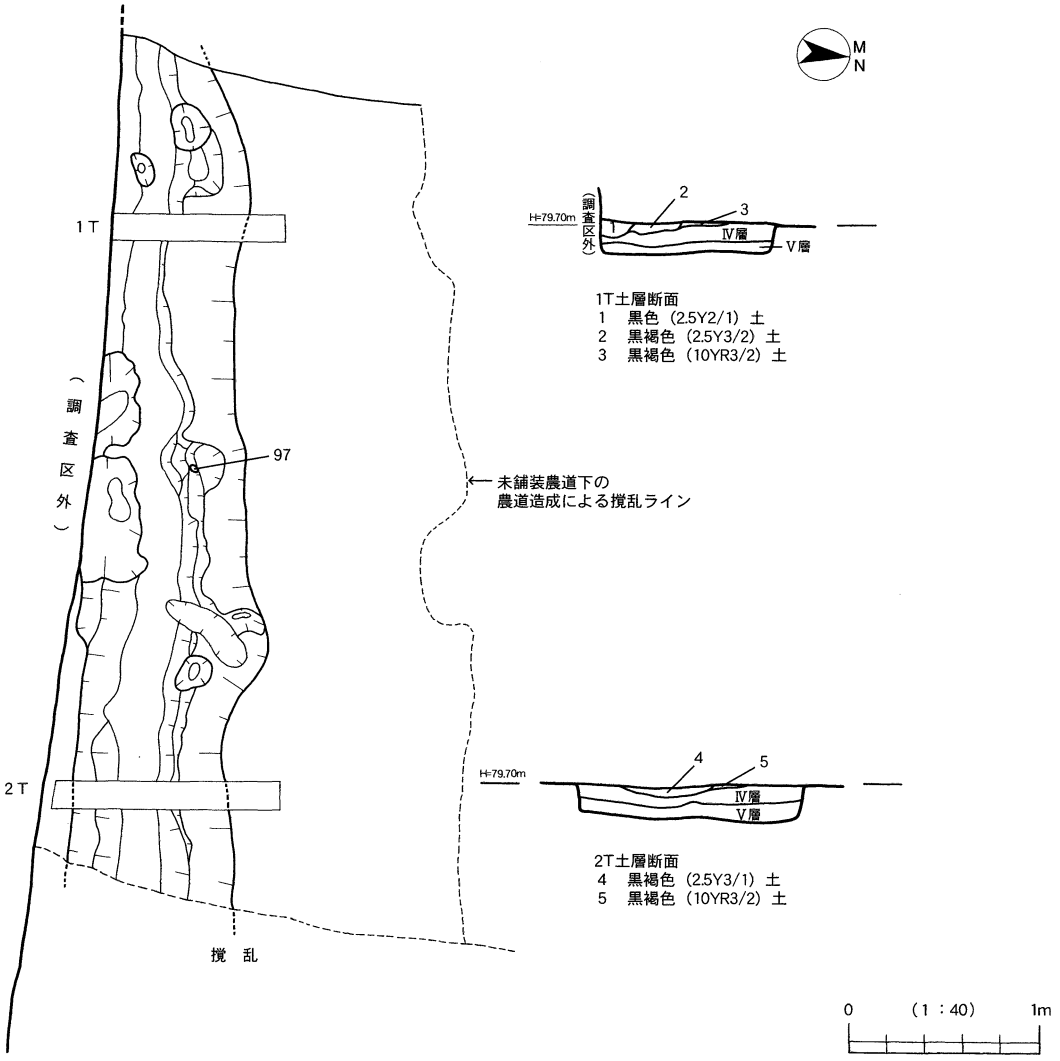


1　黒色（5Y2/1）土　　層の様子はⅡ層に似る。層中にテフラ等は見られない。締まった層。
2　黒褐色（2.5Y3/2）土　　層中に僅かに灰白軽石（2.5Y8/2　粒径2mm大）を含む。若干粘性が感じられる。よく締まった層。
3　黒褐色（2.5Y3/1）土　　混じりのない黒色土。
4　黒褐色（2.5Y3/2）土　　層中に僅かに灰白軽石（2.5Y8/2　粒径2mm大）を含む。サラサラと締まった層。（層の硬さで3・4を分けられる）
5　暗灰黄色（2.5Y4/2）土　　Ⅲ層＋黒色土の混ざりと思われる。層は柔らかくサラサラしている。
6　暗灰色（N3/0）土　　土粒は微細でサラサラ。層中に僅かに白色パミス（N8/0　粒径1mm大）を含む。
7　灰色（N4/0）土　　層の様子は6層に似るが、若干締まっている。
8　黒褐色（2.5Y3/2）土　　Ⅲ層

第34図　浜場遺跡　溝1　平面・断面図　1



第35図　浜場遺跡　溝1　平面・断面図　2（硬化面除去後）

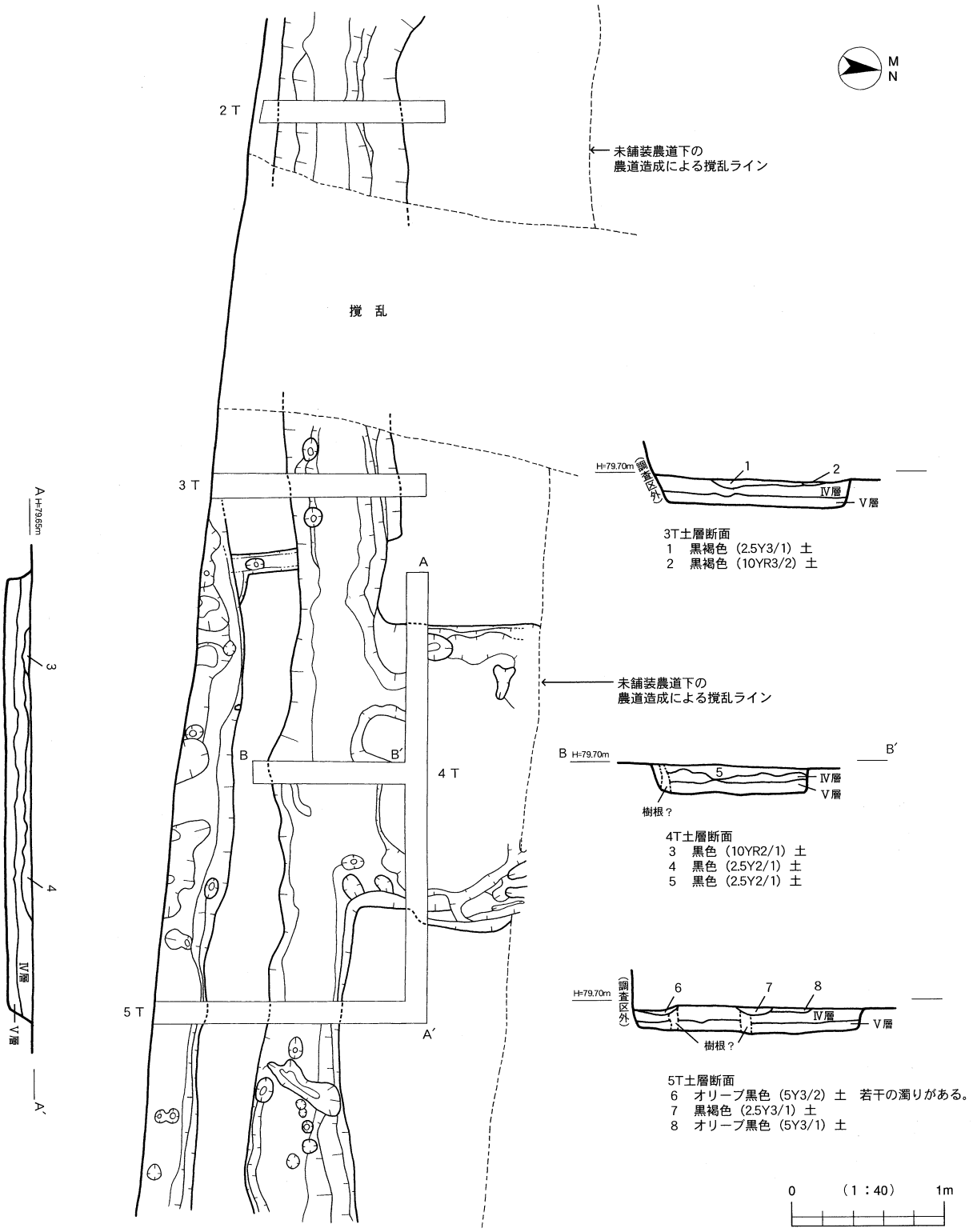


第36図　浜場遺跡　溝1　平面・断面図　3（1・2T部分）

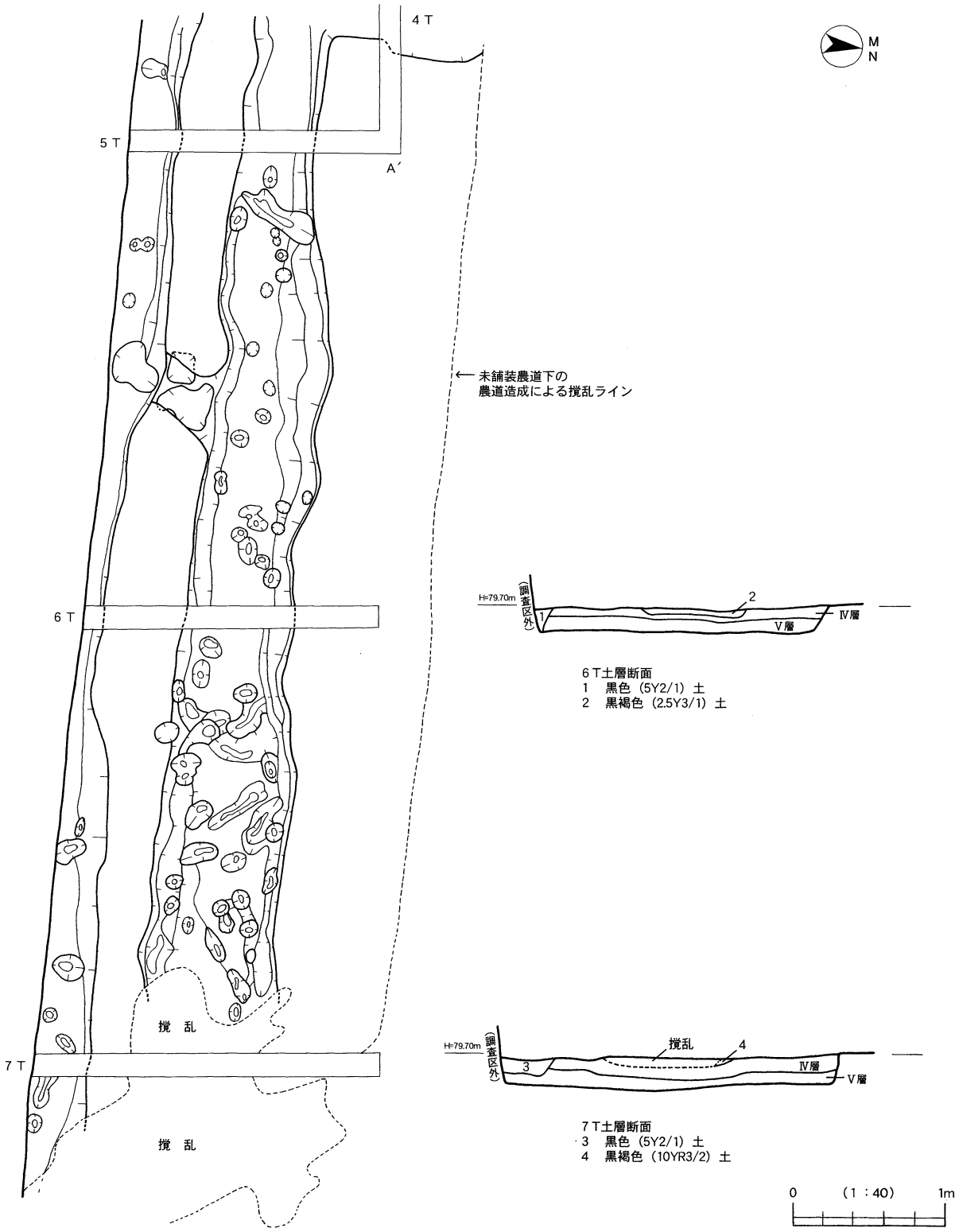
舗装農道部分であり、その農道造成による撹乱を受けており、この撹乱層を除去したところ、その直下から検出することが出来た。そのため遺構深度がかなり浅い状態での検出となり、幅の広い溝状遺構と幅の狭い溝状遺構がほぼ直交するように繋がることがわかった。

これを受けて、前述した幅の広い溝状遺構中央の撹乱部分から南北で段差が生じていたことに着目し、その北側の硬化面を慎重に除去したところ、その直下からさらにやや緩い層の硬化を確認する事が出来た。また幅の狭い溝状遺構の掘り下げを行ったところ、遺構の底には硬化は見られなかったが、遺構の底面に直径 10～15 cm程度の円形若しくは楕円形の柱穴状遺構が多数確認された。いずれの柱穴状遺構も浅い掘り込みであり、硬化も確認されなかった。

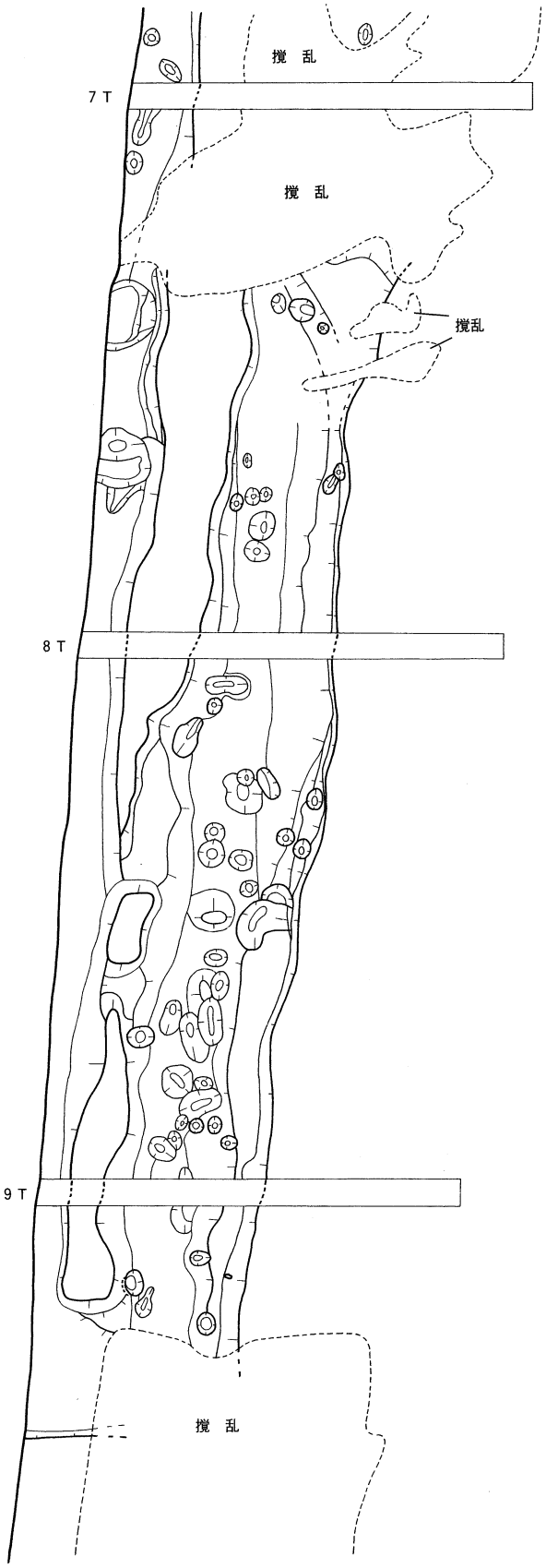
また遺物の出土状況は、幅の広い溝状遺構の検出レベルで４点の成川式土器と思われる小片と、細い溝状遺構からは床着遺物として２点の成川式土器が出土した。(第 40 図)

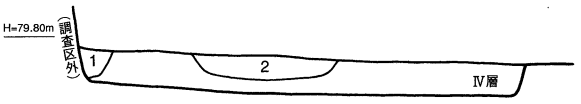


第37図 浜場遺跡 溝1 平面・断面図 4（2・3・4・5T部分）

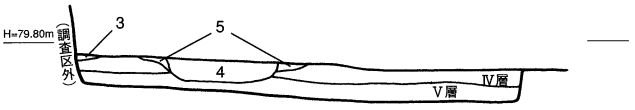


第38図　浜場遺跡　溝1　平面・断面図　5（5・6・7T部分）

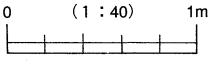




8T土層断面
1　オリーブ黒色（5Y3/1）土
2　黒色（7.5Y2/1）土



9T土層断面
3　黒色（5Y2/1）土
4　黒色（2.5Y2/1）土
5　黒褐色（10YR3/1）土



第39図　浜場遺跡　溝1　平面・断面図　6（7・8・9T部分）

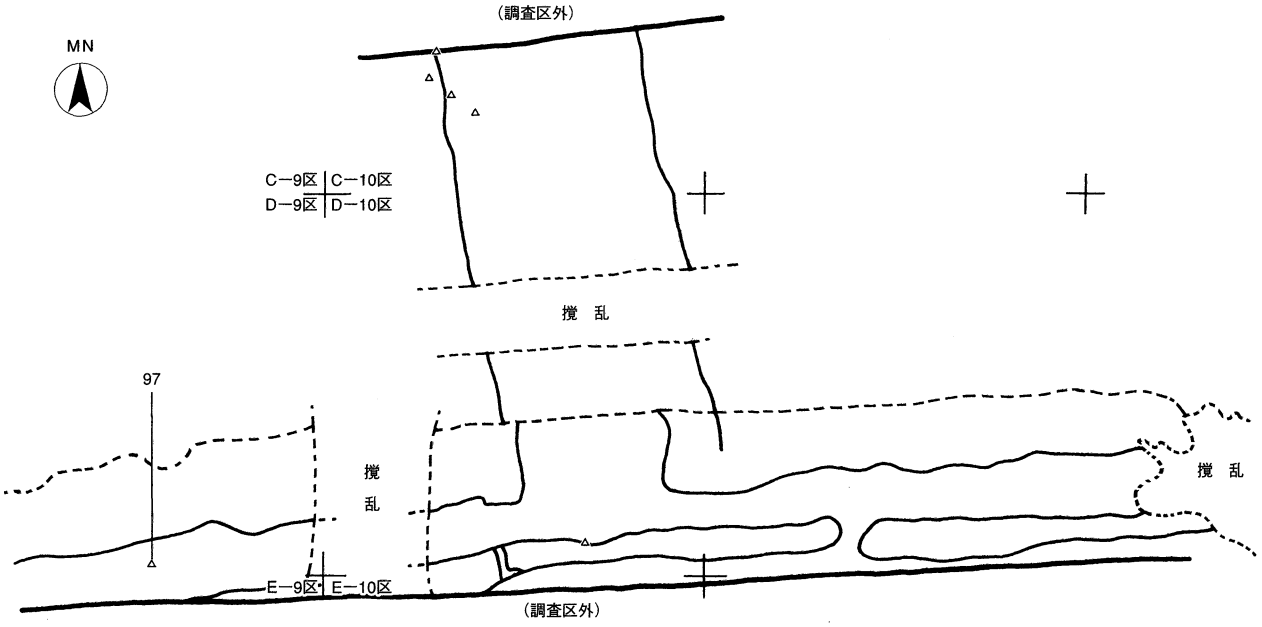
溝１出土遺物

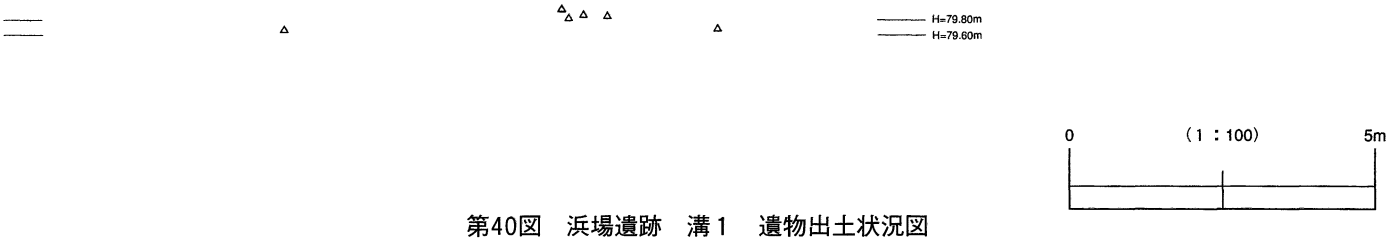
溝１内の床着遺物の中で、比較的破片の大きい１点（97）を実測・図化（第46図）した。溝１内の床着遺物の出土分布はＤ－９・18区と疎らである。

97は成川式土器の甕の胴部と思われ、わずかに内湾する。外面を塗布したように炭が著しく付着する。

第22表　浜場遺跡　溝１出土　土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層（遺構）	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂				口径	底径	器高	
第46図	97	133	D-9区 溝１埋土	甕	胴部	成川式土器	○				○	○	10YR6/3	にぶい黄橙色	（斜）ハケ目	－	－	4.6	外面に著しく煤付着 搬入品？
													2.5Y6/3	にぶい黄色	（斜）横ナデ				





第40図　浜場遺跡　溝１　遺物出土状況図

イ　土坑

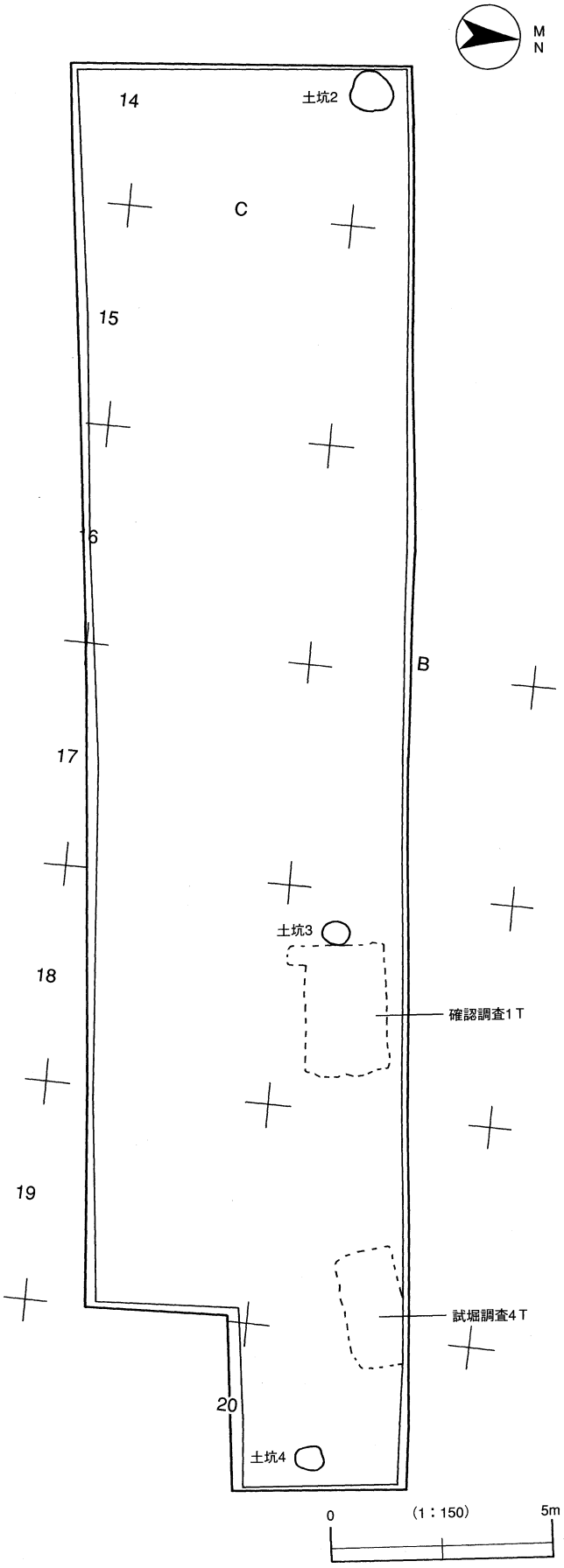
土坑はB・C－14区、B－18区、B－20区で3基検出され、調査区の東側にのみ確認されている。土坑の規模に差異はあるが、比較的土坑の深さも浅い。また全ての土坑から微細な炭化物が確認された。

①土坑2（第42図）

土坑2はB・C－14区で検出された。全体形は楕円形を呈す。遺構はV層中まで掘り込まれ、検出面から床面までの最深部で0.20mを測る。埋土中からは微細な炭化物が多数出土し、特に検出面近くの土坑中央に多くの分布が確認された。掘り込みの層中に軽い硬化が認められる部分があり、その硬化層を除去して掘り下げたところ、その下層からも炭化物が少量確認された。土坑の切り合いの可能性や、複数時期の使用等が考えられ、時期等の確認のため、自然科学分析を行った。その結果は第Ⅵ章に付す。

②土坑3（第43図）

土坑3はB－18区で検出された。全体形は楕円形を呈す。遺構はV層中まで掘り込まれ、検出面から床面までの最深部で0.23mを測る。検出面において、土坑中央に土色の変化が見られた（図版4）が断面上では分層できる程の層の変化ではなかった。土坑2同様埋土中からは微細な炭化物が多数出土し、特に検出面近くの土坑中央に多くの分



第41図　浜場遺跡　土坑2・3・4　遺構配置図

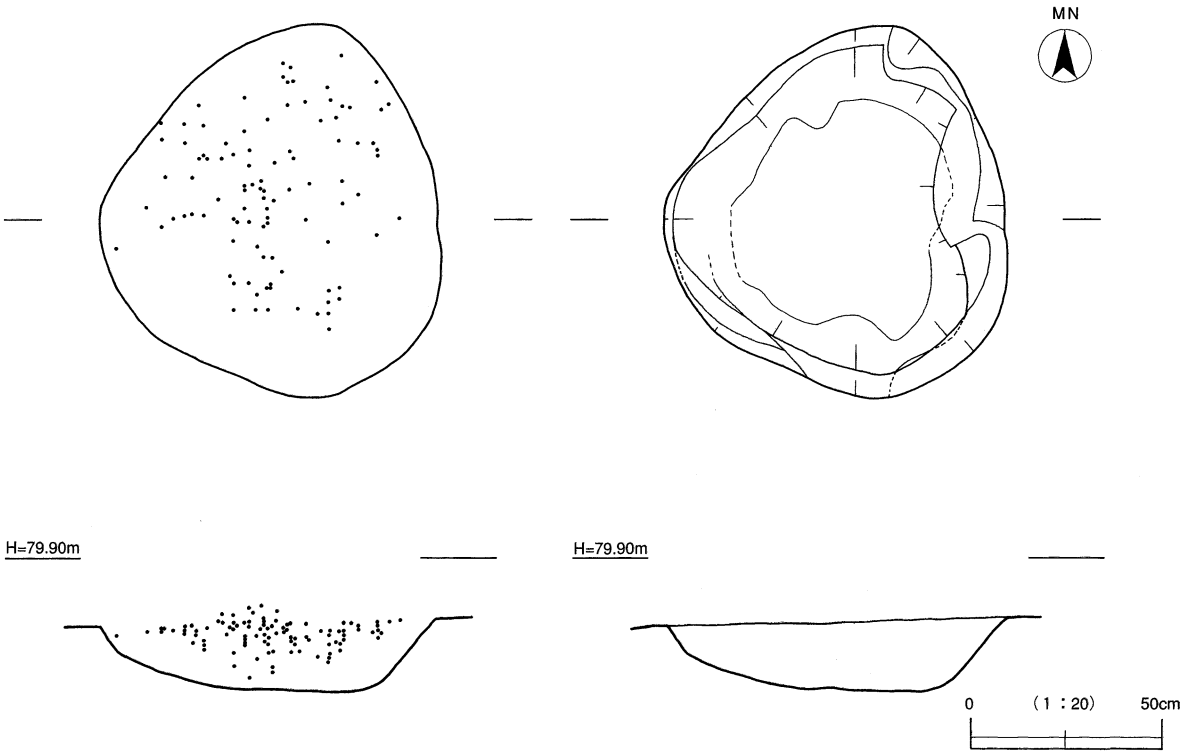
布が確認され、土坑の底面近くまで炭化物が出土した。炭化物の出土量は３基検出された土坑の中でも最も多い。またこの土坑内の炭化物も土坑２と同様に自然科学分析を行った。その結果は第Ⅵ章に付す。

③土坑４（第 43 図）

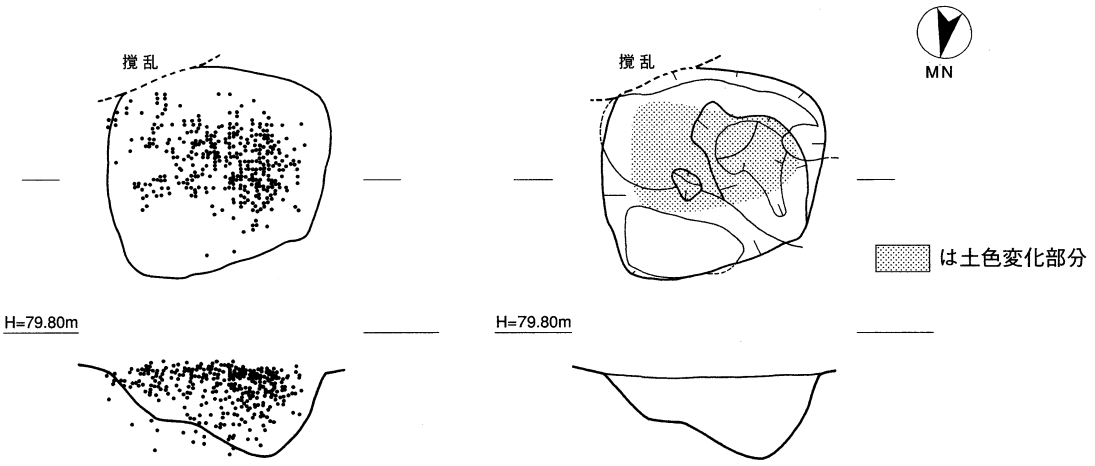
土坑４はＢ－20 区で検出された。全体形は楕円形を呈す。遺構はⅤ層中まで掘り込まれ、検出面から床面までの最深部で 0.132ｍを測る。微細な炭化物が確認されたが、土坑中央の検出面に少量出土するのみであった。

第 23 表　Ⅳ層状面検出土坑計測表　　**（単位：cm）**

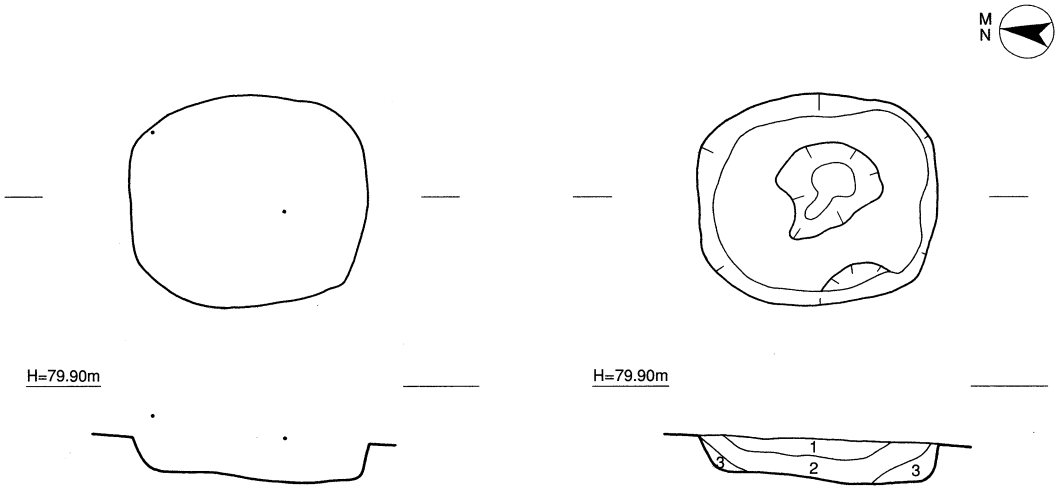
土坑番号	挿図番号	検出区	検出層	長径	短径	深さ	平面形	備考
土坑２	第 42 図	Ｂ・Ｃ－14 区	Ⅳ層上面	93.0	89.0	20.0	楕円形	埋土に炭化物を多含
土坑３	第 43 図	Ｂ－18 区	Ⅳ層上面	58.0	57.5	23.0	楕円形	埋土に炭化物を多含
土坑４	第 43 図	Ｂ－20 区	Ⅳ層上面	62.0	52.0	13.2	楕円形	埋土に炭化物を少量含む



第42図　浜場遺跡　土坑２　平面・断面図



土坑 3



土坑 4
1　黒色（2.5Y2/1）土　パミスの混じりが見られない。
2　黒色（10Y2/1）土　層の様子は1層に似るが、やや締まった層。
3　黒色（N1.5/0）土　２層よりもやや締まった層。若干の光沢有り。

土坑 4

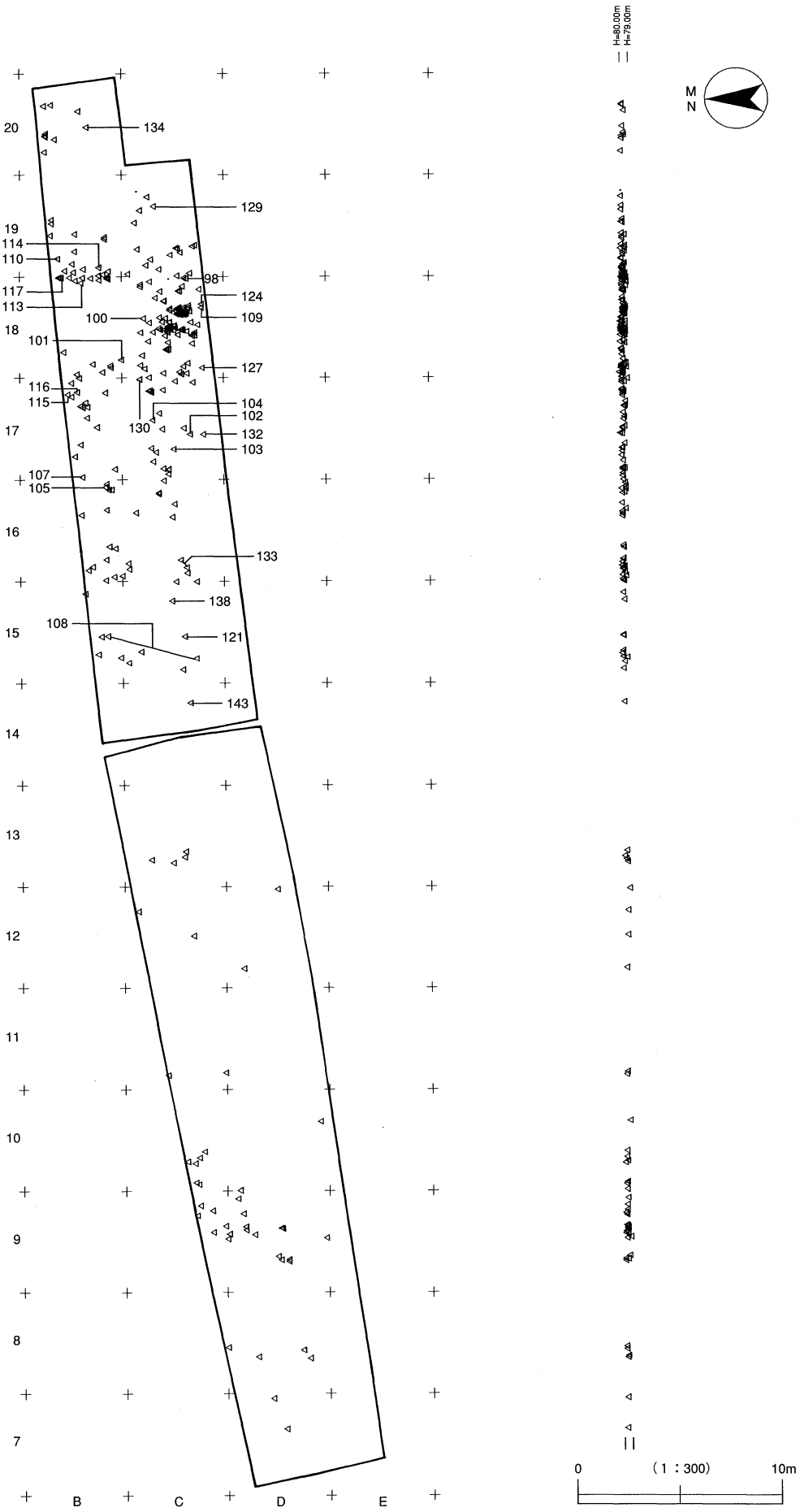
0　（1：20）　50cm

第43図　浜場遺跡　土坑３・４　平面・断面図

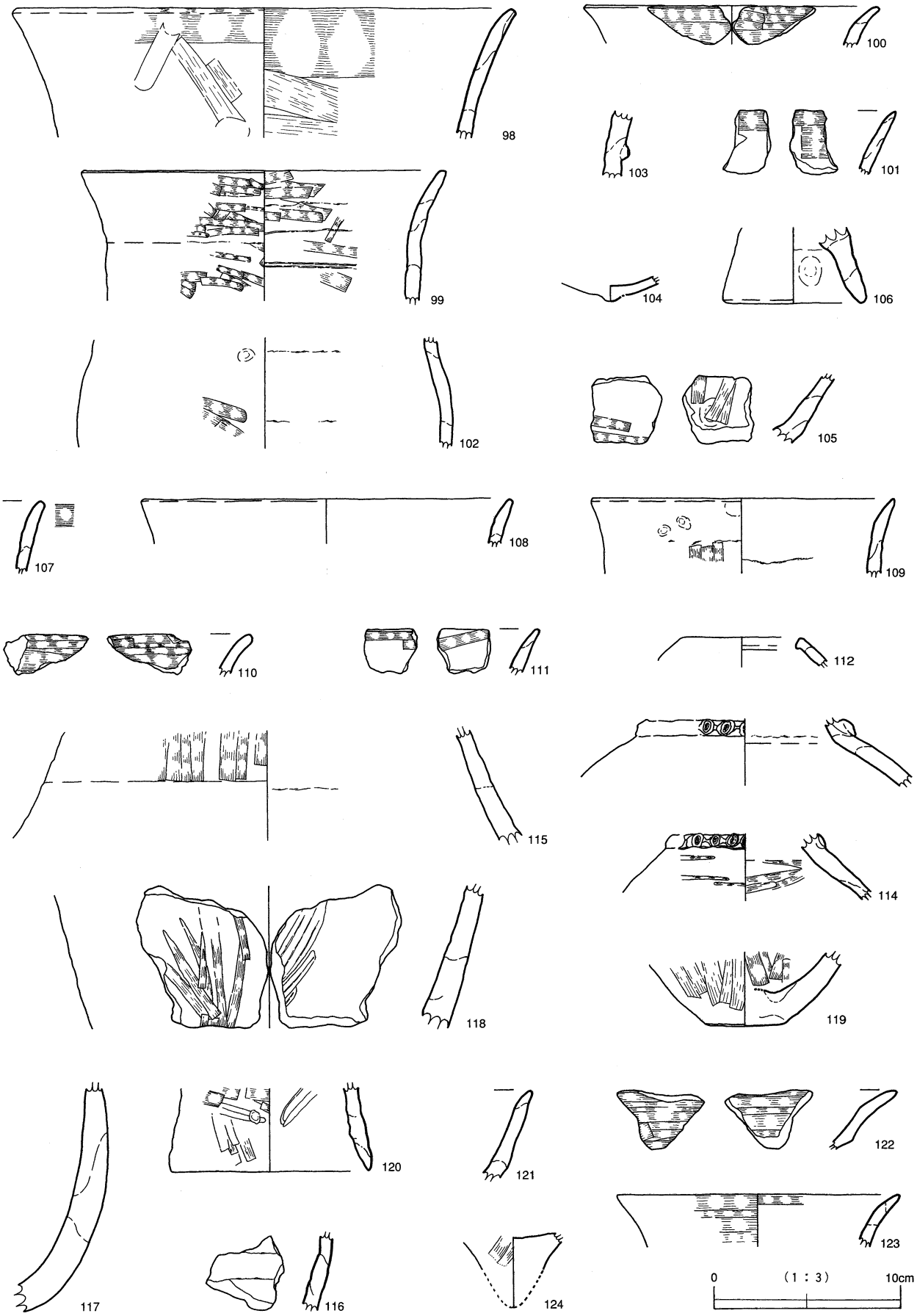
Ⅲ層・Ⅳ層出土　成川式土器

Ⅲ・Ⅳ層より成川式土器は271点出土し、うち接合遺物を含む36点を実測・図化（第45・46図）した。遺物分布はB－15～20区、C－9～19区、D－7～9・12区の広範囲から確認され、特に調査区の東側にあたるB・C－18・19区に分布が集中し、調査区の西側は出土分布の密度が疎になる傾向であった。（第44図）

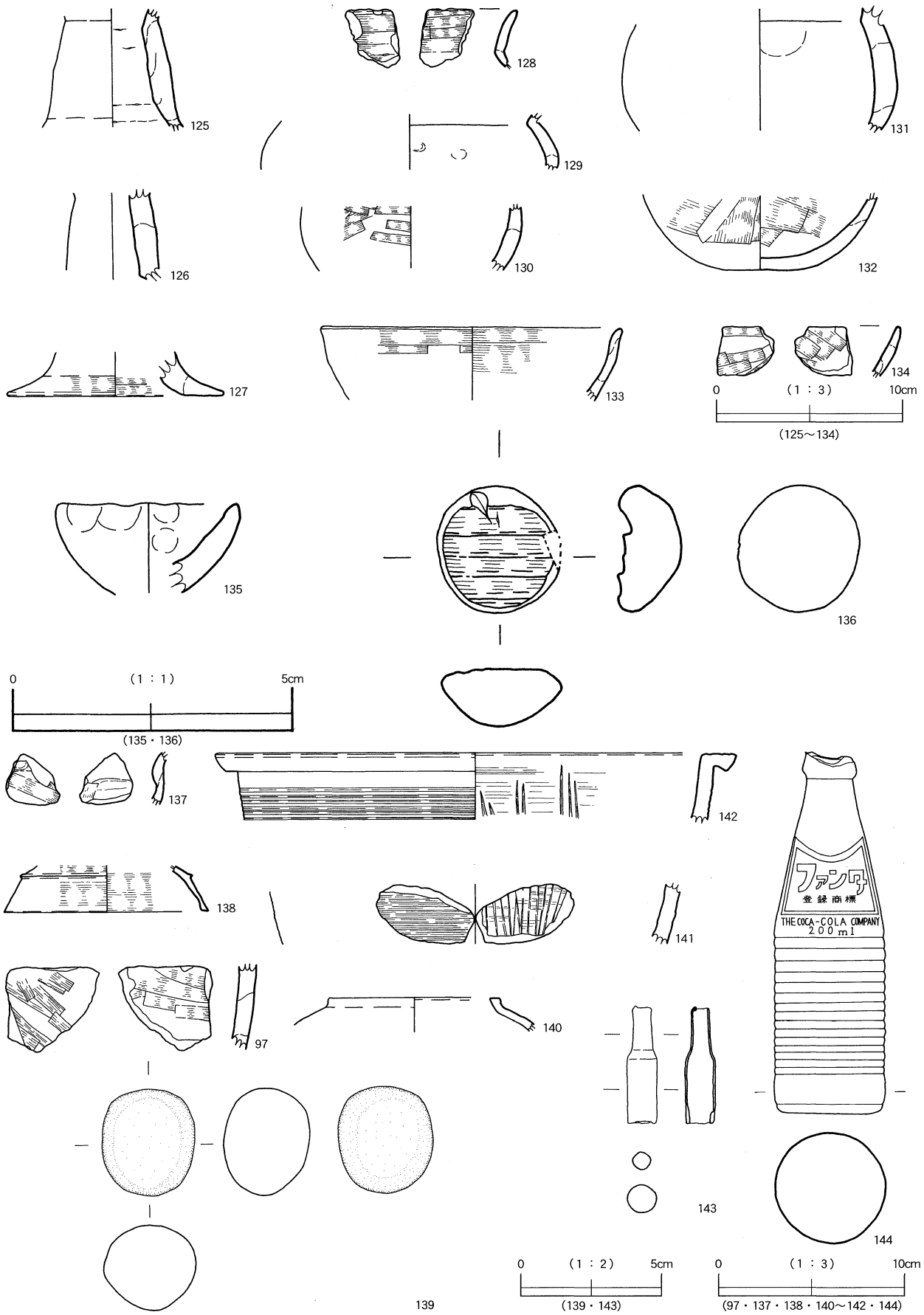
98～106は甕と思われる。98～101は口縁部が残存し、98・99・101はやや外反気味に反る。100は口縁端部で外反する。102は頸部から胴部が残存し、貼付突帯を持たない。比較的小型の甕と思われる。103は頸部が残存する。貼り付けた突帯に浅い刻目をもち、その刻目は指頭を軽く押圧したように施されたと思われる。104・105は底部が残存する。104は東原式土器に見られるような微小な底部をもつ。106は脚部が残存する。脚はやや外反気味に作出されている。器壁の調整が疎で歪である。107～120は壷と思われる。107～112は口縁部が残存し、107～109はやや外反気味に反る。109は器壁の調整が疎で歪である。110は外反する。111はほぼ直行する。112は極端に短頸の口縁部と思われ、外面に赤色塗布が認められる。113・114は頸部から胴部が残存する。頸部に貼り付けた刻目突帯をもち、その刻目は布目圧痕と思われ、棒状の道具に布を巻いて押圧したものと思われる。115・116は胴部が残存し、115は胴部に未調整の低い段を残す。116は内面に積上げの接合痕が意図的に残る。117～119は胴部から底部が残存する。117は他の遺物とは異なり、胎土が微細で器面もザラつきが感じられることから、化粧土等を塗布することを前提に作られたものと思われる。118は胴部がやや内湾する。119は胴部がやや内湾し、底部は丸底に近い。120は脚部が残存する。脚はほぼ直行し、作出されている。器壁の調整が疎で歪である。121～126は高坏と思われる。121～123は口縁部が残存する。121は口縁部がやや内湾する。122は口縁部が外反し、胴部外面が「く」字状に屈曲する。123は口縁部が大きく外反する。124～127は脚部が残存する。124は脚部と坏部を繋ぐ突起部分である。125は脚がほぼ直行し、脚部下位は緩やかに外反するように見える。126は125と同様に脚がほぼ直行し、胎土に含まれる砂粒や小礫が他の遺物よりも多含であり、土器の色調も異なることから搬入品の可能性が考えられる。127は脚の底部であり、大きく外反し、端部は丸くおさまる。128～132は坩と思われる。128は口縁部が残存し、わずかに外反する。129・130は胴部が残存し、129は外面に赤色塗布が認められる。131・132は頸部から胴部が残存する。131は頸部から底部までが比較的幅狭で、胴部が極端に低いように思える。また胎土に含まれる鉱物が他の遺物と比べても密であり、搬入品の可能性も考えられる。132は坩の底部であり、器壁も比較的薄い。133は坏の口縁部と思われる。口縁部が内湾し、口縁端部で外反する。須恵器の坏の器形を模倣したものと思われる。134は椀形土器の口縁部と思われ、緩やかに内湾する。135はミニチュア土器の口縁部であり、口縁部を内湾し、手捏ねで調整し器形は歪である。136は胎土の様子から成川式土器群に分類した。胎土を楕円形に成形し、その一面をヘラ状の工具で横引きに浅く段を洗濯板状に作っている。使用用途等不明である。



第44図　浜場遺跡　成川式土器　遺物出土状況全体図



第45図　浜場遺跡　成川式土器



第46図　浜場遺跡　成川式土器・土師器・須恵器・石器・近世陶器・現代遺物

Ⅲ層出土　土師器・須恵器

土師器が１点（137）、須恵器が１点（138）のみ出土し、それぞれＣ－15 区、Ｃ－19 区より出土し、その２点を実測・図化（第 46 図）した。分布の傾向は出土量が少ないため、判断が困難である。

137 は土師器であり、坩の頸部から胴部が残存する。器形の調整も指頭圧痕が目立ち、内面の器壁は歪である。138 は須恵器であり、坏蓋の口縁部が残存する。口縁端部が平坦で、胴部外面に段を有する。胎土が小豆色を呈し、初期須恵器の可能性が考えられる。

Ⅲ層出土　石器

Ⅲ層中から石器は１点（139）のみ、Ｃ－18 区で出土した。その１点を実測・図化（第 46 図）した。139 は砂岩製の磨石である。比較的小振りで、形状は俵型で研磨による磨耗面が所々に見られる。また上部に磨耗面を伴う僅かな凹みが見られる。

3　その他

古墳時代以降の遺構は確認できなかったが、Ⅲ層及び撹乱層より近世陶器の出土が認められた。また表土層遺物ではあるが現代遺物として２点（143・144）を実測・図化（第 46 図）した。

近世陶器

近世陶器はⅢ層出土が１点（140）のみであり、Ｃ－18 区より出土した。その他撹乱層出土の２点（141・142）を実測・図化（第 46 図）した。

140～142 は近世陶器である。140 は無頸壷の口縁部と思われ、口縁端部が平坦で、その外面に釉の掻取痕が見られる。141・142 は苗代川系薩摩焼の擂鉢である。141 は胴部が残存し、内面に串目が５条の単位で刻まれている。142 は口縁部が残存し、口唇部が肥厚し、口唇の平坦面に釉の掻取痕が見られる。内面に串目が５条の単位で刻まれている。

現代遺物

143 はキセルの吸口である。表面に緑青が付着しており、その直径は最大で 1.05 ㎝を測る。144 は南九州コカコーラボトリング株式会社製と思われる 200ml ファンタの瓶である。口唇部が欠けている以外はほぼ完形である。アルファベット表記面の下位に「39 Y　71」とあり、1971 年の製造瓶である。南九州コカコーラボトリング株式会社において、ファンタの製造が 1963 年５月９日より行われ、その第１号が宮崎県えびの市の「グリーンパークえびの」に展示してあり、瓶の形状・質感は今回調査で確認された遺物とほとんど変わりがみられない。

第24表　浜場遺跡　成川式土器観察表（1）

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂				口径	底径	器高	
第45図	98	247	C-18区 Ⅲ層	甕	口縁部	成川式土器		○				○	10YR6/4 10YR7/4	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	横ナデ・ナデ 一部板ナデ 横ナデ・板ナデ	26.4	—	7.0	内面に所々に黒斑 外面に僅かに煤付着
第45図	99	226	C-18区 Ⅲ層	甕	口縁部	成川式土器				○		○	5YR5/6 5YR6/6	明赤褐色 橙色	ヘラ削り ヘラ削り	18.9	—	7.0	
第45図	100	214	C-18区 Ⅲ層	甕	口縁部	成川式土器					○	○	7.5YR6/6 10YR6/4	橙色 にぶい黄橙色	横ナデ・ナデ 横ナデ後板ナデ	15.4	—	2.1	土師器との折衷？ 外面に煤付着
第45図	101	95	B-18区 Ⅲ層	甕	口縁部	成川式土器				○		○	7.5YR7/6 2.5Y5/2	橙色 暗灰黄色	横ナデ 丁寧なナデ 横ナデ・ナデ	—	—	3.5	内外面に 薄く煤付着
第45図	102	155	C-17区 Ⅱ層	甕	頸部～ 胴部	成川式土器		○		○		○	7.5YR6/6 7.5YR6/6	橙色 橙色	丁寧なナデ 一部指頭圧痕 粗いナデ	—	—	5.8	内面に輪積み痕有
第45図	103	154	C-17区 Ⅲ層	甕	頸部	成川式土器		○				○	7.5YR6/4 10YR7/4	にぶい橙色 にぶい黄橙色	ナデ 粗いナデ	—	—	3.6	刻目が浅い 指頭を軽く押圧？
第45図	104	159	C-17区 Ⅲ層	甕	底部	成川式土器	○			○		○	10YR7/4 10YR7/4	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	丁寧なナデ ナデ	—	—	1.35	東原式の底部と 思われる
第45図	105	75	B-16区 Ⅳ層	甕?	底部	成川式土器		○		○		○	10YR7/6 5YR6/6	明黄褐色 橙色	ナデ 横ナデ後ナデ消し (斜) ナデ 一部指頭圧痕	—	—	3.7	底部に近い
第45図	106	86	B-17区 Ⅲ層	甕	脚部	成川式土器		○		○		○	5YR6/6 7.5YR7/6	橙色 橙色	粗いナデ 粗いナデ 一部指頭圧痕	—	—	4.1	
第45図	107	72	B-17区 Ⅲ層	壷?	口縁部	成川式土器		○	○			○	10YR7/4 10YR7/4	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ナデ・横ナデ 丁寧なナデ ナデ	—	—	4.85	外面に薄く煤付着
第45図	108	55・136	B・C-15区 Ⅲ層	壷	口縁部	成川式土器		○		○	○	○	7.5YR6/4 7.5YR6/4	にぶい橙色 にぶい橙色	ナデ ナデ	19.4	—	2.45	外面に煤付着
第45図	109	228	C-18区 Ⅲ層	壷	口縁部	成川式土器		○		○	○		7.5YR6/4 7.5YR6/4	にぶい橙色 にぶい橙色	ナデ・板ナデ 一部指頭圧痕 ナデ	16.1	—	4.05	
第45図	110	115	B-19区 Ⅲ層	壷	口縁部	成川式土器		○			○	○	7.5YR6/4 10YR6/4	にぶい橙色 にぶい黄橙色	横ナデ 横ナデ	—	—	2.2	
第45図	111	257	C-19区 Ⅲ層	壷	口縁部	成川式土器		○		○	○	○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	ナデ・横ナデ 丁寧なナデ (斜)ナデ・ナデ	—	—	2.5	
第45図	112	—	2区 撹乱	壷	口縁部	成川式土器		○				○	10R5/6 5YR5/6	赤色 明赤褐色	ナデ ナデ	6.6	—	1.6	外面に赤色塗布 極端に短頸
第45図	113	108	B-18区 Ⅳ層	壷	頸部～ 胴部	成川式土器				○	○	○	7.5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	ナデ ナデ	—	—	3.6	辻堂原 突帯刻目は布目
第45図	114	103	B-19区 Ⅲ層	壷	頸部～ 胴部	成川式土器		○		○	○		5YR5/6 7.5YR5/4	明赤褐色 にぶい褐色	ナデ 一部ヘラ削り ナデ・板ナデ	—	—	3.6	辻堂原 突帯刻目は布目
第45図	115	88 —	B-17区 Ⅲ層 2区撹乱	壷	胴部	成川式土器		○				○	7.5YR6/6 7.5YR7/6	橙色 橙色	横ナデ後ナデ 丁寧なナデ ナデ	—	—	5.9	外面の所々に 煤付着
第45図	116	199	C-18区 Ⅲ層	壷?	胴部	成川式土器	○	○		○		○	5YR6/6 10YR4/3	橙色 にぶい黄褐色	ナデ 粗いナデ	—	—	4.05	内面に意図的な 輪積み痕有
第45図	117	112・127	B-18区	壷	胴部～ 底部	成川式土器		○		○		○	10YR8/4 2.5Y8/3	浅黄橙色 淡黄色	丁寧なナデ ナデ	—	—	11.9	外面に塗布すること を意識？
第45図	118	243	C-18区 Ⅲ層	壷	胴部～ 底部	成川式土器		○		○		○	7.5YR6/6 7.5YR6/4	橙色 にぶい橙色	(斜) ハケ目 ナデ一部板ナデ	—	—	7.65	
第45図	119	—	1区 撹乱	壷	胴部～ 底部	成川式土器		○	○	○		○	7.5YR6/6 5YR5/6	橙色 明赤褐色	板ナデ 後ナデ磨き 刷けナデ・ナデ	—	2.0	3.95	平底 外面に煤付着
第45図	120	182・225 227	C-18区 Ⅲ層	壷	脚部	成川式土器		○		○	○	○	5YR5/4 5YR5/4	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	(斜) ナデ ヘラ削り・粗いナデ ヘラ削り・粗いナデ	—	10.6	4.5	
第45図	121	137	C-15区 Ⅲ層	高坏	口縁部	成川式土器		○				○	5YR5/4 7.5YR6/4	にぶい赤褐色 にぶい橙色	丁寧なナデ 丁寧なナデ	—	—	4.7	内面に煤付着
第45図	122	—	2区 撹乱	高坏	口縁部	成川式土器		○				○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	横ナデ 横ナデ	—	—	3.2	
第45図	123	135	C-15区 Ⅲ層	高坏	口縁部	成川式土器					○	○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	横ナデ 横ナデ・丁寧なナデ	—	—	2.8	
第45図	124	229	C-18区 Ⅲ層	高坏	脚部	成川式土器	○			○	○	○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	(斜)横ナデ 粗いナデ	—	—	4.0	脚部と坏部の 取り付け部分
第46図	125	—	2区 撹乱	高坏	脚部	成川式土器	○	○				○	10YR7/4 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 橙色	ナデミガキ 粗いナデ	—	—	4.6	辻堂原式と 思われる
第46図	126	—	2区 撹乱	高坏	脚部	成川式土器	○	○		○		○	5YR5/6 5YR5/6	明赤褐色 明赤褐色	丁寧なナデ 粗いナデ	—	—	4.6	胎土に含まれる 砂粒・小礫が顕著
第46図	127	282	C-18区 Ⅳ層	高坏	脚部	成川式土器		○		○	○	○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	丁寧なナデ 横ナデ・ナデ 横ナデ	—	11.6	3.2	
第46図	128	196	C-18区 Ⅲ層	坩	口縁部	成川式土器				○	○	○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	横ナデ・ナデ 横ナデ・ナデ	—	—	3.2	
第46図	129	266	C-19区 Ⅲ層	坩	胴部	成川式土器		○				○	2.5YR5/6 10YR7/4	明赤褐色 にぶい黄橙色	丁寧なナデ ナデ・粗いナデ 一部指頭圧痕	—	—	2.9	外面の所々に 赤色塗布
第46図	130	175	C-17区 Ⅳ層	坩?	胴部	成川式土器		○		○		○	7.5YR5/3 7.5YR5/3	にぶい褐色 にぶい褐色	丁寧なナデ (斜)ナデ 丁寧なナデ	—	—	3.5	外面に煤付着
第46図	131	203	C-18区 Ⅲ層	坩	頸部～ 胴部	成川式土器		○	○	○	○	○	7.5YR6/4 5YR6/6	にぶい橙色 橙色	丁寧なナデ ナデ・指頭圧痕	—	—	6.5	内外面に煤付着 頸部から胴部に かけて極端に浅い
第46図	132	157	C-17区 Ⅱ層	坩	胴部～ 底部	成川式土器		○		○	○	○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	(斜) ハケナデ ナデ (斜) ハケナデ 丁寧なナデ	—	3.4	4.0	東原式～辻堂原式 の時期 内外面に煤付着

第 25 表　浜場遺跡　成川式土器観察表（2）

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂				口径	底径	器高	
第 46 図	133	142・143	C-16 区 Ⅲ層	坏	口縁部	成川式土器		○			○	○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	板ナデ後ナデ 板ナデ後ナデ	15.6	—	3.9	
第 46 図	134	289	B-20 区 Ⅲ層	椀形	口縁部	成川式土器		○		○		○	10YR6/4 10YR6/4	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	横ナデ・ ナデ一部板ナデ 横ナデ・板ナデ	—	—	2.7	
第 46 図	135	—	2 区 Ⅲ層一括	ミニチュア土器	口縁部～胴部	成川式土器		○				○	5YR5/6 5YR5/6	明赤褐色 明赤褐色	ヘラ削り ヘラ削り	3.2	—	1.6	手捏ね土器

第 26 表　浜場遺跡　Ⅲ層出土　異形土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面		法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂						
第 46 図	136	138	C-15 区 Ⅲ層	?	完形？	異形土器	○	○		○		○	5YR6/6 5YR6/6	橙色 橙色	最大長 2.3	最大幅 2.15	最大厚 1.05	

第 27 表　浜場遺跡　土師器・須恵器　土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土						色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
							石・長	雲	角・輝	礫	赤	砂				口径	底径	器高	
第 46 図	137	250	C-18 区 Ⅱ層	坩	頸部～胴部	土師器		○				○	10YR7/4 10YR7/4	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	指頭圧痕・(斜)横ナデ ナデ・指頭痕	—	—	2.8	
第 46 図	138	268	C-19 区 Ⅱ層	杯蓋	口縁部	須恵器						○	7.5Y4/1 N4/0	灰色 灰色	ナデ ナデ	11.0	—	2.5	辻堂原期の初期須恵器

第 28 表　浜場遺跡　Ⅲ層出土　石器計測表

挿図番号	番号	注記番号	出土区	出土層 (遺構)	器種	石質	法量（cm・g）				備考
							最大長	最大幅	最大厚	重量	
第 46 図	139	177	C-18 区	Ⅲ層	磨石	砂岩	3.85	3.30	3.10	57.24	上部に僅かな窪み

第 29 表　浜場遺跡　近世陶器　土器観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	胎土	色調 上段：外面 下段：内面		施文・調整 上段：外面 下段：内面	法量(cm)			備考
											口径	底径	器高	
第 46 図	140	186	C-18 区 Ⅲ層	壷	口縁部	近世陶器	5YR5/4 にぶい赤褐色	2.5Y6/4 2.5Y6/2	にぶい黄色 灰黄色	ロクロナデ ロクロナデ	9.1	—	1.8	口唇部は釉剥ぎ取り痕有
第 46 図	141	—	2 区 撹乱	擂鉢	胴部	近世陶器	2.5Y5/4 にぶい赤褐色	10YR3/3 7.5YR4/3	暗褐色 褐色	ロクロナデ 串目痕	—	—	3.2	串目は 5 条
第 46 図	142	—	2 区 撹乱	擂鉢	口縁部	近世陶器	2.5Y5/2 暗灰黄色	7.5Y5/1 7.5Y5/1	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ	27.0	—	3.6	串目は 5 条

第 30 表　浜場遺跡　現代遺物観察表

挿図番号	番号	注記番号	出土区 出土層 (遺構)	器種	部位	分類	法量(cm・g)				備考
第 46 図	143	—	表土	キセル	吸口	—	最大長 4.2	最大幅 1.05	最大厚 1.0	重量 3.72	
第 46 図	144	—	表土	瓶	完形	ファンタ瓶	最大長 19.4	最大幅 5.9	最大厚 —	重量 392.88	口唇が欠損 1971 年製

第VI章　浜場遺跡における自然科学分析

株式会社　古環境研究所

第１節　土坑２出土の炭化材分析

（１）樹種同定

１　はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２　試料

試料は、Ｂ・Ｃ－14 区検出の土坑２の埋土から採取された炭化材２点である。

３　方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって 50～1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４　結果

表１に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

コナラ属アカガシ亜属　*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*　ブナ科（図版１）

横断面：中型から大型の道管が１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ 30m、径 1.5m以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

散孔材　diffuse-porous wood（図版２）

横断面：小型の道管が散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔である。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅ぐらいである。

以上の形質より散孔材に同定される。ヒサカキ属、ハイノキ属、ガマズミ属に類似する点も見られるが、試料が小片で広範囲の観察が困難なため、散孔材の同定にとどめた。

5　所見

樹種同定の結果、土坑２の埋土から採取された炭化材は、コナラ属アカガシ亜属および散孔材と同定された。コナラ属アカガシ亜属は、温帯下部の暖温帯の照葉樹林を形成する主要高木であり、散孔材についても暖温帯域に生育する広葉樹とみなされる。いずれも、当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能な樹種であったと考えられる。

（２）放射性炭素年代測定

1　はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（^{14}C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。

2　試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	B･C－14区，土坑２埋土，No.285	炭化材（散孔材）	acid/alkali/acid	AMS
No.2	B･C－14区，土坑２埋土，No.638	炭化材（アカガシ亜属）	acid/alkali/acid	AMS

acid/alkali/acid：酸-アルカリ-酸洗浄

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

3　測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正^{14}C年代 (年BP)	δ^{13}C (‰)	^{14}C年代 (年BP)	暦年代（較正年代） （２σ:95%確率，１σ:68%確率）
No.1	243993	1620±40	-25.8	1610±40	交点：Cal AD 420 ２σ：Cal AD 380-550 １σ：Cal AD 410-460，480-530
No.2	243994	1630±40	-26.7	1600±40	交点：Cal AD 430 ２σ：Cal AD 390-550 １σ：Cal AD 410-540

BP：Before Physics（Present），Cal：Calibrated，BC：紀元前，AD：紀元後

①未補正^{14}C年代

試料の^{14}C/^{12}C比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は5,730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

②δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料のδ^{13}C値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正する。

③^{14}C年代

δ^{13}C測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代

値を使用する。

④暦年代（Calendar Age）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C濃度の変動および ^{14}Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と ^{14}C年代の比較により作成された較正曲線（IntCal04）を使用した。

暦年代の交点は、^{14}C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し、１σ（シグマ）（68％確率）と２σ（95％確率）は、^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の１σ・２σ値が表記される場合もある。

４　所見

加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定の結果、№.１の炭化材では1610±40年BP（２σの暦年代でAD380～550年）、№.２の炭化材では1600±40年BP（AD390～550年）の年代値が得られた。これらの試料は、ほぼ同一時期のものと考えられる。

第２節　土坑３出土の炭化材分析

（１）樹種同定

１　はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２　試料

試料は、Ｂ－18区検出の土坑３内の埋土から採取された炭化材１点である。

３　方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって 50～1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４　結果

分析の結果、クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.（図版３）と同定された。以下に同定根拠となった特徴を記し、各断面の顕微鏡写真を示す。

クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放

射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20m、径 40cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 30m、径２mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

5　所見

樹種同定の結果、土坑３内から採取された炭化材は、クリと同定された。クリは、温帯に広く分布する落葉広葉樹であり、暖温帯と冷温帯の中間域では純林を形成することもある。乾燥した台地や丘陵地を好み、二次林要素でもある。当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能な樹種であったと考えられる。

（２）放射性炭素年代測定

1　はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（^{14}C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約５万年前までの年代測定が可能である。

2　試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	B－18区，土坑３埋土，No.130	炭化材（クリ）	酸-アルカリ-酸洗浄	AMS

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

3　測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正^{14}C年代 (年BP)	δ^{13}C (‰)	^{14}C年代 (年BP)	暦年代（較正年代） （２σ:95%確率，１σ:68%確率）
No.1	255865	1740±40	-26.2	1720±40	交点：Cal AD 330 ２σ：Cal AD 230-410 １σ：Cal AD 250-390

BP：Before Physics (Present)，Cal：Calibrated，AD：紀元後

①未補正 ^{14}C年代

試料の ^{14}C/^{12}C比から、単純に現在（AD1950 年）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は 5,730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5,568 年を用いている。

②δ（デルタ）^{13}C測定値

試料の測定 ^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料のδ^{13}C値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正する。

③^{14}C年代

δ^{13}C測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代値を使用する。

④暦年代（Calendar Age）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中^{14}C濃度の変動および^{14}Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な^{14}C測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線（IntCal04）を使用した。

暦年代の交点は、^{14}C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し、１σ（シグマ）（68%確率）と２σ（95%確率）は、^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の１σ・２σ値が表記される場合もある。

４　所見

加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定の結果、№１の炭化材では1720±40年BP（２σの暦年代でAD230～410年）の年代値が得られた。

【参考文献】

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造．文永堂出版，290p.

島地 謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．雄山閣，296p.

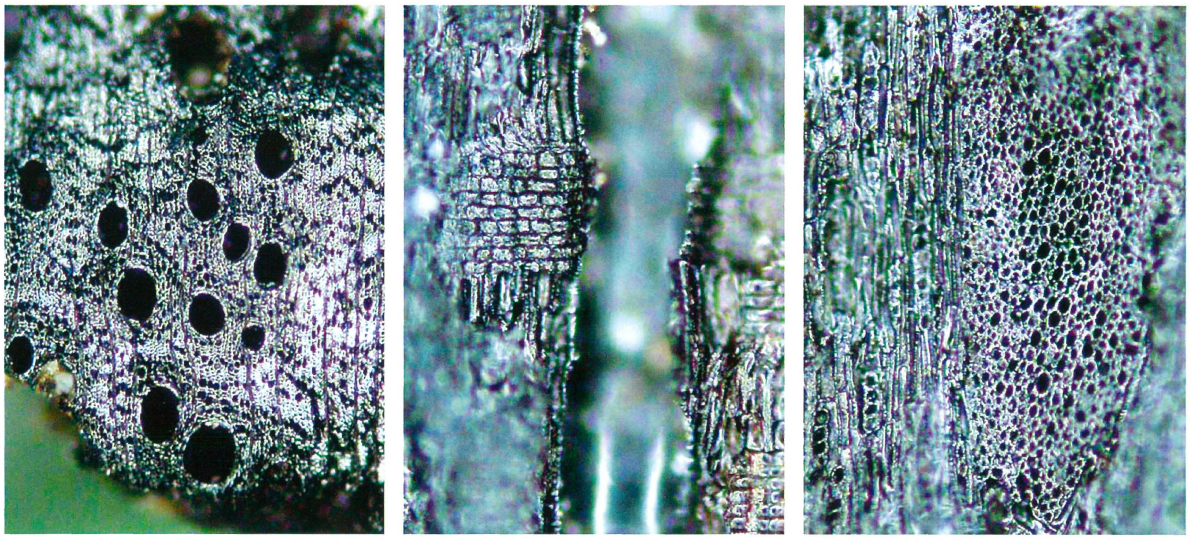
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史．植生史研究特別１号．植生史研究会，242p.

Paula J Reimer et al.，(2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

尾嵜大真（2005）INTCAL98からIntCal04へ．学術創成研究費 弥生農耕の起源と東アジア№３－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－，p.14-15.

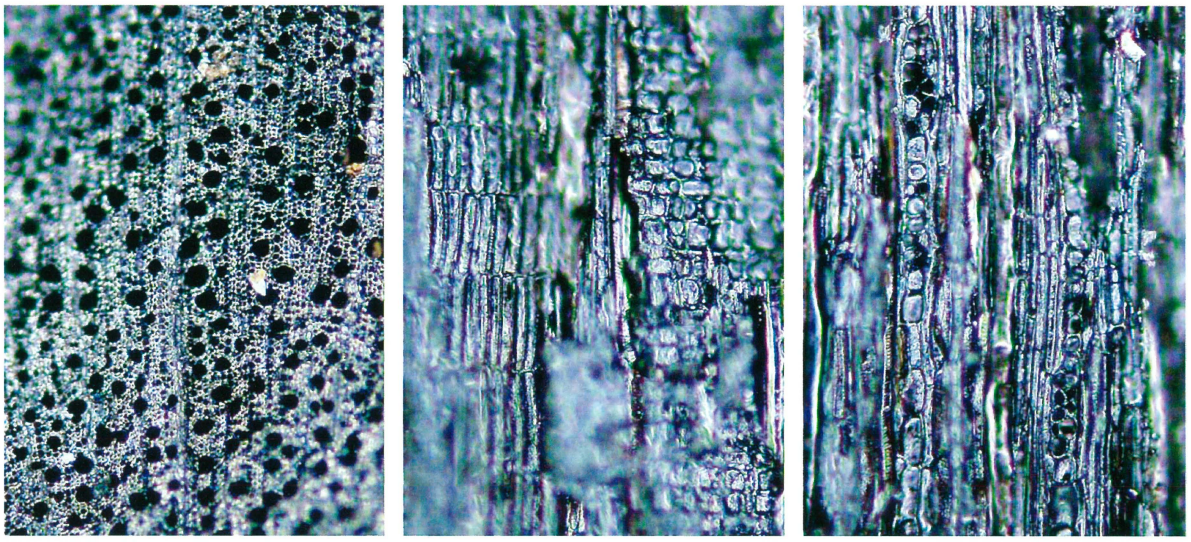
中村俊夫（1999）放射性炭素法．考古学のための年代測定学入門．古今書院，p.1-36.

写真１　浜場遺跡の炭化材



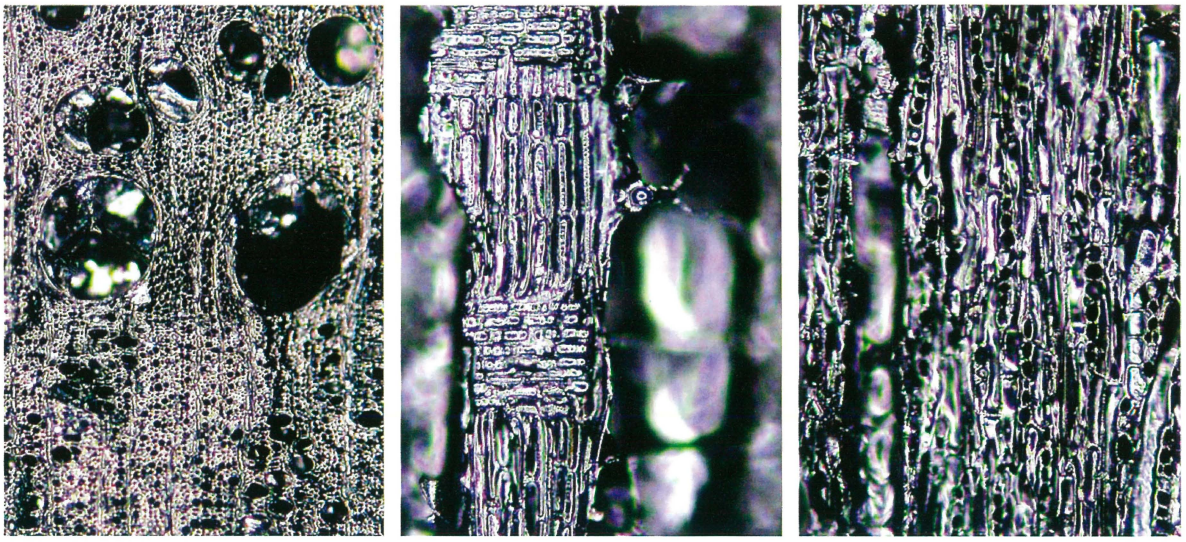
横断面 ―――― ： 0.4mm　放射断面 ―――― ： 0.2mm　接線断面 ―――― ： 0.2mm

図版１．　No.638　土坑２　埋土炭化材　コナラ属アカガシ亜属



横断面 ―――― ： 0.4mm　放射断面 ―――― ： 0.2mm　接線断面 ―――― ： 0.2mm

図版２．　No.285　土坑２　埋土炭化材　散孔材



横断面 ―――― ： 0.4mm　放射断面 ―――― ： 0.2mm　接線断面 ―――― ： 0.2mm

図版３．　No.130　土坑３　埋土炭化材　クリ

第Ⅶ章　下堀遺跡　確認調査の概要

第１節　確認調査の方法

確認調査は、遺跡の性格と範囲を把握するために、事業対象区域内の任意の地点に４トレンチを設定して実施した。下堀遺跡は既設舗装道路の拡張部分の調査であり、掘削範囲が狭く、トレンチの規模は１ｍ×３ｍを基調とした。調査員立会いのもと表土、火山灰層を除去した後、作業員による掘り下げを行った。包含層の残存状況は全体的に良好であったが、一部で削平が見られた。

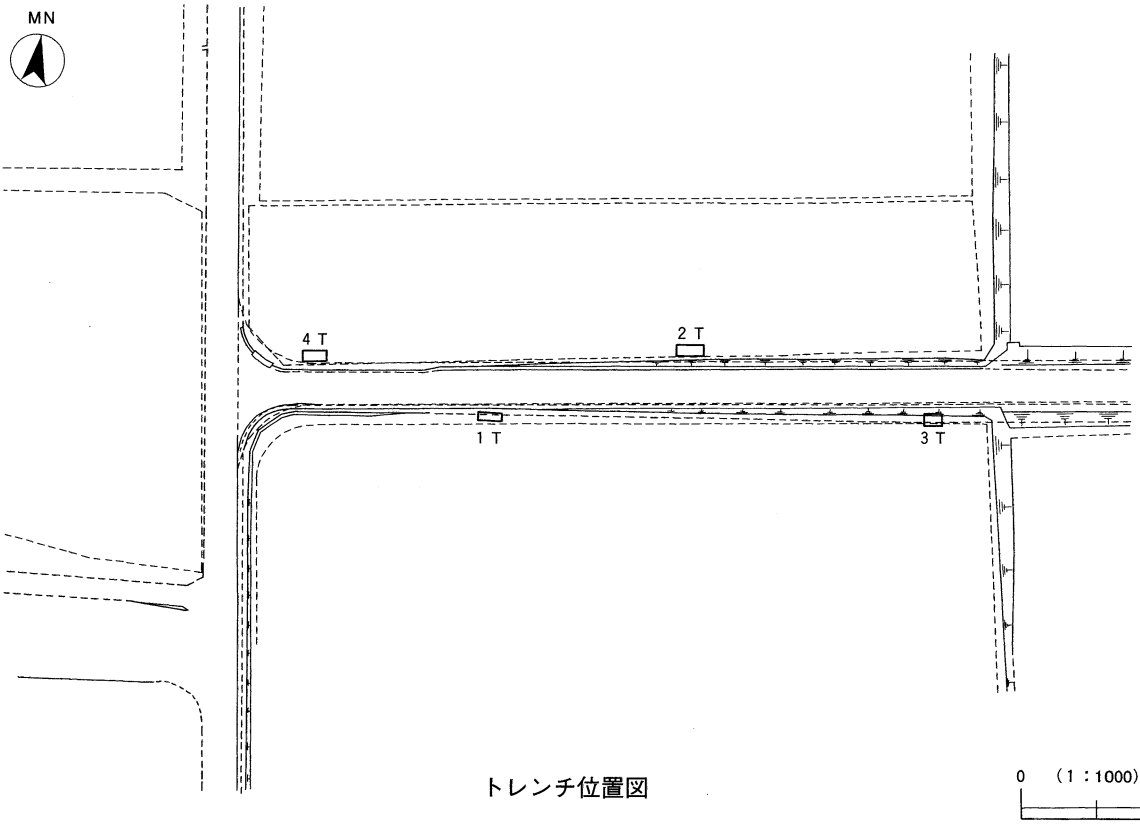
第２節　層位

確認調査時の標準土層は下記のとおりである。

層　位	土　色	土　質　・　特　徴
Ⅰ－ａ層	暗オリーブ灰色〔2.5GY4/1〕	表土層。層中に灰白色〔7.5Y8/1〕テフラ（直径1～10㎜程度）を多含する硬質土層。
Ⅰ－ｂ層	オリーブ黒色〔10Y3/1〕	旧耕作土。層中に灰白色〔7.5Y8/1〕テフラ（直径5～10㎜程度）を含む締まった層。
Ⅱ層	黒色〔N1.5/0〕	層中ににぶい黄橙色〔10YR7/4〕パミス（直径2～4㎜程度）が層全体に浮遊する締まった層。
Ⅲ層	黒色〔2.5GY2/1〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない締まった層。
Ⅳ層	黒色〔5Y2/1〕	層の様子はⅢ層に似るが、比較的層色が明るい硬く締まった層。
Ⅴ層	黒色〔10Y2/１〕	層の様子はⅣ層に似るが、層色が比較的に濃く締まった層。
Ⅵ層	黒色〔7.5Y2/１〕	層中に明黄褐色〔10YR7/6〕パミス（直径2～3㎜程度）を含む締まった層。
Ⅶ層	黒色〔N2/0〕	層中にテフラ・パミスの類を含まず、湿り気のある締まった層。
Ⅷ層	黒褐色〔2.5Y3/2〕	通称　池田湖テフラ層（Ik）。黄橙色〔10YR6/8〕テフラを層の上位にわずかに含み、その下位は粘性をもつ硬く締まった層が堆積する。
Ⅸ層	明黄褐色〔10YR6/8〕	通称　鬼界アカホヤ火山灰層（K－Ah）。かなり硬く締まる層。層の下位に黄橙色〔7.5YR7/8〕テフラ（直径2～10㎜程度）が層を成す。
Ⅹ－ａ層	黒色〔7.5Y2/1〕	層中にテフラ・パミスの類を含まない硬く締まった層。
Ⅹ－ｂ層	オリーブ黒色〔5Y3/1〕	層中に明黄褐色〔10YR6/8〕パミス（直径2～5㎜程度）が層全体に浮遊するように多含する硬く締まった層。
Ⅹ－ｃ層	オリーブ黒色〔5Y2/2〕	層の様子はⅩ－ｂ層に似るが、層中に含まれる明黄褐色パミス（10YR6/8）が大きく比較的硬い層。
Ⅹ－ｄ層	暗オリーブ色〔5Y4/3〕	層色がⅩ－ｃ層と比べて明るくなり、層中に明黄褐〔10YR 6/8〕色パミスをわずかに含む層。
ⅩⅠ層	黄褐色〔2.5Y5/3〕	通称　サツマ火山灰層（Sz－S）。かなり硬化して締まった層。層の上位にサツマ火山灰層の２次堆積が一部見られる。

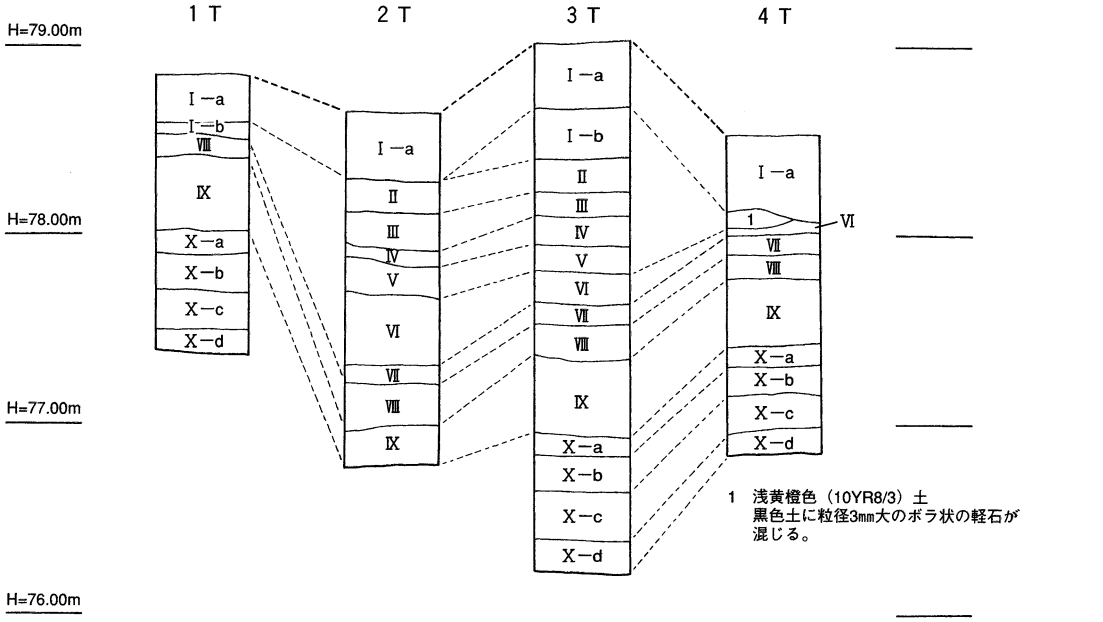
第３節　確認調査の概要

確認調査の結果、遺物・遺構ともに確認されず、事業対象区域内に遺跡は存在しないことが判明した。



トレンチ位置図

0　（1：1000）　20m



土層柱状図

0　（1：40）　1m

第47図　下堀遺跡　確認調査　トレンチ位置図及び土層柱状図

第Ⅷ章　浜場遺跡・下堀遺跡　調査のまとめ

はじめに

浜場遺跡・下堀遺跡は県営半島基幹農道整備事業　草野２期地区に起因する農道整備事業により平成19年度に確認調査、全面調査を実施した遺跡であるが、これらの遺跡の隣接地を同事業の草野地区の事業対象区域においても、同様に浜場遺跡・下堀遺跡を平成 11年度に確認調査、平成14年度に全面調査を実施した。前地区の調査では、浜場遺跡は縄文時代早期の石鏃製作跡、下堀遺跡は縄文時代早期の炉穴下部の「シミ状痕跡」が遺跡の特徴として確認されている。

第１節　浜場遺跡　遺物

（１）土器

土器は第Ⅴ章で述べたとおり、大別して古墳時代・縄文時代早期の遺物が確認されている。古墳時代の土器に関しては主に成川式土器が主であり、辻堂原式から笹貫式にかけての土器型式の特徴を持つことから、古墳時代中期末頃から後期にかけての遺物が確認されたことになる。縄文時代早期の土器に関しては、全体的な出土点数は少ないものの、縄文時代早期前葉から後葉末にかけての時期にかけての遺物が確認され、出土遺物数から、第Ⅴ群（塞ノ神Ａａ式）から第Ⅷ群（苦浜式）にかけて遺物の出土数が多く比較的遺物の残存状況が良いものが確認されていることから、縄文時代早期後葉から末にかけての居住に伴う遺構が近隣に存在する可能性がある。

（２）石器

縄文時代早期相当の遺物包含層から出土した石器については、OB８類に分類される黒曜石と黒色安山岩製の遺物が大半であり、OB８類に分類される黒曜石については、Ｄ・Ｅ－７区において約３ｍの範囲からOB８類に分類される黒曜石の石質の石鏃・剥片を含んだ密な分布が確認されていることから、平成14年度の調査成果と同様に石鏃製作場が存在した可能性がある。

第２節　浜場遺跡　遺構

Ⅳ層上面で検出された土坑２・土坑３の炭化物の自然科学分析の結果については第Ⅵ章に述べている。この２つの土坑から得られた放射性炭素年代測定の結果を比較すると、土坑２の同遺構内で確認された２点の炭化材についてはサンプル№.１が２σの暦年代でAD380～550年、サンプル№.２が２σの暦年代でAD390～550年の結果が得られた。この２点のサンプルについては土坑埋土内に確認された硬化面の上下で確認されたものであるが、ほぼ同一時期の試料であり、硬化面の形成を伴う複数時期の使用については、ほとんどの差異がない事がわかった。土坑３の炭化材については２σの暦年代でAD230～410年であり、土坑２と土坑３の使用時期については２σの暦年代でAD390～410年の間に交点が得られ、土坑２・土坑３についてはほぼ同一時期に使われた可能性がある。また、Ⅳ層上面で検出された溝１は、遺構床面及び遺構埋土内に少量ながら成川式土器が確認されていることから、使用年代は古墳時代以降であることが考えられる。その使用意図については、土層の堆積状況についても幅の広い溝状遺構部分（第34図）と、そこに交差する４トレンチＡ－

A′ 面（第 37 図）を見る限りでは層がレンズ状に堆積しているのが確認でき、その直下に広く硬化面が形成されていることから道跡の使用が考えられる。しかし２条の細い溝状遺構については遺構の掘り込みが上層の撹乱により僅かに確認できる状態であった。残存する遺構内埋土を観察しても土砂の流入を示す層の堆積は見当たらず、底面の高低差についても一定の状況が見られない事から水利に伴う遺構の可能性は低いと考えられる。また遺構の底面で確認された直径 10～15 ㎝程度の浅い柱穴状遺構について牛馬の足跡痕を伴う道跡が考えられたが、底面及び柱穴状遺構に硬化面の形成が見られず牛馬の足跡痕の確証は得られなかった。

Ⅸ－ｂ層上面で確認された集石及び炭化物集中地点について、遺構埋土内には時期を示す遺物が確認されなかったため使用時期は、遺構を巡る遺物の出土状況に関連性を見いだされると思われ、集石１・２・３の付近には第Ⅴ群（塞ノ神Ａａ式）、炭化物集中地点３の付近には第Ⅶ群（塞ノ神Ｂｄ式）、炭化物集中地点１の付近には第Ⅳ群（手向山式）、炭化物集中地点２の付近には第Ⅷ群（苦浜式）の土器がそれぞれ確認されていることから、３区で確認されたⅨ－ｂ層上面検出遺構は、ほぼ縄文時代早期後葉に使用されたものと考えられる。

平成 14 年度調査成果との遺物・遺構分布の傾向

この遺跡の立地は舌状に延びる台地末端の根元にあたり、今回の全面調査における古墳時代の遺物包含層はその台地末端の根元中央に存在する。平成 14 年度の調査では遺物・遺構とも調査区中央部を除くほぼ全域に、掘立柱建物・柱列を含む遺構群及び成川式土器を中心とした分布が確認されている。また同様に縄文時代早期の遺物は、田原川を眼下に望む台地の東端部に炉穴・土坑・散石群を含む遺構群及び出土数は少ないが辻タイプ・塞ノ神式・石坂式・下剥峯式の縄文時代早期の土器と多量の石鏃・剥片の分布が確認されている。

今回の全面調査において、古墳時代の遺物包含層及び遺構は、調査区の東側にその分布の傾向があることは前述したとおりであるが、平成 14 年度の調査結果と照らし合わせた場合、比較的に平成 14 年度調査の成川式土器の遺物分布が疎であり、今回の全面調査地のＣ－18 区を中心に密な出土分布が見られることから、浜場遺跡における古墳時代の遺跡地は、舌状に延びる台地末端の中央付近にあることが考えられる。また縄文時代早期の分布は、いずれも台地の東端と西端にそれぞれ位置し、遺構の分布についても散石・集石を伴った点は類似の傾向があるように思える。

第３節　下堀遺跡　まとめ

今回の確認調査においては遺物・遺構とも確認されなかったが、平成 14 年度の発掘調査の成果から、より田原川に近い台地の西端には埋蔵文化財が包蔵されている可能性は高く、今後の調査によって下堀遺跡の全容を把握することも可能と思われ、今後の試料の増加と検討が必要と思われる。

【参考文献】

『鹿大考古　第６号　成川式土器再考』　中村直子　1987　鹿児島大学考古学会
『日本土器辞典』　大川　清・鈴木公雄・公楽善通　1996　雄山閣
『新編　火山灰アトラス―日本列島とその周辺』　町田洋・新井房夫　2003　東京大学出版会
『上野原遺跡（第10地点）』　中村耕治・井ノ上秀文・冨田逸郎・八木澤一郎　2001
鹿児島県立埋蔵文化財センター
『上野原遺跡（第2～7地点）』　森田郁朗・今村敏照・中村和美・黒川忠弘　2002
鹿児島県立埋蔵文化財センター
『城ヶ尾遺跡』　有馬孝一・馬籠亮道・鮫島伸吾・真鍋雄一郎・長野眞一　2003
鹿児島県立埋蔵文化財センター
『桐木耳取遺跡』　長野眞一・大保秀樹・松尾勉・野間口勇・八木澤一郎・岩戸孝夫・元田順子・真鍋雄一郎・馬籠亮道・鮫島信吾・山元真美子　2005　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『上野原遺跡（第10地点）』　中村耕治・繁昌正幸・井ノ上秀文・冨田逸郎・森田郁朗・東和幸・八木澤一郎・栗林文夫　2000　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『九日田遺跡』　井ノ上秀文・宇都俊一　2002　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『供養之元遺跡』　野邊盛雅・山崎克之　2002　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『前原和田遺跡』　大保秀樹　2002　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『桐木遺跡』　中原一成　2004　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『三角山遺跡群（2）』　藤﨑光洋・大久保浩二・上床真　2004　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『三角山遺跡群（3）』　藤﨑光洋・中村和美　2006　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『仁田尾中Ａ・Ｂ遺跡』　長野眞一・國師洋之・馬籠亮道　2007
鹿児島県立埋蔵文化財センター
『関山西遺跡』　遠矢勝幸・永濱功治　2008　鹿児島県立埋蔵文化財センター
『熊毛諸島の縄文早期土器の一型式－苦浜式土器の認定－』　堂込秀人　1994
考古学ジャーナル
『南九州貝殻文系土器Ⅰ～鹿児島県～』　黒川忠広　2002　南九州縄文研究会
『横峯遺跡』　倉元良文・堂込秀人・成尾英仁　1993　南種子町教育委員会
『大中原遺跡』　下大川司・前迫亮一　2000　根占町教育委員会
『仕明遺跡』　中水忍・出口順一朗・堂込秀人・前迫亮一・横手浩二郎・和田るみ子・東徹志　2005
有明町教育委員会
『横堀遺跡』　中水忍・東徹志・出口順一朗・堂込秀人　2005　有明町教育委員会

図　版

図版１　浜場遺跡　試掘調査　浜場遺跡・下堀遺跡　確認調査

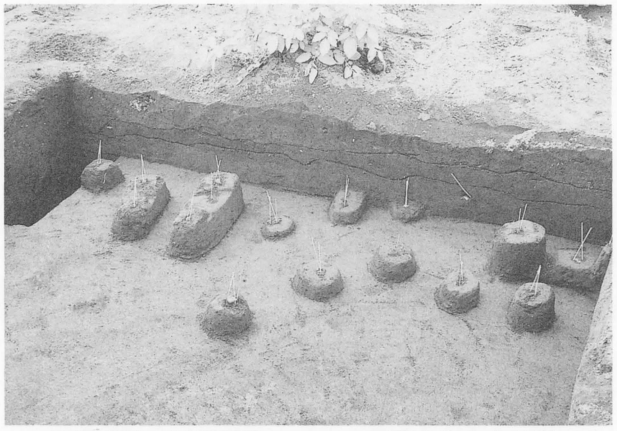
浜場遺跡　確認調査　２Ｔ　北壁土層断面

浜場遺跡　確認調査　５Ｔ　北壁土層断面

浜場遺跡　確認調査　２Ｔ　土坑２検出状況

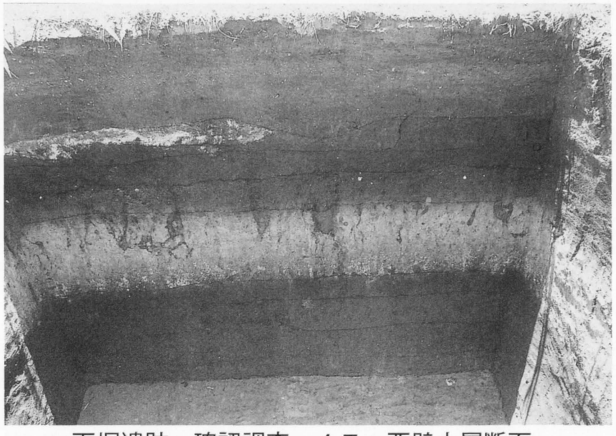
浜場遺跡　確認調査　５Ｔ　礫出土状況

浜場遺跡　確認調査　４Ｔ　Ｘ層上面　遺構検出状況



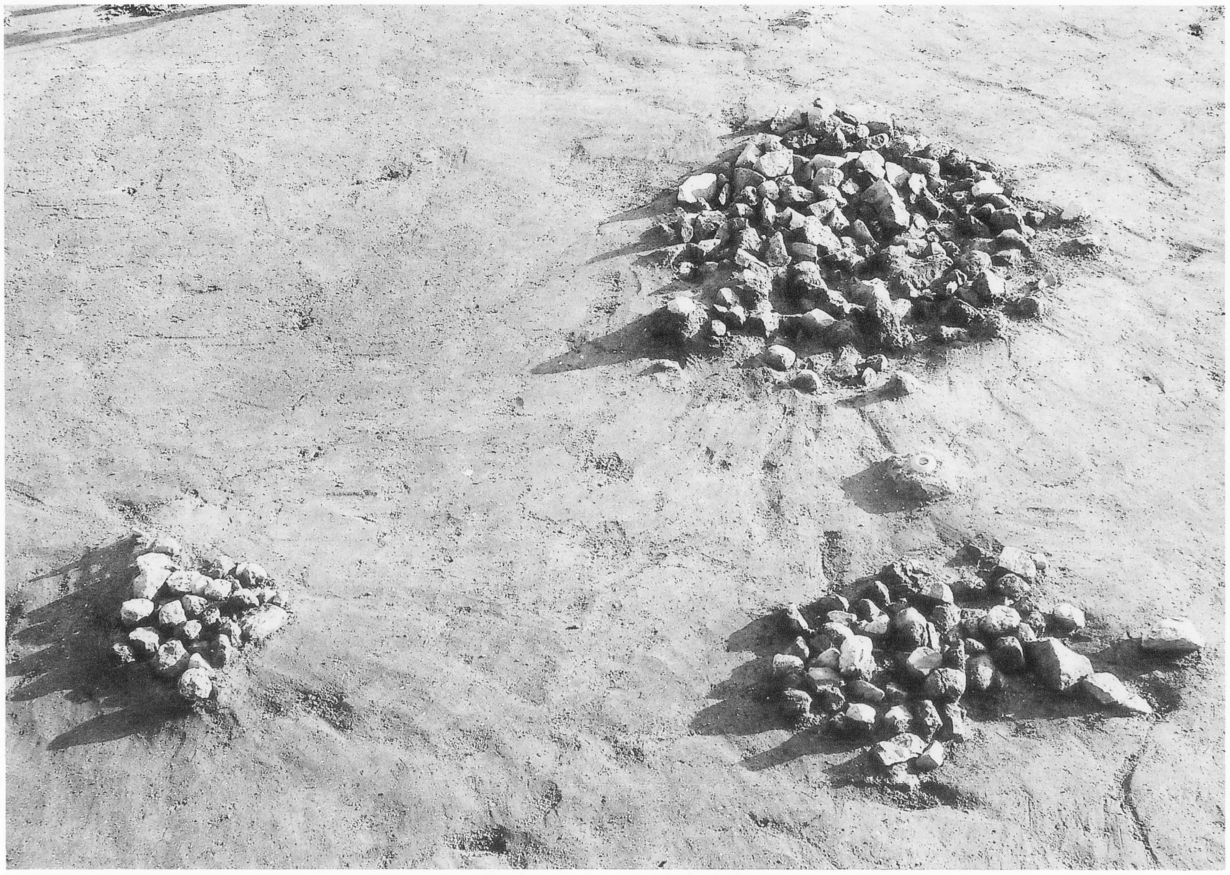
浜場遺跡　試掘調査　４Ｔ　Ⅲ層遺物出土状況

下堀遺跡　確認調査　３Ｔ　西壁土層断面



下堀遺跡　確認調査　４Ｔ　西壁土層断面

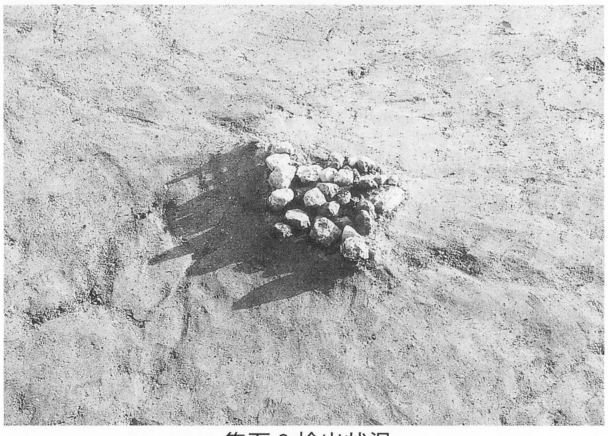
図版２　浜場遺跡　集石



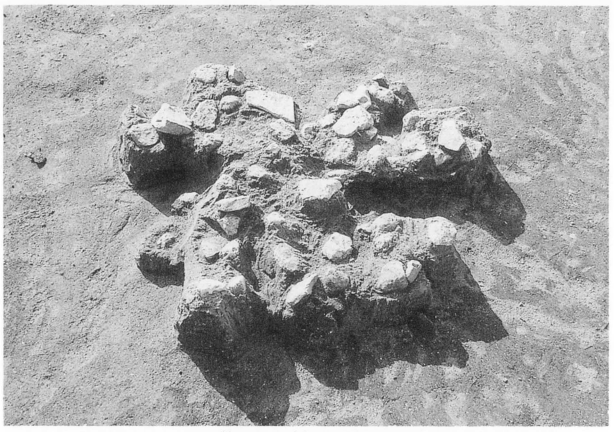
集石１・２・３検出状況

集石１検出状況

集石２検出状況



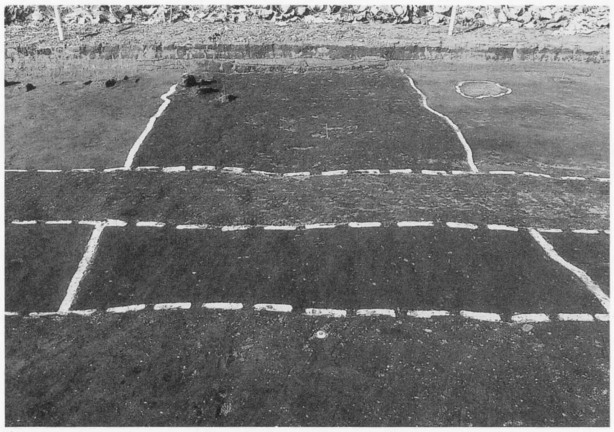
集石３検出状況



集石４検出状況

図版３　浜場遺跡　溝１

溝１完掘状況（全体）



溝１検出状況（一部）

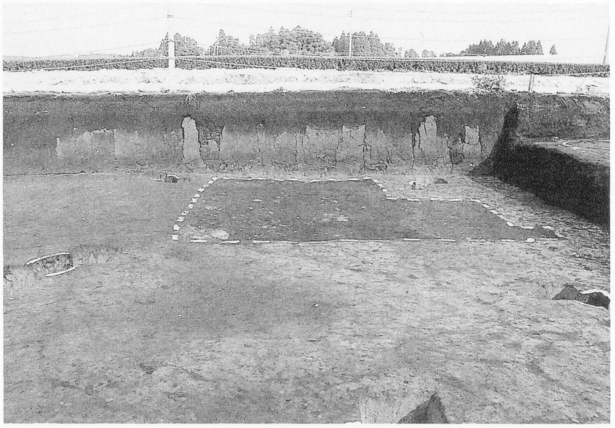
溝１完掘状況（一部）　1

溝１完掘状況（一部）　2

溝１完掘状況（一部）　3

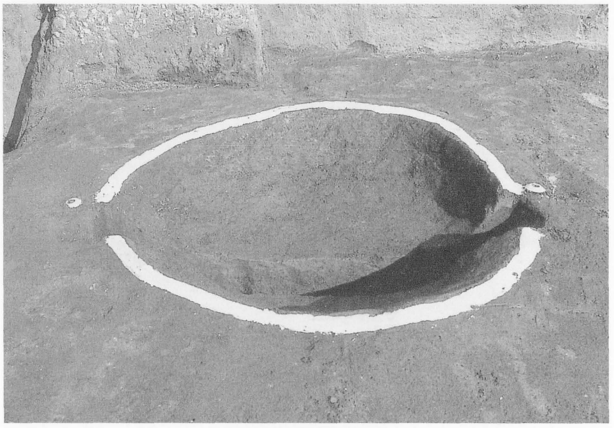
図版４　浜場遺跡　掘立柱建物・土坑

掘立柱建物１検出状況

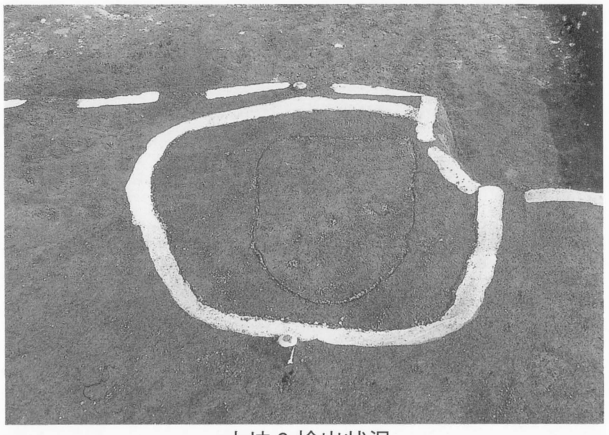


掘立柱建物１完掘状況

土坑２検出状況

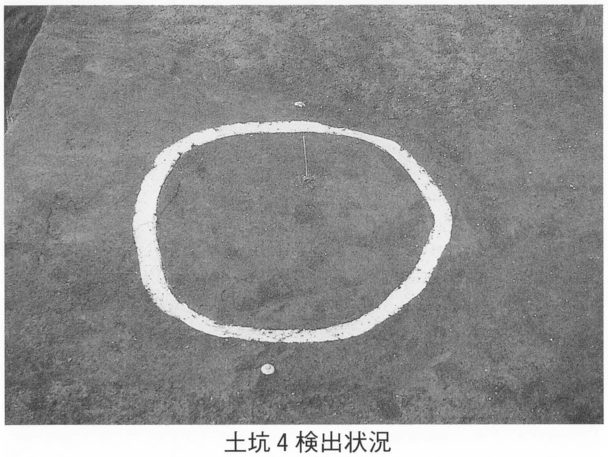


土坑２完掘状況



土坑３検出状況

土坑３完掘状況



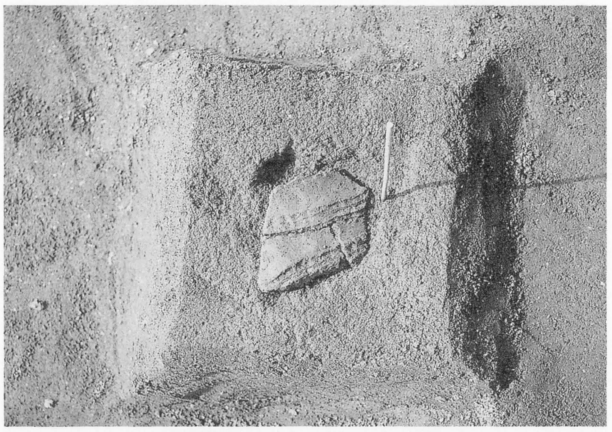
土坑４検出状況

土坑４完掘状況

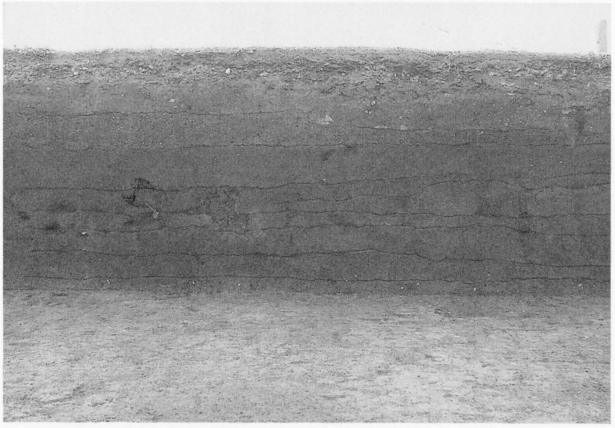
図版５　浜場遺跡　遺物出土状況・土層断面

３－１区　Ⅸ－ａ層遺物出土状況

３－２区　Ⅸ－ａ層遺物出土状況



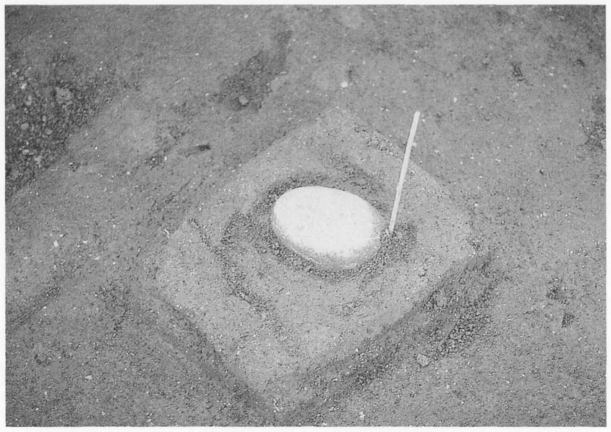
Ⅷ群（44）土器出土状況



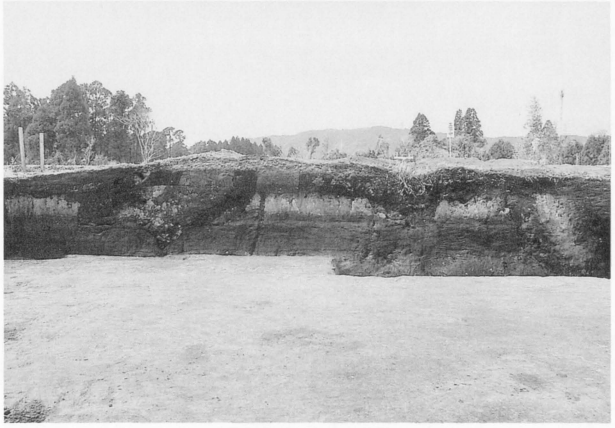
２区南壁土層断面

Ⅶ群（34）土器出土状況

１－３区西壁土層断面

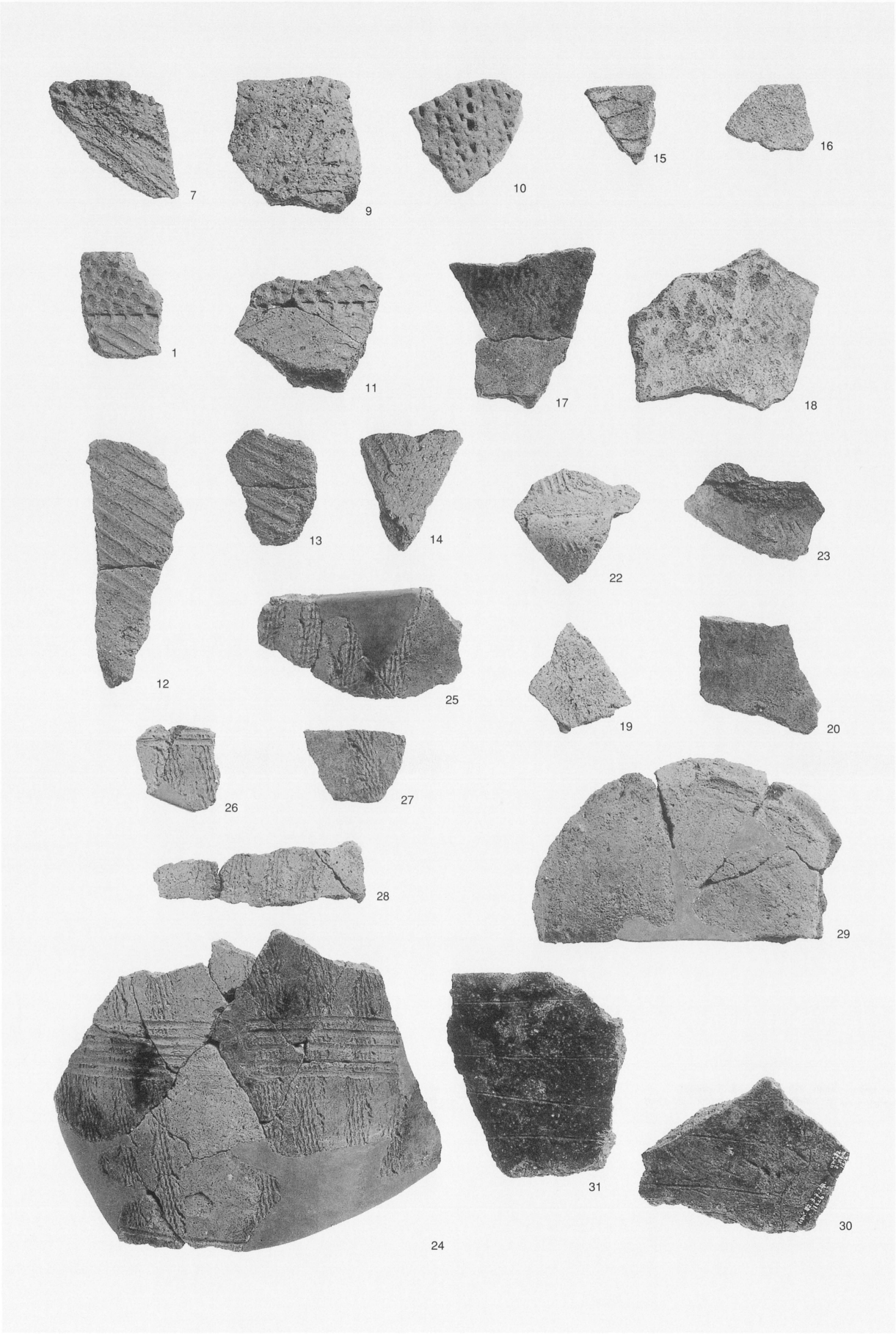


磨石（94）出土状況

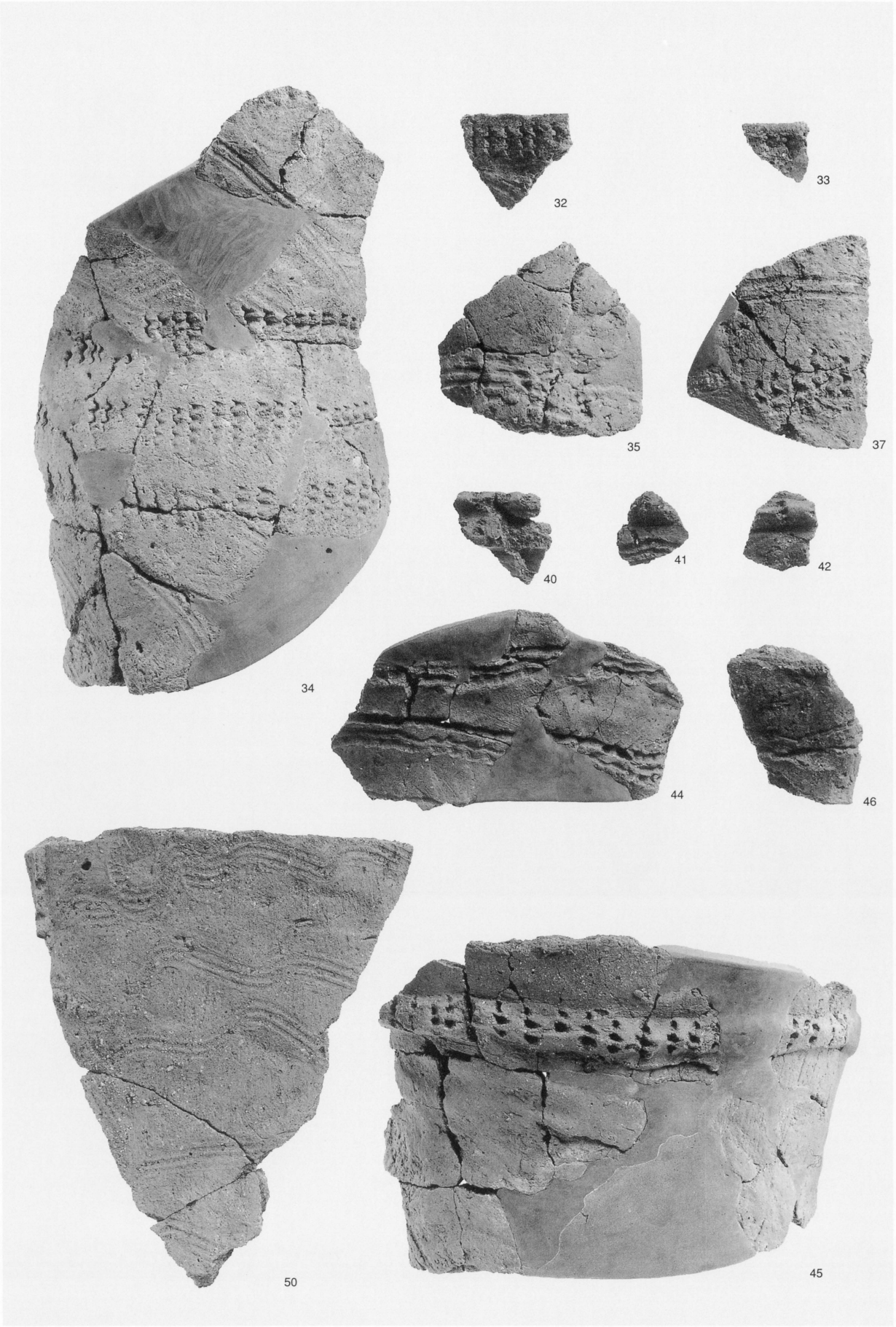


３区西壁土層断面

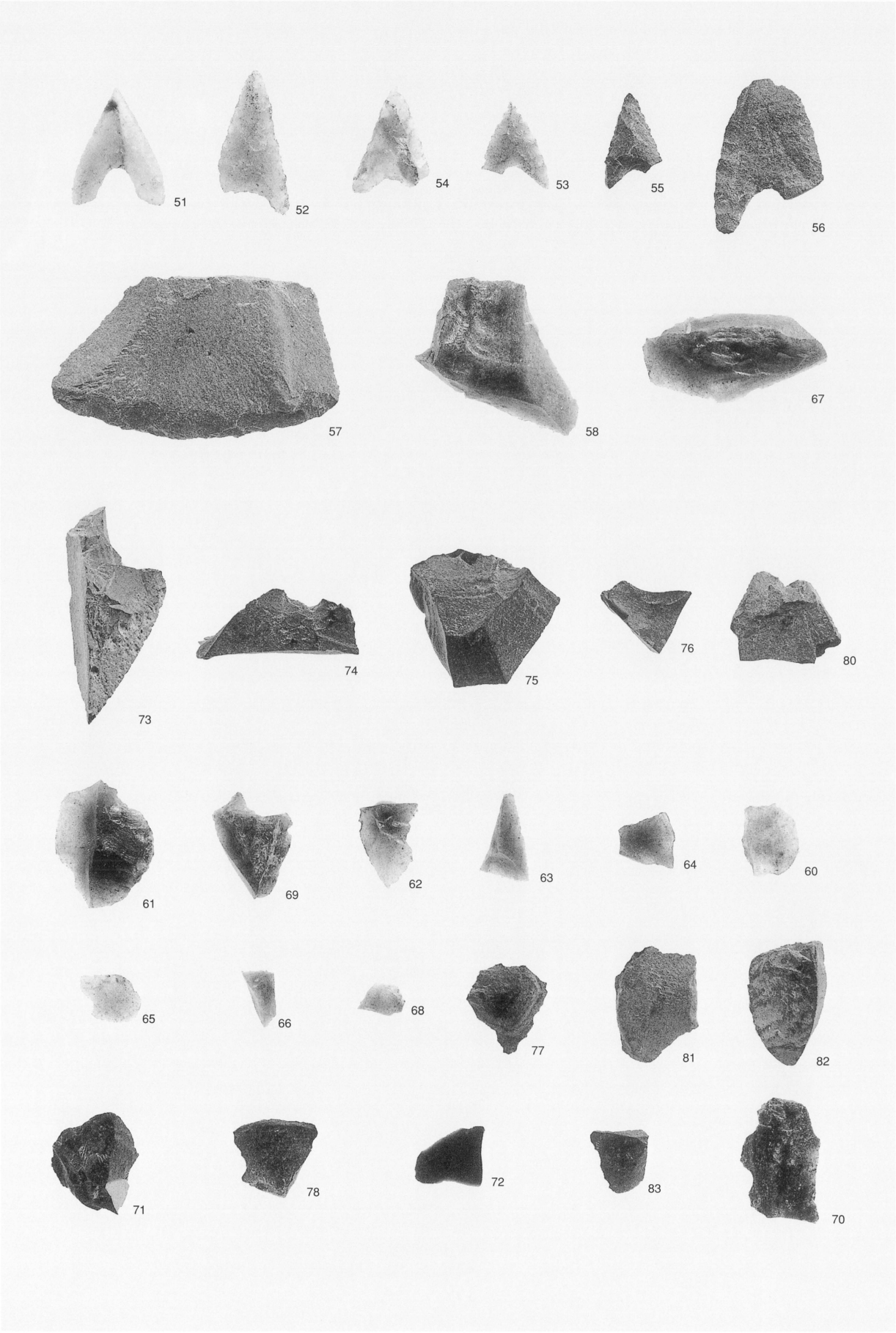
図版６　浜場遺跡　縄文早期土器（Ⅰ～Ⅵ群）



図版７　浜場遺跡　縄文早期土器（Ⅶ～Ⅸ群）

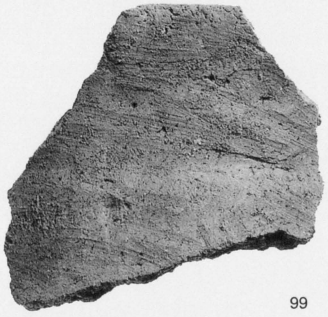


図版８　浜場遺跡　Ⅸ－ａ層出土　石器



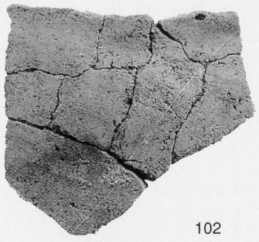
図版 9　浜場遺跡　成川式土器

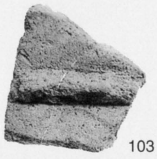
98


99

100

101


102


103

5

106

104

107

108

109

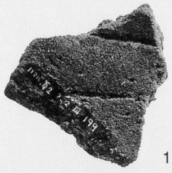
112

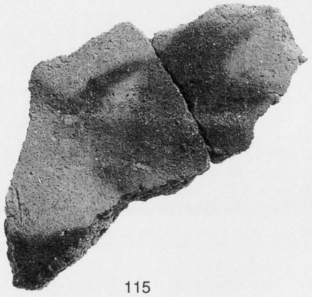
111

110

113

114

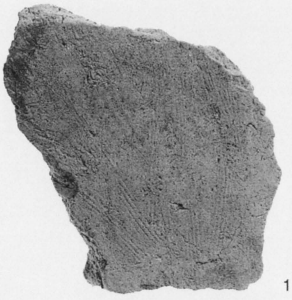

116


115

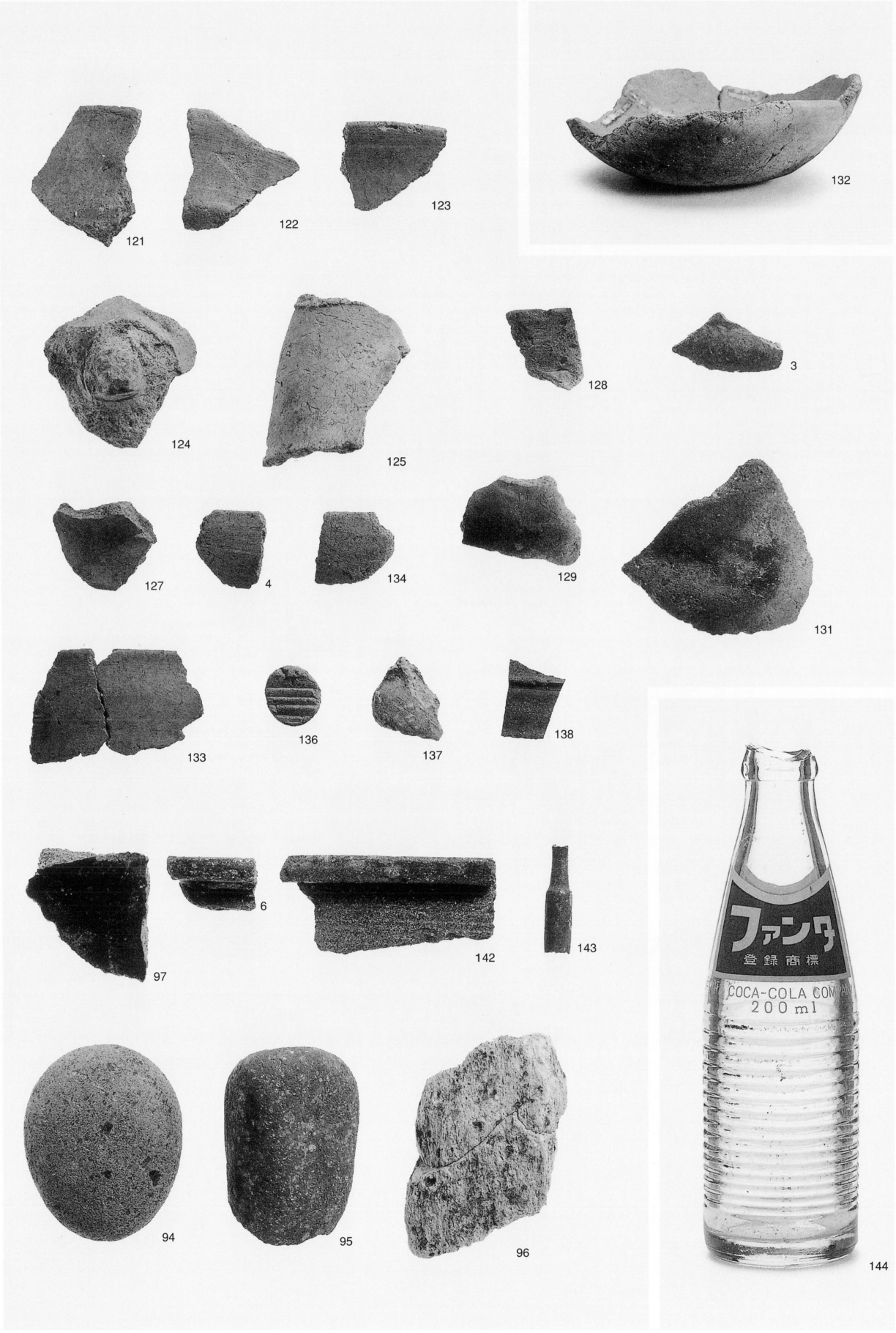
120

119

117


118

図版10　浜場遺跡　成川式土器・土師器・須恵器・石器・近世陶器・現代遺物



報　告　書　抄　録

ふりがな	はまばいせき・しもぼりいせき　（くさのにきちく）
書名	浜場遺跡・下堀遺跡　（草野２期地区）
副書名	県営半島基幹農道整備事業　草野２期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	3
編著者名	出口順一朗・中水忍
編集機関	志布志市教育委員会
所在地	〒899－7192 鹿児島県志布志市志布志町志布志２丁目１番１号　TEL099－472－1111
発行年月日	２００９年２月２７日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はまばいせき 浜場遺跡	かごしまけんしぶしし 鹿児島県志布志市 ありあけちょうのがみ 有明町野神 あざはまば 字浜場	462217	69－128	31° 47′ 92″	130° 98′ 72″	確認調査 20070717 ～ 20070816 全面調査 20071119 ～ 20080307 報告書作成 20080401 ～ 20090227	確認調査 51 ㎡ 全面調査 1,398 ㎡	農道整備事業
しもぼりいせき 下堀遺跡	かごしまけんしぶしし 鹿児島県志布志市 ありあけちょうのがみ 有明町野神 あざしもぼり 字下堀	462217	69－127	31° 48′ 16″	130° 99′ 56″	確認調査 20070717 ～ 20070816 報告書作成 20080401 ～ 20090227	確認調査 17 ㎡	農道整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	主な遺構	特記事項
浜場遺跡	散布地	縄文時代早期 古墳時代	前平式・加栗山式 石坂式・手向山式 塞ノ神式・苦浜式 石鏃・剥片 成川式土器 土師器・須恵器	集石・柱穴 掘立柱建物・柱穴 溝状遺構・土坑	石鏃製作場跡
下堀遺跡	散布地		なし	なし	

要約	浜場遺跡：出土数は少ないが縄文時代早期前葉から後葉末にかけての土器群が確認され、姫島産と思われる黒曜石製の石鏃・剥片が多数出土し、一部の石鏃・剥片は一定範囲に密な状態での分布が確認された。
	下堀遺跡：今回の調査においては遺物・遺構とも確認できず、事業対象区域内において遺跡は存在しないことがわかった。

お わ り に

平成19年度。志布志市は南国であり、世は地球温暖化が叫ばれる中、朝現場に出てみると厚い霜柱が現場一面を覆い、日陰の霜は削ってもまた再生してくる。11月から着手して、越冬の現場運営でした。調査にあたり調査地周囲の畑地を耕作される方々の多大なるご協力をいただき、無事に調査が３月に終了。気付けば周りの風景は春の彩りを迎えようとしていました。

現場で埋蔵されている遺物・遺構に向かい合っているうちに、自然は少しずつ春を迎える準備をしていた。その自然の中に埋蔵された遺物・遺構を自然の中で調査し、現場を間もなく終えようとする中で、春の息吹と祝福を感じ、励まされたことを思い出します。

いずれは寿命と共に土に返る身であることは当然のことですが、そのときは土に返り自然の中に同化して、自然の一部となって周りを励ます存在になりたいものだと思います。

結びに、確認調査、全面調査、整理作業、報告書作成に携わってくれた作業員や臨時職員のみなさん、その他関係してくださった皆様にこの場をお借りして謝意と賛辞を述べたい。本当にありがとうございました。

（３０代最後の春に…　Ｊ．Ｄ）

志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（３）

浜場遺跡・下堀遺跡
（草野２期地区）

発行日：２００９年2月２７日
発　行：鹿児島県志布志市教育委員会
〒899-7192　鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目１番１号
℡０９９－４７２－１１１１
印刷所：西文社印刷株式会社　志布志支店
〒899-7103　鹿児島県志布志市志布志町志布志二丁目16番21号
℡０９９－４７１－１３２８